



ANNUAL REPORT

2017年度 (平成29年度)

vol.4



SAISEIKAI

OTARU
HOSPITAL



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会小樽病院

平成29年度年報 目次

巻頭言	1	事務部	65
理念・基本方針・沿革・施設概要・組織図	2	・総括	65
I 年間主要行事		・総務課	66
平成29年度 年間行事	6	・経理課	68
年度表彰	10	・施設用度課	69
・永年勤続	10	・医事課	70
・平成29年度 接遇大賞	10	・医療クラーク課	72
II 診療実績		・健康診断課	74
外来患者数	11	・地域医療支援課	75
紹介率・逆紹介率	14	・情報システム課	77
診療科別救急患者数	14	各委員会・診療チーム	78
入院	15	・平成29年度 委員会一覧	78
手術	18	・NST委員会	79
学生受け入れ	19	・院内感染予防対策委員会	81
・診療部	19	・医療安全管理対策委員会	83
・医療技術部	20	・褥瘡対策委員会	86
・看護部	21	・クリニカルパス委員会	87
・事務部	21	・患者サービス検討委員会	88
III 部門報告		・広報委員会	89
診療部	22	・内分泌・糖尿病診療センター	90
・総括	22	・緩和ケアチーム	91
・内科・消化器内科	23	IV 教育・研究報告	
・循環器内科	25	済生会屋根瓦研修	95
・神経内科	26	地域研修	96
・外科・消化器外科	27	認知症支援ナース育成研修	99
・整形外科	28	アドバンス・マネジメント研修Ⅱ	99
・泌尿器科	29	論文発表	100
医療技術部	30	著書	100
・総括	30	学会・研究発表	101
・薬剤室	31	教育研究報告	105
・臨床検査室	34	新聞掲載	105
・放射線室	36	講義	106
・リハビリテーション室	38	講演	107
・栄養管理室	40	座長	109
・臨床工学室	43	認定資格	110
看護部	45	V 職員福利厚生会	
・総括	45	総括	113
・3A病棟	47	部活動	114
・3B病棟	49	・野球部	114
・4A病棟	51	・ソフトボール部	115
・4B病棟	53	・フットサル部	116
・5B病棟	55	・写真部	117
・外来看護課	58	院内保育所「なでしこキッズクラブ」	118
・透析看護課	60	売店・食堂	120
・手術センター	62	あとがき	121
・教育看護課	63		



2017年度 年報発刊にあたり

病院長 和田 卓郎

第4号になる2017年度北海道済生会小樽病院年報をお届けするにあたり、ご挨拶させていただきます。

2017年度は、翌年度の医療・介護報酬同時改定、DPC対応病院への移行の対応に追われました。私にとっては、近藤真章先生から院長を引き継いだ最初の1年でした。副院長時代には想像もできなかった目が回るような忙しさの中、気がついたらもう3月という感じでした。

財務に関しましては、2017年度のサービス活動収支は残念ながら大きな赤字を計上しました。法人会計監査制度の導入に伴い病院新築の減価償却費の過年度修正がなされたこと、また、費用が増加したことが原因です。収益増はもちろんのこと、業務の効率化による費用の削減に取り組んでいきたいと考えています。

一方、人材育成の面では2つの大きな前進がありました。2018年度の新専門医制度の開始に向けて、当院を基幹施設とする「北海道後志圏 専門医制度 内科専門医研修プログラム」が専門医機構から承認されました。札幌医大病院、小樽後志地区の病院と連携して、北海道ひいては日本の地域医療を支える内科専門医育成を目指す特色あるプログラムです。2018年4月から内科専攻医1名が研修を行っています。もう一つは、看護師の特定行為研修を行う指定研修施設に認定されたことです。北海道では3番目、済生会でも東部病院、中央病院に次ぐ3番目の施設認定です。医師の判断を待たずに、手順書のもと、一定の診療の補助を行う看護師を育成する制度です。特定行為看護師は、国が目指す地域包括ケアシステムのもと今後の在宅医療を重要な担い手です。地域で活躍する優れた医師と看護師を育成するひとつの基盤ができたと考えています。

2020年8月に重症心身障害児（者）施設「みどりの里」が新築移転し、済生会小樽病院と統合します。統合により、医療・福祉の一体的提供体制の強化が期待され、当院にとっては重要な成長戦略と位置付けております。2018年度は基本設計、実施設計入札などその準備が本格化します。同時に医療の質、サービスの向上、人材育成、財務の健全化には引き続き努めてまいります。患者さんが医療、サービスを素晴らしいと感じ、職員がやりがいと誇りを持って働ける済生会小樽病院を目指して行きます。皆さまのご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

————— 法 人 の 理 念 —————

「施薬救療の精神」

(分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべる)

————— 済生会小樽病院の理念 —————

新たな地域医療の創造と社会貢献

患者中心、患者主体の医療

人を大切にする組織

————— 基 本 運 営 方 針 —————

1. 急性期から回復期へ一貫した医療
2. 断らない医療
3. 地域包括ケアシステム構築
4. 無料低額診療事業の推進
5. 地域に必要な医療人の育成
6. 研究活動を支える環境整備
7. 医療・経営の可視化



すべてのいのちの虹になりたい

済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44（1911）年に設立しました。100年以上にわたる活動をふまえ、今、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約60,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を **済**（すく）う
- 医療で地域の **生**（いのち）を守る、
- 医療と福祉、**会**を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇……悩むすべてのいのちの虹になりたい。
済生会はそう願って、いのちに寄り添い続けます。

生活困窮者支援の積極的推進

済生会設立の目的は、生活に困っている人を医療で助けることです。

生活保護受給者をはじめ、経済的に困っている人の医療費を無料にしたり減額したりする「無料低額診療事業」を積極的に行っています。平成25年度は延べ192万人が対象となりました。

済生会生活困窮者支援「なでしこプラン」を実施しています。対象者をホームレスやDV被害者、刑務所出所者、外国人等へも広げ、訪問診療、健康診断、予防接種等を無料で行う事業で、平成25年度は延べ13万人に実施しました。事業名の「なでしこ」は本会の紋章に由来しています。

さらに、済生丸が離島を回って診療を行う瀬戸内海巡回診療など、離島やへき地での医療にも力を注いでいます。

最新の医療で地域に貢献

済生会は、いのちの面から地域を支えます。最新の医療機器、高度な技術、手厚い看護。超急性期から亜急性期、慢性期・リハビリと段階に合わせて対応し、常に患者の立場に立った医療を提供します。

災害時には地域を越えてスタッフを派遣。救命救急から慢性期、そして生活再建に向けた心のサポートまで、緊急時も段階に合わせた支援活動を展開しています。

医療と福祉、切れ目なく

医療と福祉は密接な関係にあります。済生会は医療・保健・福祉を総合して提供できる団体です。全組織が連携し、施設・設備・人というすべての資源を動員して切れ目のない、シームレスなサービスを提供しています。

そして、高齢者や子どもたち、障害者が当たり前になり、共に生きる地域づくりに貢献します。

病院の沿革

大正13年 7月	済生会小樽診療所開設「小樽市手宮1丁目6番地」
昭和27年12月	社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽北生病院開院 病床数22床5科(内科、小児科、外科、産婦人科、眼科)
昭和30年 1月	増床(62床 一般32床、結核30床)
昭和30年 9月	北海道済生会小樽北生病院附属 准看護婦養成所 併設
昭和32年 4月	病院の一部焼失
昭和32年 7月	病棟、管理棟増改築(33年棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階2139.56㎡ 増床(185床)
昭和36年 1月	整形外科開設
昭和40年11月	病棟、管理棟増改築(南棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階3023.65㎡
昭和41年 4月	皮膚・泌尿器科開設
昭和48年12月	乳児保育所併設
昭和51年 7月	増床(277床 一般140床、結核31床、老人106床) 耳鼻咽喉科開設
昭和55年 4月	人工透析開始(268床)
昭和56年 9月	結核病棟廃止(237床)
昭和58年 1月	増床(311床 一般131床、老人180床)
昭和59年 2月	病棟、管理棟増改築(北棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階塔屋付4252.45㎡
平成 2年10月	看護師宿舎増改築
平成 5年 6月	病棟、管理棟増改築(中央棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上5階塔屋付2803.59㎡
平成 6年 5月	麻酔科増設
平成10年10月	循環器内科開設 小児科廃止
平成13年12月	一部療養病床へ転換(289床 一般245床、療養44床)
平成14年 4月	MRI(1.5テスラ)導入
平成14年10月	社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院に名称変更
平成15年 3月	北海道済生会小樽病院附属 准看護師養成所 閉校
平成15年10月	体外衝撃波結石破碎装置導入
平成15年11月	皮膚科廃止
平成16年 4月	神経内科開設
平成17年 3月	産婦人科廃止、眼科廃止
平成18年 6月	院内全面禁煙開始
平成18年 9月	一般病床入院基本料10対1取得 マルチスライスCT(16列)導入
平成20年 7月	療養病床から回復期リハビリテーション病棟へ変更(44床から42床へ) 回復期リハビリテーション入院料2取得(42床)
平成21年 1月	回復期リハビリテーション入院料1取得
平成21年 7月	医療画像管理システム(PACS)導入
平成22年 9月	臨床研修病院(協力型)に指定
平成23年12月	新病院建築工事着工
平成24年 7月	MRIバージョンアップ
平成24年 9月	オーダーリングシステム運用開始
平成24年10月	マルチスライスCT(64列)に更新
平成25年 2月	一般病床入院基本料7:1取得
平成25年 8月	北海道小樽市築港10番1に移転。延17704.29㎡。許可病床数、一般258床(うち回復期リハビリ病床50床)。婦人科(女性診療科)新設。電子カルテ運用開始。
平成26年 4月	指定居宅介護支援事業所はまなす併設
平成26年10月	地域包括ケア病棟(53床)開設
平成27年 4月	地域ケアセンター併設・小樽市南部地域包括支援センター事業開始

病院概要

名 称	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
所 在 地	〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号
電 話 / FAX	電話番号: 0134-25-4321 FAX番号: 0134-25-2888
管 理 者	病院長 和田 卓郎
病 院 種 別	一般病院
敷 地 面 積	19,147.41平方メートル
延 べ 床 面 積	17,704.29平方メートル (鉄筋コンクリート造、病院棟5階建て、エネルギー棟2階建て)
駐 車 ス ペ ー ス	147台
そ の 他 施 設	保育施設
許 可 病 床 数	一般病床 258床(地域包括ケア病棟53床、回復期リハビリテーション病棟50床)
診 療 科 目	内科 消化器内科 循環器内科 神経内科 外科 消化器外科 整形外科 泌尿器科 婦人科 耳鼻咽喉科 放射線科 リハビリテーション科
外 来 診 療 時 間	【受付】 (午前の部) 8時50分～11時30分 (午後の部) 12時30分～16時30分 【診療時間】 (午前の部) 9時00分～12時30分 (午後の部) 13時30分～17時10分
面 会 時 間	【平日・土曜】 13時00分～20時00分 【日曜・祝日】 10時00分～20時00分

認定施設一覧

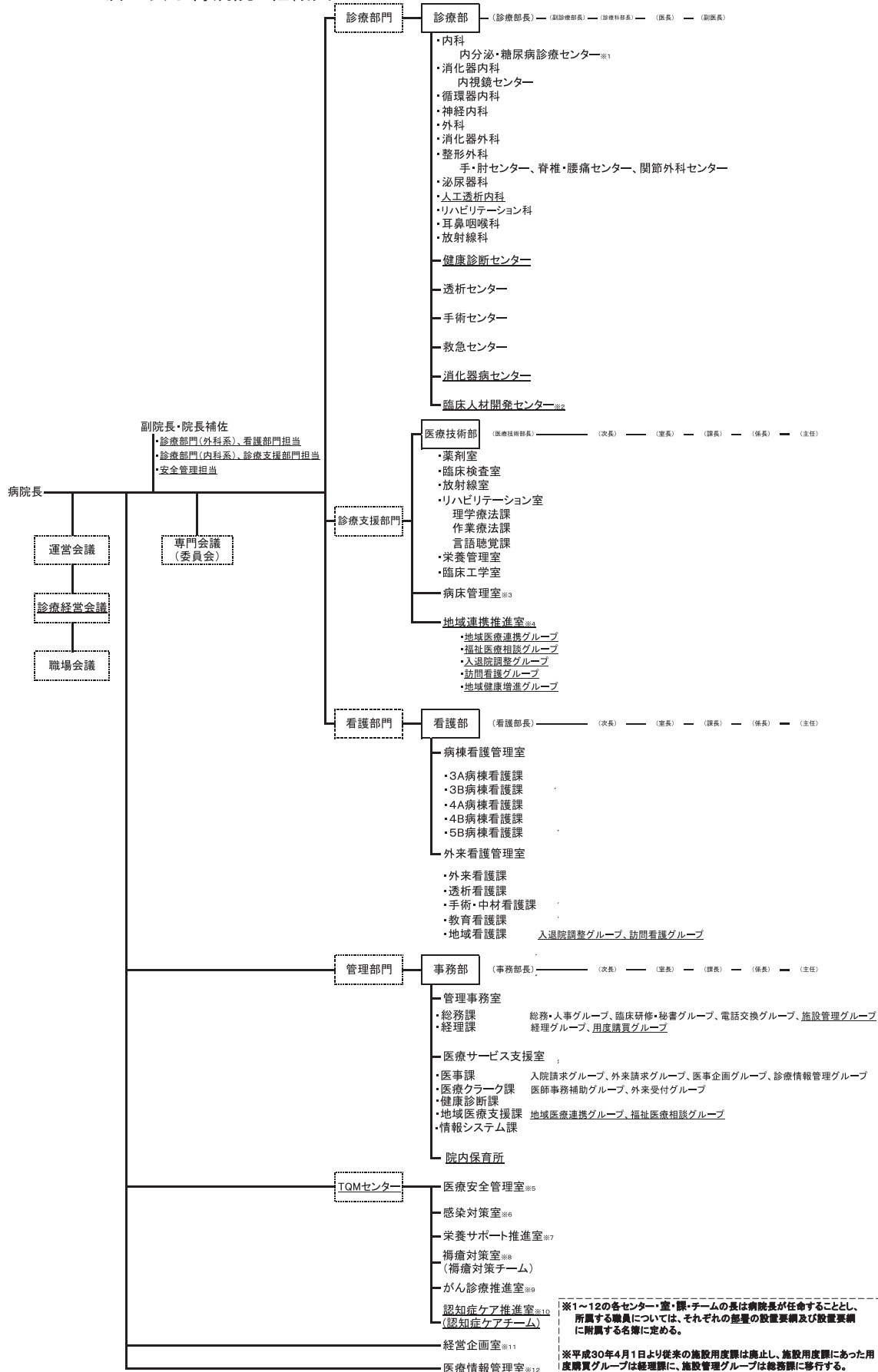
- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本神経学会教育施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会基幹研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士認定規則 実地修練認定教育施設
- ・JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設

※病院概要については平成30年3月31日時点に掲載

組織図

平成30年4月1日付

済生会小樽病院 組織図



※1～12の各センター・室・課・チームの長は病院長が任命することとし、所属する職員については、それぞれの設置要綱及び設置要綱に附属する名簿に定める。
 ※平成30年4月1日より従来の施設用度課は廃止し、施設用度課にあった用度購買グループは経理課に、施設管理グループは総務課に移行する。

I 年間主要行事

平成29年度 年間行事

4月	3日(月)	辞令交付式	
	3日(月)～5日(水)	新採用者研修会	
	10日(月)	和田 卓郎 新病院長 就任挨拶	
	13日(木)	近藤 真章 名誉院長 称号授与式	
	17日(月)	集談会 輸血後感染症の検査状況について	
	18日(火)	経営会議	
	25日(火)	献血車来院	
	27日(木)	支部監査(平成28年度決算監査・業務監査)	
5月	9日(火)	メタボリッククラブ	
	10日(水)	ふれあい看護体験	
	16日(火)	経営会議	
	23日(火)	認知症ケアチーム研修会 認知症の基礎知識	
	25日(木)	職場体験(長橋中学校)	
	30日(火)	職員福利厚生会総会	
	31日(水)	職場体験(青園中学校)	
6月	1日(木)～28日(水)	初期臨床研修地域医療(山形済生病院初期臨床研修医1名)	
	7日(水)	済生会支部 特別講演 演題:川柳に詠まれた江戸の医療～それから考える現在の医療と北海道済生会～ 講師:北海道済生会 支部長 城 守 様	
	9日(金)	院内ロビーコンサート 第19回 健康セミナー スポーツセミナー ～肩・膝の障害・予防について～	
	13日(火)	メタボリッククラブ	
	14日(水)	緩和ケア特別セミナー 演題:How can we understand depression in cancer patients? (がん患者のうつをどう理解するか) 演者:スイスローザンヌ大学医学部精神医学教授 Friedrich Stiefel (フリードリッヒ スティエフィル) 様	
	19日(月)	集談会 抗がん剤治療における電子カルテ 看護記録のテンプレートについて	
	20日(火)	経営会議	
	30日(金)	NST地域連携懇話会 演題:口腔機能向上への援助法 演者:北海道歯科衛生士会 小樽支部長 角野 裕子 様 演題:口腔ケアを考える 演者:小樽市歯科医師会 副会長 加藤 友一 様	
	7月	3日(月)～27日(木)	初期臨床研修地域医療(山形済生病院初期臨床研修医1名)
		4日(火)	職員福利厚生会 新人歓迎会並びに春の宴
5日(水)		平成29年度 済生会本部内部監査	
11日(火)		メタボリッククラブ	
18日(火)		経営会議 第321回 小樽胃と腸を診る会	
19日(水)		第16回 市民公開健康セミナー 日本人の二人に一人が「がん」になる時代、「がん」を理解し、より良く生きるための知識 演題:がんを知る。おそれず、ゆだんせず 演者:内科・消化器内科部長 明石 浩史 様 演題:がんになっても自分らしく、あなたらしく 演者:緩和ケア認定看護師 石渡 明子 様	
20日(木)		中途採用者研修会 認知症ケアチーム研修会 優しさを伝えるケア技術 エマニチュート	
25日(火)		札幌医科大学附属病院 病院長 山下 敏彦 様 特別講演会 演題:脊髄再生医療 ～脊損患者さんの機能回復をめざして～	
29日(土)		職員福利厚生会 潮ねりこみ参加	
31日(月)		インターンシップ(小樽潮陵高校)	
8月	1日(火)	開院記念日	
	2日(水)～12日(土)	初期臨床研修地域医療(済生会吹田病院初期臨床研修医1名)	
	5日(土)～6日(日)	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	
	8日(火)	メタボリッククラブ	
	16日(水)	看護部インターンシップ(小樽桜陽高校3年10名)	
	21日(月)	集談会 野球肘について(特に外側型について)	
	26日(土)	コメディカルツアー	
	31日(木)	接遇研修会 演題:医療従事者に求められる接遇対応「患者さんは何を求めているか」 講師:スズケン株式会社愛生館営業部 日本医業コンサルタント 岩崎 俊一 様	
9月	3日(日)	済生会 東北・北海道ブロック親善ソフトボール大会	
	4日(月)	医療安全セミナー 第1部:チーム医療におけるAiの活用 第2部:医療事故調査制度の現状(事例を交えて)	
	8日(金)	認知症ケアチーム研修会 尊厳ある認知症患者さんへの対応	
	12日(火)	メタボリッククラブ	
	15日(金)	BLS研修	
	19日(火)	経営会議	
	19日(火)～21日(木)	監査法人トーマツによる法定監査	

	20日(水)	第17回 市民公開健康セミナー 乳がんを早期発見するために！ 演 題：乳がん検診のすすめ 演 者：札幌医科大学附属病院 消化器・総合・乳腺・内分泌外科 助教 島 宏影 様 演 題：自己検診のすすめ ～わたし 乳がんかも？ 演 者：緩和ケア認定看護師 石渡 明子 様
	24日(日)	済生会健康フェスタ
10月	10日(火)	メタボリッククラブ
	11日(水)	防火訓練
	12日(木)	中途採用者研修会
	13日(金)	東北北海道ブロック中堅看護師研修
	16日(月)	集談会「医療メディエーション」って何？～患者さんとの対話を円滑にする為に～
	17日(火)	経営会議
	20日(金)	衆議院議員選挙 不在者投票
	23日(月)	BLS研修
	27日(金)	緩和ケアチーム講演会 緩和ケアにおける不眠症治療講演会 演 者：独立行政法人 国立病院機構 北海道がんセンター 緩和ケア内科医長 松山 哲晃 様
11月	4日(土)	第17回 市民公開健康セミナー あなたの関節大丈夫？ 手・肘・肩の病気を学ぼう 演 題：医師から見た 手・肘・肩の病気と怪我 演 者：済生会小樽病院 病院長 和田 卓郎 様 演 題：手・肘・肩のリハビリテーションについて 演 者：作業療法士 山中 佑香 様 理学療法士 齋藤 透 様
	7日(火)	院内感染対策講習会
	11日(土)	小樽後志静脈経腸栄養講演会
	13日(月)	BLS研修
	13日(月)	済生会熊本病院 DPC講演会
	14日(火)	メタボリッククラブ
	21日(火)	経営会議
	22日(水)	職場体験(善園中学校)
	28日(火)	倫理研修会 認知症ケアチーム研修会 演 題：尊厳ある認知症患者さんへの対応 ～第2章～ 演 者：富山病院・兵庫県病院 認知症看護認定看護師
	29日(水)～30日(木)	院内QC大会
12月	1日(金)	院内QC大会
	5日(火)	献血車来院
	9日(土)	院内ロビーコンサート
	12日(火)	メタボリッククラブ
	13日(水)	平成30年度 診療報酬改定にかかる講演会 演 題：次期診療報酬改定全般と病院部分におけるポイント 演 者：株式会社スズケンお得意様サポート部副部長 岡山 幸司 様
	14日(木)	永年勤続表彰式並びに福利厚生会忘年会
	16日(土)	保育所クリスマス発表会
	18日(月)	集談会 脳梗塞の分類と二次予防
	19日(火)	経営会議
	21日(木)	札幌医大 教授講演会 演 題：GID性同一障害って何？ 演 者：札幌医科大学 泌尿器科教授 舩森 直哉 様
	28日(木)	仕事納め
1月	4日(木)	仕事始め 病院長年頭挨拶
	9日(火)	メタボリッククラブ
	11日(木)	中途採用者研修会
	13日(土)	職員福利厚生会ボーリング大会
	16日(火)	経営会議
	26日(金)	QC札幌大会 札幌コンベンションセンター 当院より3チーム参加
	30日(火)	BLS研修
2月	13日(火)	メタボリッククラブ
	14日(水)	トーマツ追加往査
	18日(日)	第70回 済生会学会・平成29年度 済生会総会 (於、福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡)
	19日(月)	集談会 当院の血液透析導入患者の動向
	20日(火)	経営会議
	27日(火)	医療安全セミナー 演 題：記録の重要性・モンスター患者への対応 演 者：佐々木総合法律事務所 弁護士・医師 福田 友洋 様
3月	1日(木)	BLS研修
	5日(月)	札幌整形外科懇話会 演題①：人工関節置換術後の新規深部静脈血栓症の発生予測における下肢静脈エコーの有用性 演 者：手稲溪仁会病院 循環器内科部長 湯田 聡 様 演題②手・足の骨軟部腫瘍、腫瘍類似疾患 演 者：大阪大学 理事・副学長 吉川 秀樹 様
	6日(火)	感染対策講習会 ①これまでの当院コンサル事例から当院の感染対策について 札幌医科大学附属病院 感染管理認定看護師 西 朝江 様 ②医療ガス取扱講習会 北海道エア・ウォーター株式会社 様
	7日(水)	平成29年度 本部永年勤続表彰伝達式
	8日(木)	糖尿病セミナー
	13日(火)	メタボリッククラブ
	22日(木)	病院送別会
	30日(金)	経営会議

新病院長 就任挨拶 4.10



名誉院長称号授与式 4.13



新採用者研修 4.3~4.5



市内高校生ふれあい看護体験 5.10



スイスローザンヌ大学 スティーフェル教授
緩和ケア特別講演会 7.5



市民公開健康セミナー ～健康と安心のまちづくり～
7.19 9.20 11.4



潮まつり 7.29



高校生向けコメディカル体験ツアー 8.26



防災の日 9.1



済生会健康フェスタ 9.24



東北北海道ブロック中堅看護師研修 10.13



院内QC大会 11.29~12.1



海難救助表彰 12.12



ボウリング大会 1.22



年度表彰

●永年勤続

30年表彰	上野 誠子 石山 聖子	薬剤室長 看護師
20年表彰	森 喜弘 金澤ひかり 高橋明日美 杉崎 美香 松木まさき 永坂かおる 豊川 哲康 西澤 辰子	循環器内科部長 病棟看護管理室長 事務部長付事務課長 看護係長 看護師 看護師 ボイラー技士 看護助手
10年表彰	大田 隆広 佐野 舞 金田智香子 伝法 俊和 葛西 淳子	情報システム課事務課長 看護主任 看護師 事務職員 事務職員



●平成29年度 接遇大賞

「職員間投票」 大賞1名、準大賞2名

大賞 山本 信さん (3A病棟)

準大賞 前田 亨さん (3A病棟)

豊川 哲康さん (施設用度課)

「患者投票」 大賞1名のみ

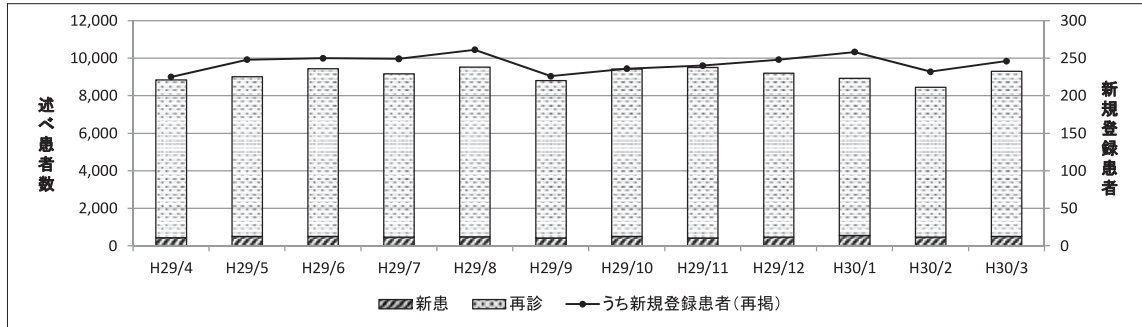
大賞 佐野 舞さん (透析科)

Ⅱ 診療実績

外来患者数

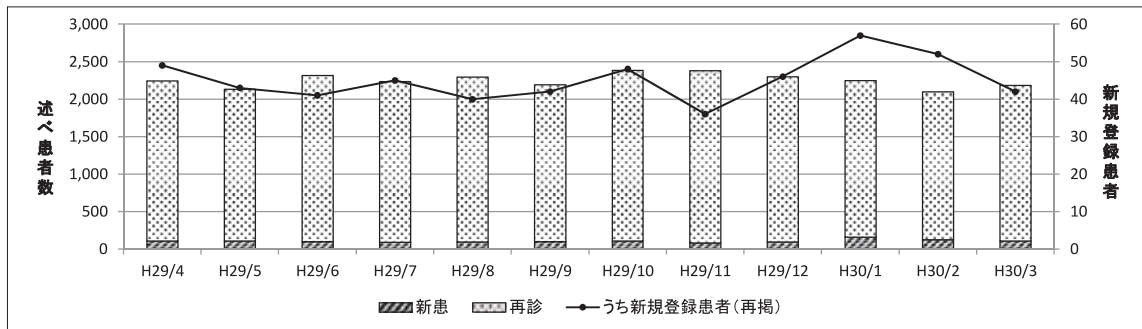
全体

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
再診	8,410	8,504	8,922	8,695	9,031	8,390	8,927	9,086	8,719	8,377	7,984	8,792	103,837
新患	435	506	516	469	495	433	500	427	476	562	480	515	5,814
うち新規登録患者(再掲)	225	248	250	249	261	226	236	240	248	258	232	246	2,919
述べ患者数	8,845	9,010	9,438	9,164	9,526	8,823	9,427	9,513	9,195	8,939	8,464	9,307	109,651



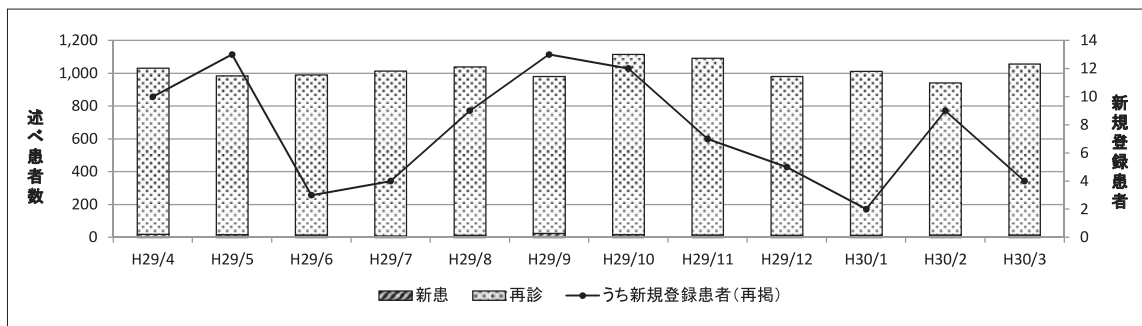
内科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
再診	2,138	2,023	2,216	2,145	2,204	2,095	2,275	2,295	2,205	2,088	1,973	2,073	25,730
新患	107	109	103	91	93	99	108	84	94	159	123	111	1,281
うち新規登録患者(再掲)	49	43	41	45	40	42	48	36	46	57	52	42	541
述べ患者数	2,245	2,132	2,319	2,236	2,297	2,194	2,383	2,379	2,299	2,247	2,096	2,184	27,011



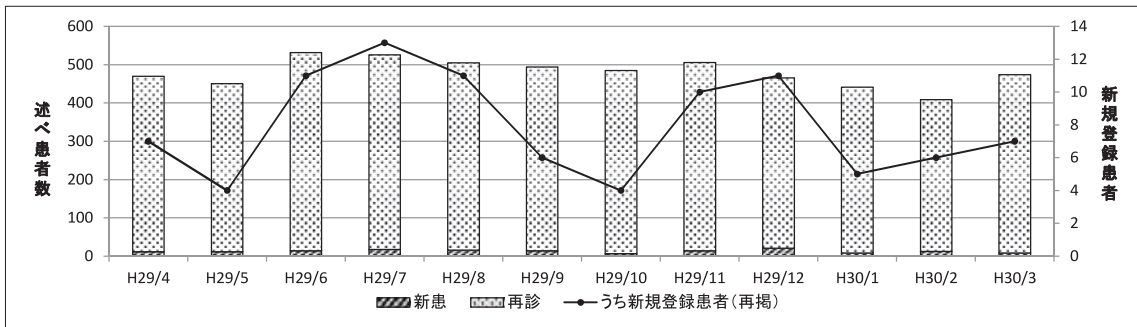
循環器内科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
再診	1,013	968	975	1,004	1,026	957	1,097	1,077	969	1,000	926	1,043	12,055
新患	19	17	15	10	14	25	18	15	12	12	15	15	187
うち新規登録患者(再掲)	10	13	3	4	9	13	12	7	5	2	9	4	91
述べ患者数	1,032	985	990	1,014	1,040	982	1,115	1,092	981	1,012	941	1,058	12,242



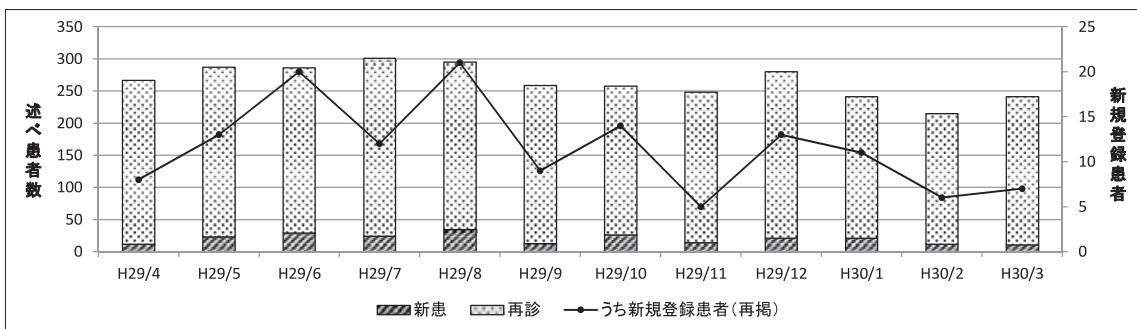
神経内科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
再診	458	439	518	508	489	481	478	492	445	433	396	465	5,602
新患	12	12	14	18	16	14	7	14	21	9	13	9	159
うち新規登録患者(再掲)	7	4	11	13	11	6	4	10	11	5	6	7	95
述べ患者数	470	451	532	526	505	495	485	506	466	442	409	474	5,761



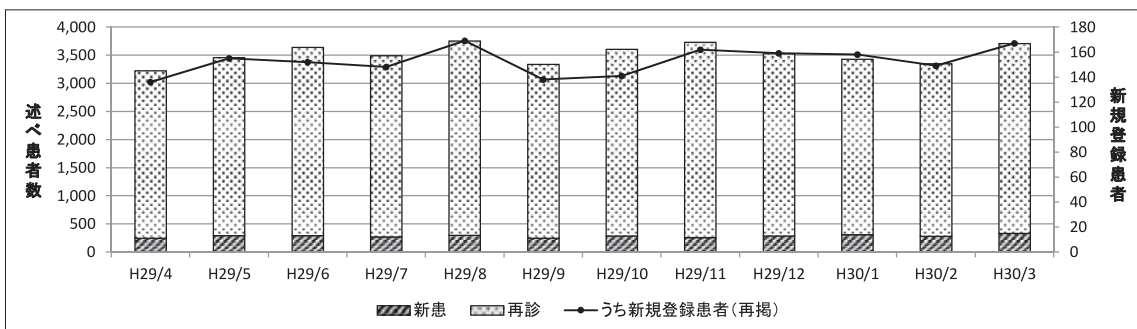
外科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
再診	255	264	257	277	260	246	232	234	259	220	203	230	2,937
新患	12	23	29	24	35	13	26	14	21	21	12	11	241
うち新規登録患者(再掲)	8	13	20	12	21	9	14	5	13	11	6	7	139
述べ患者数	267	287	286	301	295	259	258	248	280	241	215	241	3,178



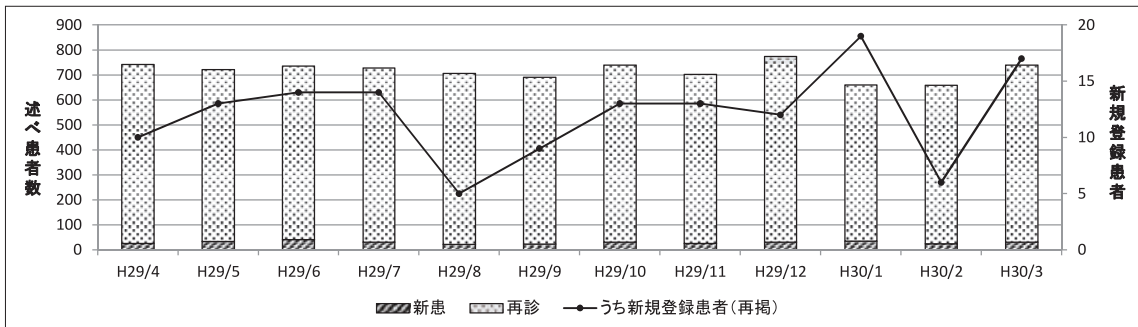
整形外科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
再診	2,977	3,168	3,347	3,222	3,459	3,096	3,313	3,471	3,236	3,116	3,066	3,377	38,848
新患	245	294	293	272	297	245	292	262	292	311	284	332	3,419
うち新規登録患者(再掲)	136	155	152	148	169	138	141	162	159	158	149	167	1,834
述べ患者数	3,222	3,462	3,640	3,494	3,756	3,341	3,605	3,733	3,528	3,427	3,350	3,709	42,267



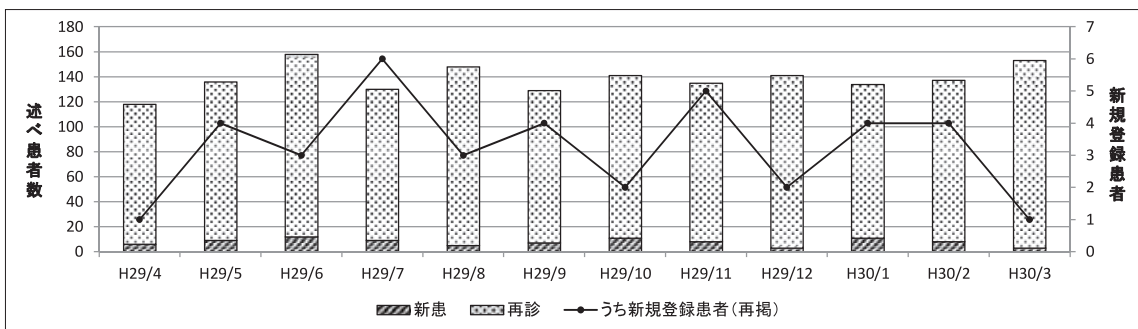
泌尿器科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
再診	716	688	695	696	684	667	708	677	742	626	634	709	8,242
新患	26	34	41	32	23	24	32	26	32	35	25	31	361
うち新規登録患者(再掲)	10	13	14	14	5	9	13	13	12	19	6	17	145
述べ患者数	742	722	736	728	707	691	740	703	774	661	659	740	8,603



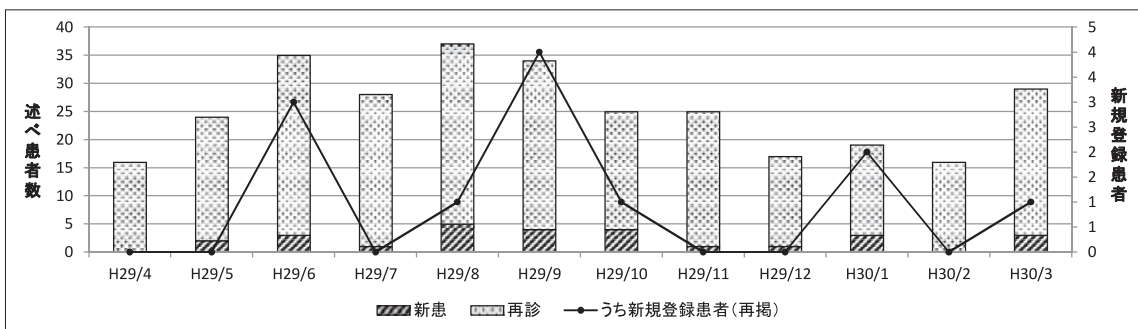
耳鼻咽喉科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
再診	112	127	146	121	143	122	130	127	138	123	129	150	1,568
新患	6	9	12	9	5	7	11	8	3	11	8	3	92
うち新規登録患者(再掲)	1	4	3	6	3	4	2	5	2	4	4	1	39
述べ患者数	118	136	158	130	148	129	141	135	141	134	137	153	1,660



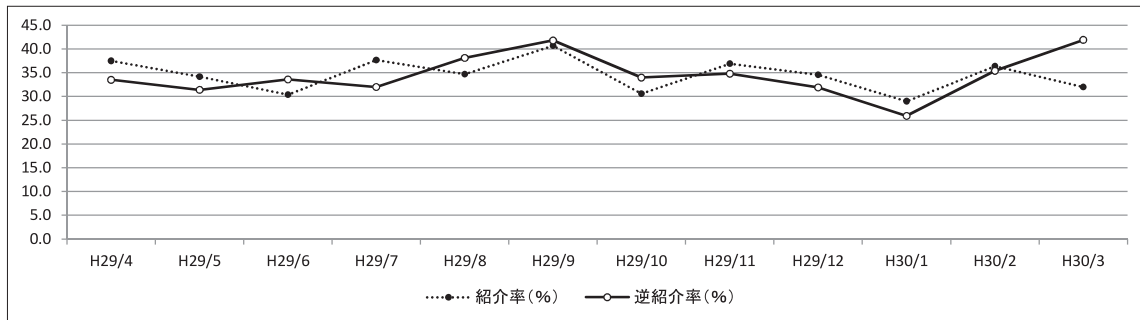
婦人科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
再診	16	22	32	27	32	30	21	24	16	16	16	26	278
新患	0	2	3	1	5	4	4	1	1	3	0	3	27
うち新規登録患者(再掲)	0	0	3	0	1	4	1	0	0	2	0	1	12
述べ患者数	16	24	35	28	37	34	25	25	17	19	16	29	305



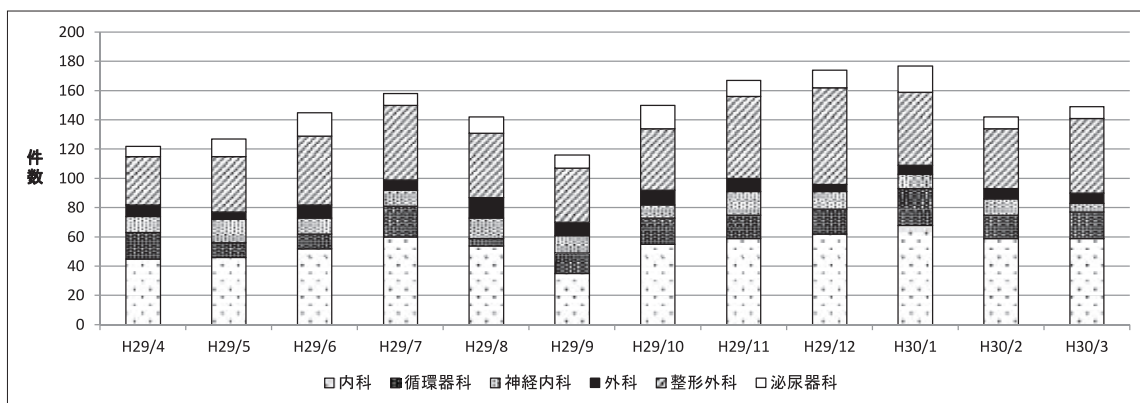
紹介率・逆紹介率

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
紹介率(%)	37.5	34.2	30.4	37.7	34.7	40.7	30.6	36.9	34.6	29.0	36.4	32.0	34.3
逆紹介率(%)	33.5	31.4	33.6	32.0	38.1	41.8	34.0	34.8	31.9	25.9	35.4	41.9	34.4



診療科別救急患者数

		H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
内科	外来	42	43	41	55	50	32	51	52	53	63	52	49	583
	入院	3	3	11	5	4	3	4	7	9	5	7	10	71
	合計	45	46	52	60	54	35	55	59	62	68	59	59	654
循環器科	外来	15	6	9	18	4	10	14	13	14	22	16	16	157
	入院	3	4	1	3	1	4	4	3	3	3	0	2	31
	合計	18	10	10	21	5	14	18	16	17	25	16	18	188
神経内科	外来	9	11	10	11	13	9	9	13	10	7	11	6	119
	入院	2	5	1	0	1	3	0	3	2	3	0	0	20
	合計	11	16	11	11	14	12	9	16	12	10	11	6	139
外科	外来	8	4	7	5	13	7	6	6	4	4	7	6	77
	入院	0	1	2	2	1	2	4	3	1	2	0	1	19
	合計	8	5	9	7	14	9	10	9	5	6	7	7	96
整形外科	外来	26	29	38	41	34	28	31	35	47	35	23	33	400
	入院	7	9	9	10	10	9	11	21	19	15	18	18	156
	合計	33	38	47	51	44	37	42	56	66	50	41	51	556
泌尿器科	外来	4	7	15	7	9	8	12	7	11	15	7	6	108
	入院	3	5	1	1	2	1	4	4	1	3	1	2	28
	合計	7	12	16	8	11	9	16	11	12	18	8	8	136
総計	122	127	145	158	142	116	150	167	174	177	142	149	1769	



入院

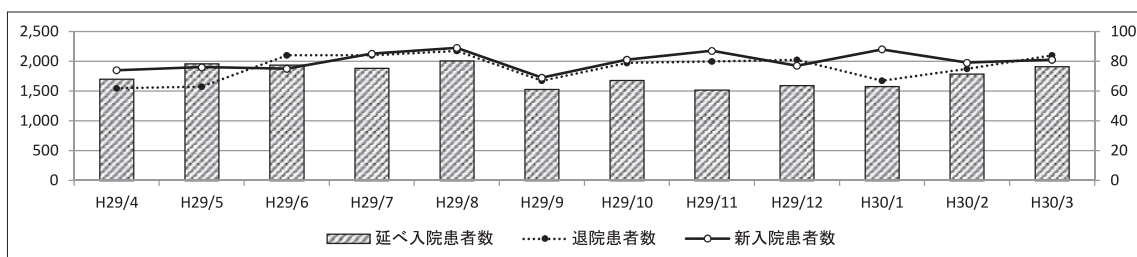
入院患者（病院全体）

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延べ入院患者数	6,192	6,390	6,514	6,878	6,773	6,304	6,407	6,273	6,741	6,423	6,377	7,055	78,327
退院患者数	219	221	244	254	266	235	259	262	299	226	238	277	3,000
新入院患者数	225	220	251	263	255	217	274	275	259	272	236	254	3,001

診療科別入院患者数

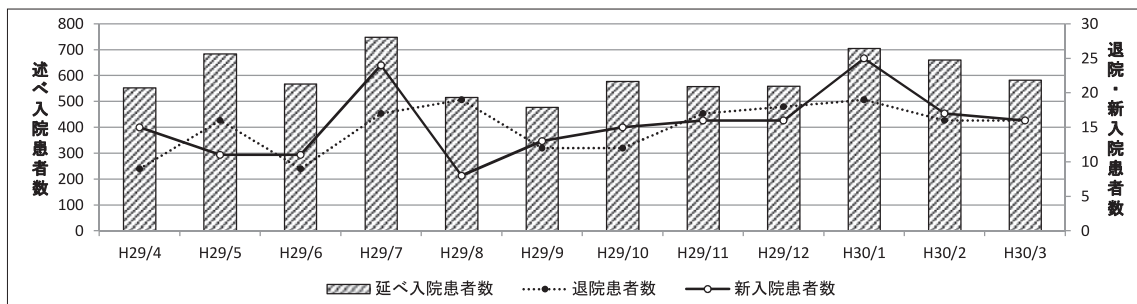
内科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延べ入院患者数	1,699	1,962	1,935	1,880	2,006	1,529	1,678	1,521	1,593	1,576	1,790	1,911	21,080
退院患者数	62	63	84	84	87	67	79	80	81	67	75	84	913
新入院患者数	74	76	75	85	89	69	81	87	77	88	79	81	961



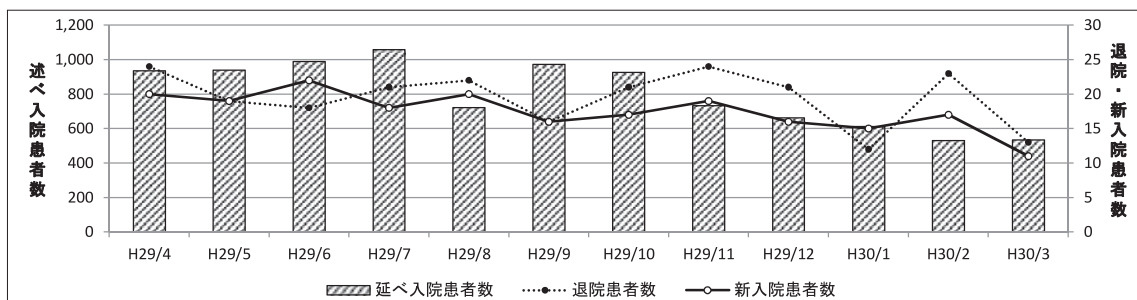
循環器科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延べ入院患者数	553	684	568	748	516	477	578	558	559	705	660	583	7,189
退院患者数	9	16	9	17	19	12	12	17	18	19	16	16	180
新入院患者数	15	11	11	24	8	13	15	16	16	25	17	16	187



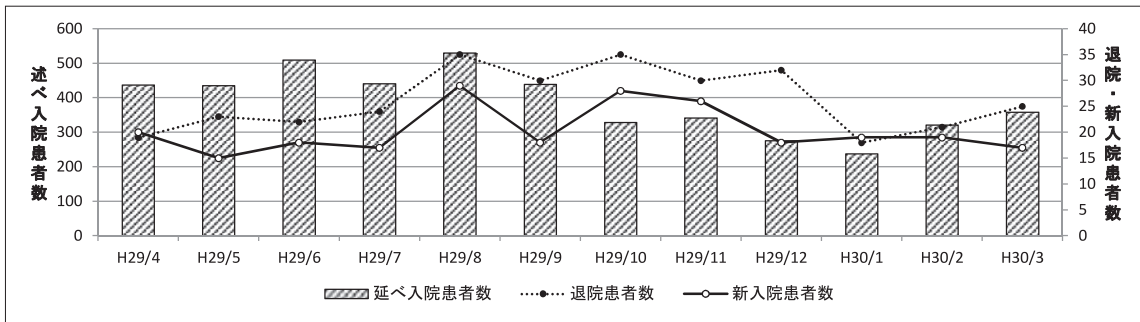
神経内科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延べ入院患者数	936	940	990	1,059	721	974	926	733	662	613	531	535	9,620
退院患者数	24	19	18	21	22	16	21	24	21	12	23	13	234
新入院患者数	20	19	22	18	20	16	17	19	16	15	17	11	210



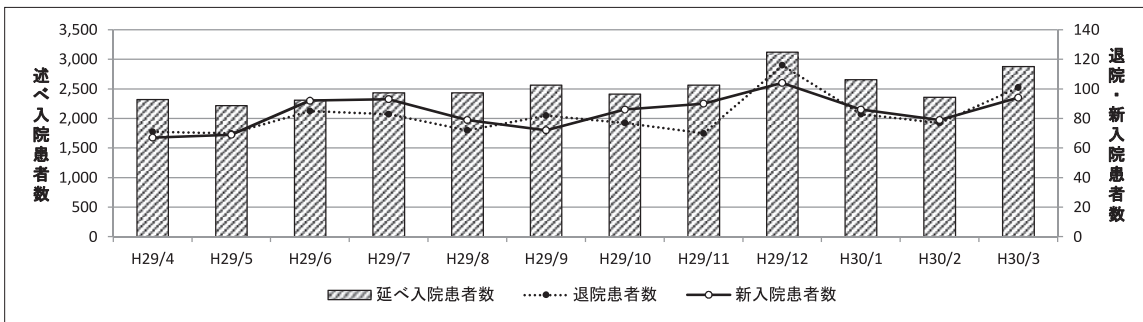
外科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延べ入院患者数	437	435	509	441	530	439	328	342	276	237	321	358	4,653
退院患者数	19	23	22	24	35	30	35	30	32	18	21	25	314
新入院患者数	20	15	18	17	29	18	28	26	18	19	19	17	244



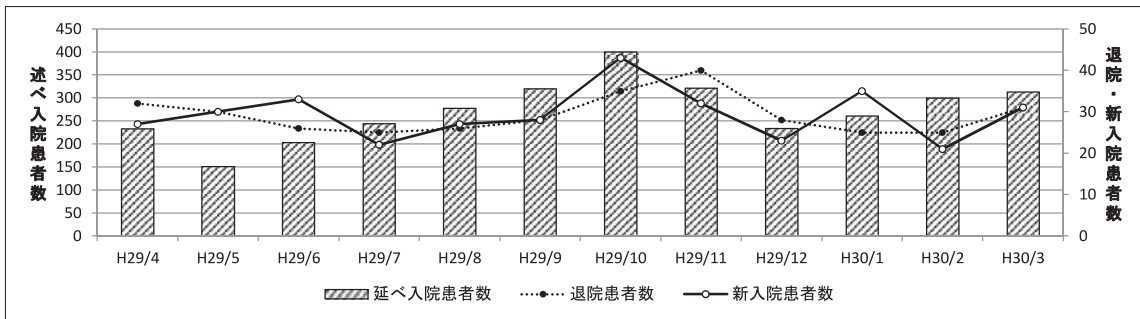
整形外科

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延べ入院患者数	2,320	2,218	2,309	2,436	2,437	2,562	2,415	2,561	3,123	2,656	2,361	2,881	30,279
退院患者数	71	70	85	83	72	82	77	70	116	83	77	101	987
新入院患者数	67	69	92	93	79	72	86	90	104	86	79	94	1,011



泌尿器科

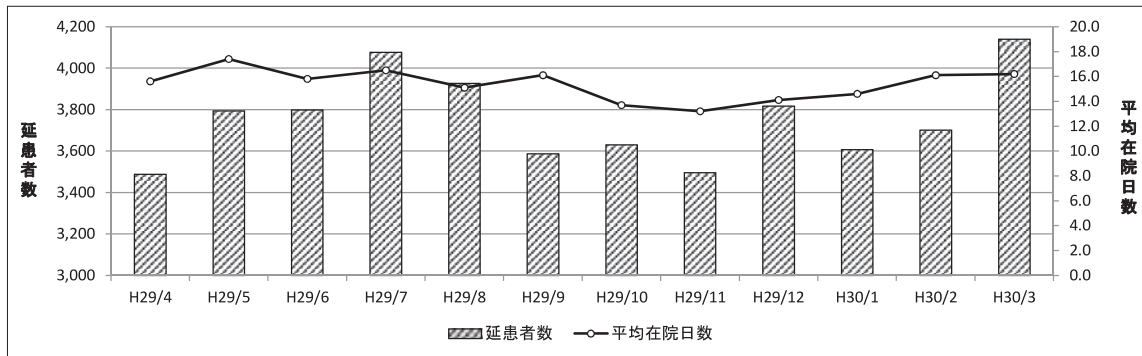
	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延べ入院患者数	233	151	203	244	278	320	400	321	234	261	300	313	3,258
退院患者数	32	30	26	25	26	28	35	40	28	25	25	31	351
新入院患者数	27	30	33	22	27	28	43	32	23	35	21	31	352



病棟別入院患者数

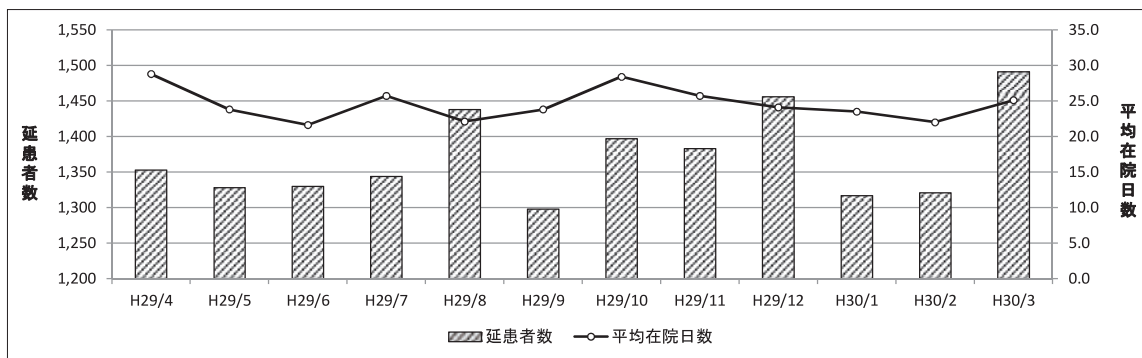
一般病棟入院患者数・平均在院日数

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延患者数	3,488	3,795	3,799	4,078	3,927	3,587	3,631	3,496	3,818	3,608	3,702	4,141	45,070
1日平均患者数	116.3	122.4	126.6	131.5	126.7	119.6	117.1	116.5	123.2	116.4	132.2	133.6	123.5
平均在院日数	15.6	17.4	15.8	16.5	15.1	16.1	13.7	13.2	14.1	14.6	16.1	16.2	15.4



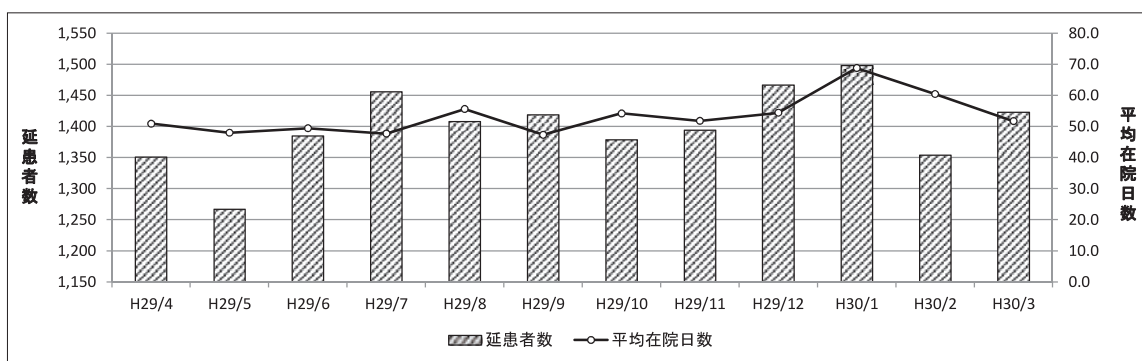
地域包括ケア病棟入院患者数・平均在院日数

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延患者数	1,353	1,328	1,330	1,344	1,438	1,298	1,397	1,383	1,456	1,317	1,321	1,491	16,456
1日平均患者数	45.1	42.8	44.3	43.4	46.4	43.3	45.1	46.1	47.0	42.5	47.2	48.1	45.1
平均在院日数	28.8	23.8	21.6	25.7	22.1	23.8	28.4	25.7	24.1	23.5	22.0	25.1	24.6



回復期リハ病棟入院患者数・平均在院日数

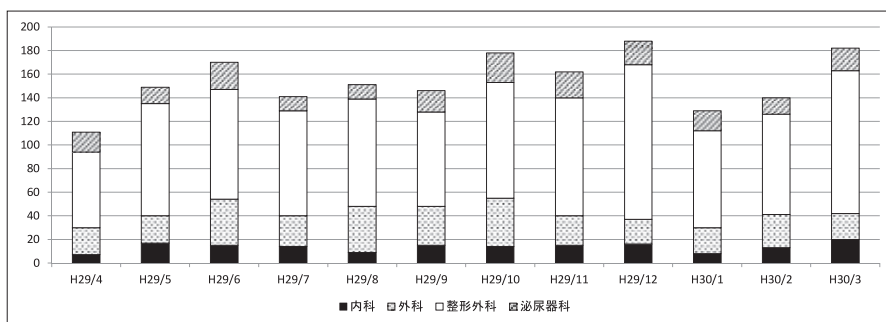
	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
延患者数	1,351	1,267	1,385	1,456	1,408	1,419	1,379	1,394	1,467	1,498	1,354	1,423	16,801
1日平均患者数	45.0	40.9	46.2	47.0	45.4	47.3	44.5	46.5	47.3	48.3	48.4	45.9	46.1
平均在院日数	50.9	48.0	49.4	47.7	55.6	47.3	54.2	51.8	54.4	68.8	60.4	51.7	53.4



手術

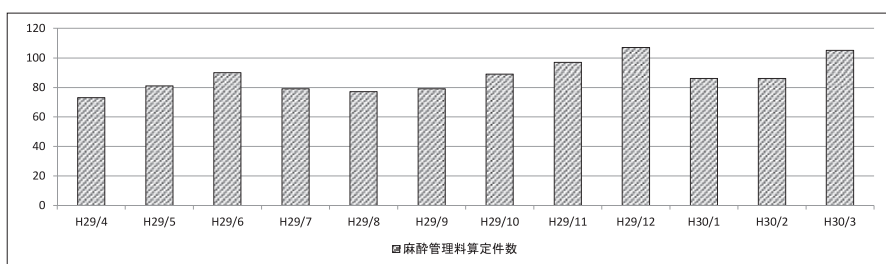
診療科別手術件数

		H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
内科	入院	6	15	14	13	8	13	13	14	14	8	10	16	144
	外来	1	2	1	1	1	2	1	1	2		3	4	19
	合計	7	17	15	14	9	15	14	15	16	16	13	20	163
外科	入院	16	13	19	15	19	21	23	19	12	11	19	15	202
	外来	7	10	20	11	20	12	18	6	9	11	9	7	140
	合計	23	23	39	26	39	33	41	25	21	22	28	22	342
整形外科	入院	48	64	71	62	59	57	69	67	99	67	66	87	816
	外来	16	31	22	27	32	23	29	33	32	15	19	34	313
	合計	64	95	93	89	91	80	98	100	131	82	85	121	1129
泌尿器科	入院	17	12	20	9	12	15	21	18	17	16	14	18	189
	外来	0	2	3	3	0	3	4	4	3	1	0	1	24
	合計	17	14	23	12	12	18	25	22	20	17	14	19	213
総計		111	149	170	141	151	146	178	162	188	129	140	182	1847



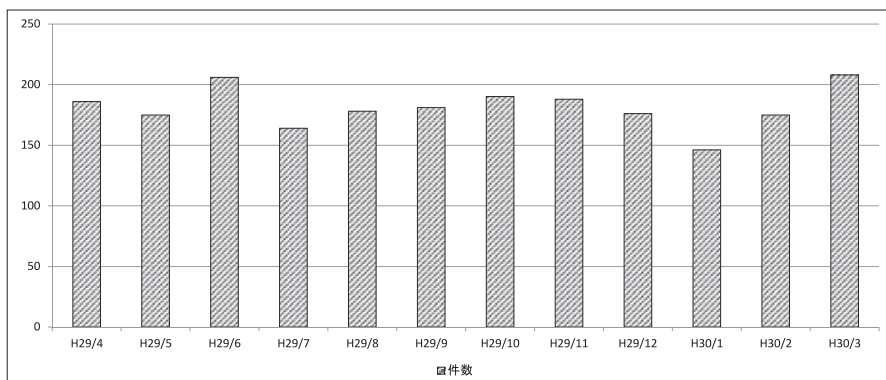
麻酔管理料算定件数

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
件数	73	81	90	79	77	79	89	97	107	86	86	105	1049



内視鏡検査件数

	H29/4	H29/5	H29/6	H29/7	H29/8	H29/9	H29/10	H29/11	H29/12	H30/1	H30/2	H30/3	計
件数	186	175	206	164	178	181	190	188	176	146	175	208	2173



学生受け入れ

■ 診療部

平成29年度 実習受け入れ実績

診療部では平成29年度、札幌医科大学より計120名の神経内科実習（選択・必須クリニカルクラークシップ）の受け入れをしました。今後も受け入れを継続していきます。

養成職種	関連機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医 師	札幌医科大学	6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	平成29年 4月19日	3
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	平成29年 5月24日	2
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	平成29年 6月21日	4
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	平成29年 7月19日	5
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	平成29年 8月10日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 4月12日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 4月26日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 5月17日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 5月31日	4
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 6月14日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 6月28日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 7月12日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 8月16日	4
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 8月30日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 9月13日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年 9月27日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年10月11日	5
		5年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	平成29年11月15日・16日	2
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年11月22日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年12月 6日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成29年12月20日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成30年 1月24日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成30年 2月21日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成30年 2月15日	5
5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	平成30年 3月 7日	6		
5年	病院見学		平成29年11月16日	1	

■ 医療技術部

医療技術部における平成29年度の実習受け入れ実績としては、放射線室が新たに実習を受け入れた為、6部署において計9校からの実習受け入れ依頼に応じ、9職種、61名の学生が当院で実習を行いました。今後も地域の基幹病院として積極的に教育機関からの実習受け入れを行うとともに、実習内容の質向上に努めてまいります。

【薬剤室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
薬剤師	北海道薬科大学	6年	薬学実務実習	平成29年 5月 8日～平成29年 7月21日	2名
		5年	薬学実務実習	平成29年 9月 4日～平成29年11月17日	2名
		5年	薬学実務実習	平成30年 1月 8日～平成30年 3月23日	2名
		1年	早期体験実習	平成29年 7月12日～平成29年 7月12日	5名

【臨床検査室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床検査技師	札幌医学技術福祉歯科専門学校	3年	臨床実務実習	平成29年 6月 5日～平成29年 8月 4日	2名

【リハビリテーション室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
作業療法士	北海道文教大学	4年	総合臨床実習Ⅰ	平成29年 4月 3日～平成29年 5月26日	2名
	北海道文教大学	3年	評価実習	平成29年 8月28日～平成29年 9月15日	2名
	北海道文教大学	1年	臨床実習Ⅰ	平成30年 2月 9日～平成29年 2月23日	1名
	札幌リハビリテーション専門学校	4年	臨床実習Ⅲ	平成29年 7月18日～平成29年 9月16日	1名
	札幌リハビリテーション専門学校	1年	臨床見学実習	平成29年 7月 7日～平成29年 7月14日	1名
	札幌リハビリテーション専門学校	3年	臨床実習Ⅰ	平成29年11月 6日～平成29年12月 9日	1名
理学療法士	北海道医療大学	4年	総合臨床実習	平成29年 5月 8日～平成29年 6月30日	1名
	北海道医療大学	3年	評価実習	平成30年 1月 9日～平成30年 2月16日	1名
	北海道医療大学	2年	検査・測定実習	平成30年 2月19日～平成30年 3月 2日	2名
	北海道文教大学	4年	総合臨床実習	平成29年 6月19日～平成29年 7月28日	1名
	北海道文教大学	1年	臨床見学	平成29年 9月11日～平成29年 9月15日	1名
	北海道文教大学	4年	総合臨床実習	平成29年 8月28日～平成29年10月 6日	2名
	北海道文教大学	2年	検査・測定実習	平成29年12月 4日～平成29年12月15日	2名
	北海道文教大学	3年	評価実習	平成30年 1月22日～平成30年 2月 9日	1名
	札幌医学技術福祉歯科専門学校	4年	総合臨床実習	平成29年 6月 5日～平成29年 7月31日	2名
	札幌医学技術福祉歯科専門学校	3年	評価実習	平成29年 9月 4日～平成29年 9月27日	1名
	札幌医学技術福祉歯科専門学校	1年	臨床見学	平成29年10月16日～平成29年10月23日	2名
	札幌医学技術福祉歯科専門学校	2年	検査・測定実習	平成29年11月13日～平成29年12月 6日	2名
	札幌医学技術福祉歯科専門学校	3年	評価実習	平成30年 1月10日～平成30年 2月28日	1名
言語聴覚療法士	北海道医療大学	4年	総合臨床実習	平成29年 5月 8日～平成29年 7月14日	1名

【栄養管理室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
管理栄養士	藤女子大学	3年	臨床栄養学実習Ⅲ	平成29年 9月25日～平成29年10月 6日	4名
	天使大学	3年	臨床栄養学実習Ⅲ	平成29年11月 6日～平成29年11月17日	2名
栄養士	塩光学園女子短期大学	2年	臨床栄養学実習	平成29年 8月21日～平成29年 9月 1日	3名

【臨床工学室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床工学技士	北海道科学大学	3年	実務実習	平成30年 1月24日～平成30年 1月31日	2名

【放射線室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
診療放射線技師	北海道科学大学	3年	臨床実習	平成29年11月 6日～平成29年11月10日	1名
		3年	臨床実習	平成29年11月20日～平成29年11月24日	2名
		3年	臨床実習	平成29年11月27日～平成29年12月 1日	2名
		3年	臨床実習	平成29年12月 4日～平成29年12月 8日	2名
		3年	臨床実習	平成29年12月11日～平成29年12月15日	2名

■看護部

平成29年度、北海道科学大学、小樽看護専門学校、小樽市医師会看護高等専修学校より臨時実習の受け入れを行いました。臨地実習は学生にとって自分の看護観を形作る重要な時間です。看護の楽しさややりがいを感じていただけるように、看護学生の学習を支援し、実習指導者、看護職員が教育的な関わりができるように指導しています。

平成29年度実習受け入れ実績

養成職種	教育機関名	学年	学習目的	実習期間	人数
看護師	北海道科学大学	2年	基礎実習Ⅱ	平成29年 7月18日～ 8月15日	61名
		1年	基礎看護学実習Ⅰ	平成30年 2月 5日～ 2月 7日	28名
看護師	小樽看護専門学校	3年	看護の統合と実践実習	平成29年10月16日～10月30日	22名
		2年	基礎看護実習	平成30年 2月19日～ 3月 2日	20名
准看護師	小樽医師会 看護高等専修学校	2年	基礎看護実習	平成29年 5月24日～ 6月15日	20名
		2年	成人・老年看護実習	平成29年 6月19日～12月 8日	41名

■事務部

【医事課】

平成29年度 実習受け入れ実績

医事課では平成29年度、大原医療福祉専門学校より1名の病院実習を受け入れました。

今後は人材確保の観点も視野に入れ、実習受け入れを行うとともに質の向上に努めていきます。

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医療事務	大原医療福祉専門学校	2年生	医療事務専門知識の実践	平成29年7月10日～8月11日	1名

Ⅲ 部門報告

診療部

■ 総括

本年度は4月から和田卓郎副院長が病院長となり常勤医22名でスタートしました。

整形外科の4月の着任医師は、齋藤憲先生・鍋城尚伍先生・口岩毅人先生、そして大阪大学整形外科学講座から高橋惇司先生が着任しました。阪大から毎年、先生が着任しますが、私は北の地で耳にする関西弁を密かに楽しんでいます。整形外科の先生は大変お忙しい、一日に一度も会わないことがあります。先生のお人柄を知る頃には移動となるので残念です。神経内科の人事では、津田玲子先生が7月をもちまして札幌医科大学へ戻り、後任として九州医療センターを経て野中隆行先生が着任しました。津田先生は、3年以上の勤務だったので寂しくなりましたが、8月から引き続き当直、検査等に来て頂いております。また、外科の長谷川格副院長が函館協会病院長栄転のため9月をもって退職となり、後任には頼もしくも以前に当院勤務の木村雅美先生が戻られました。12月にはリハビリテーション科医師として菊地正昭先生が着任しました。

医局内の様子をお話ししますと、広い空間を32個のブースで仕切っており、各医師が各ブースを使用しています。ブース内には机、脇机、書棚、ロッカーが備え付けられています。実習の医学生にブースをお見せするととても感激してくれます。ただ、空間を仕切っているだけなので地声の大きい私の声が響くことが難点です。その他に当直室、仮眠室、台所、トイレもあります。医局にいても先生達はゆっくりとはしてはいませんが、昼食を取りながら時には先生同士で談笑をして東の間を過ごしています。

また、当院は1ヶ月で述べ100名程の非常勤医師のサポートを、札幌医科大学を中心に受けており外来診療、手術、当直等をして頂いております。常勤医師、非常勤医師、実習の医学生が医局内で快適に過ごせるように務めていきたいと思っております。

医局秘書 吉田 理恵

【スタッフ】

氏名	役職名
舩谷 治郎	副院長
宮地 敏樹	内科部長
水越 常德	診療部長
明石 浩史	内科部長
本谷 雅代	非常勤医師（札幌医大消化器内科）
志谷 真啓	非常勤医師（札幌医大消化器内科）

【当科の概況】

当科では札幌医大消化器内科（旧第一内科）出身者にて成り立っており、診療内容は消化器疾患を中心に内科一般診療を行っています。当院では「内科の先生」と呼ばれ続けています。外来は一人当たり週3-4コマ出ており、多くの患者を診ていますが、旧病院から現病院に移ってから患者層の変化があり、5年経過してようやく慣れてきたところです。外来診療中に入院となるケースも多々あることや、救急車対応・同じ済生会グループの介護老人保健施設「はまなす」からの入院依頼、近隣の先生や余市方面からの入院依頼もあり、多分に漏れず多少疲弊してきているのが現状です。また、常勤医は当院在職が長く、そのまま平均年齢が上がっているところです。小樽市夜間急病センターからの受け入れについては当番が月8-9回当たっており、4人で順番に受け入れに当たっています。当院では“断らない医療”を旗印にしていることから、専門はもちろんのこと専門外（当院にはない呼吸器内科など）でも状況が許す限り、受け入れています。何件か断られている患者さんでも当院で受け入れていることもあります。そんなこともありまして、現病院になってから救急搬送数が増加してきています。

【当科の診療内容】

内視鏡は各医師が上下部内視鏡の検査及び処置に当たっていますが、札幌医大消化器内科の協力を得て、胆膵は同医局の専門医にて、胆道・膵疾患の検査・治療を行って頂いています。どちらかという特殊な手技である胆膵疾患に対する内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的胆道ドレナージ術（EBD）などを数多く対応頂いている状況です。消化管の治療内視鏡としましては、胃や大腸など消化管の腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）、消化管閉塞に対するステント留置術、出血性疾患に対する各種止血術などを行っています。内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）については、医局の同門でもある手稲溪仁会病院の消化器内科の田沼先生に対応頂いています。NASHなどの肝疾患には肝生検を行っており、明石医師を中心に肝

炎に対しての核酸アナログ製剤治療も件数が増加してきております。糖尿病に関しては、糖尿病教育入院体制を整えています。甲状腺疾患は主に水越が担当していますが、小樽・後志管内多くの施設からご紹介いただいているところです。小樽にはパセドウ病のアイソトープ治療が出来ない弱点がある為、札幌市内の紹介先と連携しながら多くのパセドウ病患者に対してアイソトープ治療を行っております。小樽は高齢化していることから、消化器疾患だけではなく高齢患者を診ることも多く、胃瘻の造設なども行っています。当院は整形外科の手術も多いですが、整形外科患者には糖尿や肺炎などを持った患者も多く、整形外科へのコンサルトも自然と多くなります。また、当院外科とは垣根無く、常日頃から協力しあっており、毎週カンファレンスを行い、内科からの紹介症例について術前後の評価をしています。また、院内では明石医師を中心に緩和ケアチームが作られており活動をしております。

【学会認定施設】

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

【人の動きとこれからに向けて】

平成30年3月で舩谷副院長が定年退職されます。医師不足の中、どうなることかと不安でありましたが、引き続き当院で働いてくれることになっており、安堵しています。舩谷先生は内視鏡検査においては並々ならぬパワーを発揮して下さい、頼もしい存在であります。宮地医師も20年以上の在職となり、今まで同様頑張っており、夜間の待機など辛そうですが、文句も言わずやってくれています。明石医師も気がつけば8年の在職となり、当院にはなくてはならない存在です。そして、平成30年4月からは札幌医大の医局から一人派遣されることになっております。今まで4人でギリギリの体制でやっていた（キャパを超えていたかも知れませんが）中で非常に嬉しいことです。これから当科の体制が益々パワーアップしてくれるものと期待しております。私、水越は2年前療養で休み、みんなに迷惑をかけた分をお返ししようと頑張っています。消化器疾患は分子標的薬などの例をみるまでもなく、多くの新しい治療法が出てきており、以前の知識が通用しなくなっているものもたくさんあります。また、休日・夜間に呼ばれることも多くあります。吐血など緊急性を要するものも多く、内科・消化器内科医師を始め、看護スタッフとも綿密な連携が必要です。

こういうことを書くと若い先生に敬遠されるかも知れません。焦りは禁物ですが、スピーディに対処してスマートに解決するというような、そんな感じでやっけて行けたらと思っています（なかなか難しいかも知れませんが、泥臭さも必要かも）。旧病院時代は急病センターが併設されていたことから、「365日受け入れが当たり前」という感じでやっていました。しかし、昨今は医師の働き方改革も言われているので、何とか時間を

やりくりして一人一人のQOLを公私ともに上げることも目指したいと思います。そして、今後も学会・研究会等に積極的に発表や参加をすることにより、診療の質の向上を図り、この地域の医療に貢献していきたいと考えています。

診療部長 水越 常德

氏名	専門・認定資格等
舩谷 治郎	日本消化器内視鏡学会 専門医
宮地 敏樹	
水越 常德	日本内科学会 総合内科専門医・認定医・指導医 日本内分泌学会 専門医・指導医・評議員 日本甲状腺学会 専門医 日本消化器病学会 専門医 インфекションコントロールドクター 日本人間ドック学会 認定医・人間ドックアドバイザー 日本医師会認定産業医 医師臨床研修指導医
明石 浩史	日本内科学会 認定医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 医師臨床研修指導医

本谷 雅代 非常勤医師

日本内科学会 総合内科専門医・認定医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本消化器病学会消化器病専門医

志谷 真啓 非常勤医師

日本内科学会 総合内科専門医・認定医
日本消化器病学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 専門医
日本がん治療認定医機構がん治療 認定医

循環器内科

【スタッフ】

森 喜弘	循環器内科部長
高田美喜生	循環器内科部長
國分 宣明	非常勤

【当科の特徴】

当科は、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心不全、不整脈、弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患などの心血管疾患全般を専門的に扱うとともに、腎疾患および高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病も対象に幅広い分野の診察・治療を行なっています。

特に腎機能が低下する原因は多様ですが、原疾患が何であろうとも進行した状態においては体液組成を中心とした共通かつ複数の代謝異常が生じます。

しかも、それぞれの代謝異常自体が腎障害の進行因子として作用し、同時に他臓器の障害も進行させることが多くあります。

高齢化にともない、慢性腎臓病に代表される腎臓病は増加しており、当科外来の患者さんの多くも、腎機能障害を有しています。当科は日常診療において1人、1人病態を理解し、対策を講じることにつとめています。

【平成29年度の取り組み】

慢性腎臓病（CKD）の原因疾患である糖尿病性腎症、高血圧性腎硬化症の治療に特に力を注ぎ、末期腎不全（ESRD）への進行の抑制と心血管病変の発症の予防を目的として、高齢化社会に対応した実践的なCKD対策に努力しています。

【今後の目標】

慢性腎臓病（CKD）が注目されるのは、1つは透析療法や腎移植などの腎代替療法を必要とする末期腎不全（ESRD）患者の増加です。多くの患者のQOLを低下させるだけでなく、経済的、人的に多大なコストを要しています。

2つ目は、CKDは末期腎不全のリスクのみならず、心血管事故や死亡あるいは入院のリスクファクターとして重要であることが、多くの疫学研究により明らかにされています。

すなわち、CKDはその数の多さと腎臓以外の健康障害の危険因子として人々の健康を脅かす重要な疾患として位置づけられています。

CKDは高血圧・糖尿病などの生活習慣病や加齢など、今後も増え続けることが確実な背景因子と深い関連があります。したがって、増え続けるESRDの発生を抑えるため、そして、心血管事故を予防するために、CKDの早期発見と、原因疾患に対する適切な治療に取り組んで行くことが大切であると考えています。

循環器内科部長 森 喜弘

神経内科

【スタッフ】

松谷 学	診療部長／部長
林 貴士	部長
野中 隆行	医長
平野理都子	医長
川又 純	(札幌医科大学神経内科学講座准教授) (非常勤医師)

【当科の特徴】

当科は、脳脊髄、神経、筋肉に関連した疾患の診断と治療を行っております。脳脊髄の疾患としては、脳梗塞や一部の脳出血などの急性発症する脳卒中や記憶障害や遂行機能障害などが見られるアルツハイマー型認知症、四肢の振戦や動作緩慢、姿勢反射障害が見られるパーキンソン病、パーキンソン症状に加え変動のある認知機能の低下などの特徴のあるレビー小体型認知症、運動神経の変性により全身の筋肉が萎縮していく筋萎縮性側索硬化症、ほか脊髄小脳変性症、多系統萎縮症などの神経変性疾患、感染症や代謝障害に伴う脳炎・脳症、症状の再発寛解を繰り返す多発性硬化症、神経（末梢神経）の疾患としては、先行感染後に四肢筋力低下をきたすギラン・バレー症候群や筋力低下・感覚障害を慢性の経過で再発寛解を繰り返す慢性炎症性脱髄性多発神経炎、神経と筋肉の接合部の疾患では眼瞼下垂や複視、筋力の易疲労性を呈する重症筋無力症、筋肉の疾患として筋痛や筋力低下を呈する多発筋炎などがあります。脳脊髄・神経・筋肉の症状は上記の疾患以外にも肝障害や腎障害や糖尿病、甲状腺機能異常などの内分泌疾患などを原因としても生じるため、頭の方から足の先まで診察し、内科疾患の知識を動員しながら診療しております。

神経変性疾患の多くは、運動障害や失調症状、嚥下障害などの症状が緩徐に進行していき、日常生活にも様々な障害を及ぼします。このため医学的介入にとどまらず、介護や福祉の領域とも連携して患者さんの生活の質が少しでも保持され、向上することを常に模索しております。

今後、日本の高齢人口はますます増加することが考えられ、それに伴い脳卒中やアルツハイマー型認知症をはじめとする認知症性疾患、パーキンソン病および関連疾患も増えていくことが予想され、神経内科の必要性は増していくと思われれます。

【平成29年度の取り組み】

医療に関して。後志圏内では数少ない神経内科急性期病床のある病院として、連日の外来診療や救急隊や他医療機関からの紹介患者受け入れなどを行っております。急性期治療の後には、症例によっては地域包

括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟での治療を継続し、病院から地域へとシームレスな患者対応ができるように診療をしております。

当科では神経変性疾患を診ているため認知症を患う患者さんを診療することも多いのですが、65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症（2012年）であると報告され、認知症を持つ患者さんが身体疾患を患って入院してくる例が大変多くなっています。この状況に対し、平成28年度の診療報酬改定で「認知症ケア加算」が創設されました。身体疾患を持った認知症の患者さんは、せん妄や行動・心理症状を起こしやすく、身体疾患の治療に難渋することも少なくありません。入院時に認知症の存在を評価し早期に対策を立てることが重要となりますが、院内認知症ケアチームを中心となり研修会を行い多職種に認知症の基礎知識を広める活動をしており、より良い認知症ケアが行われるよう協力しております。

教育に関して。当院では神経内科専門医を4名（1名非常勤）、日本内科学会総合内科専門医2名を擁し、日本神経学会教育施設となっております。専攻医（後期研修医）の先生に当院独自で神経内科専門医資格を取得できる体制を引き続き取っています。今年度は在職中の先生が日本神経内科専門医試験を受験され、合格を果たしております。さらに小樽市を含む後志医療圏内で中核的急性期病床および回復期リハビリテーション病床を有する当院を基幹病院とした臨床研修協力施設、新・内科専攻医研修基幹施設の認定を受けました。また今年度は札幌医科大学から、必修クリニカルクラークシップ（5年次）として98名、神経内科選択クリニカルクラークシップ（6年次）として19名の医学部生を受け入れております。このような形で医学教育や若手医師の育成などに力を入れております。

【今後の目標】

平成30年度は、今年度に引き続き神経内科必修および選択クリニカルクラークシップの医学生を受け入れ、神経学的診察から臨床推論、鑑別診断、必要な各種検査、疾患ごとの治療について実践的に学べるよう指導していきたいと考えています。また新・内科専攻医研修基幹施設として専攻医の受け入れをしていきたいと考えています。

院内認知症ケアチームを中心とした、せん妄対応能力向上を目的とした院内研修会への協力とともに、研修後の対応能力評価を行うことで研修内容のブラッシュアップや評価内容の学会発表へと繋げていきたいと考えております。

神経内科部長 林 貴士

外科・消化器外科

【スタッフ】

氏名	役職名	専門・認定資格等
長谷川 格 H29.10月退職	副院長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 認定医・消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医
木村 雅美 H29.10月～	副診療部長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
孫 誠一	外科部長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 暫定教育医 検診マンモグラフィ読影認定医
田山 誠	外科部長	
茶木 良	非常勤医師	日本消化器病学会 専門医 日本外科学会 専門医・認定医 日本医師会 認定産業医 検診マンモグラフィ読影認定医
島 宏彰	非常勤医師	日本外科学会 指導医・専門医 日本乳癌学会 指導医・専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
里見 露乃	非常勤医師	日本外科学会 専門医 日本乳癌学会 専門医・認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医

【部署の特徴】

当科では消化器疾患、甲状腺疾患の外科治療と、ヘルニア、乳腺疾患、肛門疾患の診断と治療を行っています。また、手術症例を中心に術後補助化学療法、進行・再発症例に対する化学療法、緩和治療も担当しています。

当科では「体にやさしい手術」を提供するために、「腹腔鏡による外科治療」を積極的に行ってきた歴史があります。道内でも先駆的となる平成3年より腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入し、平成5年からは胆嚢胆管結石症に対し一期的治療が行える腹腔鏡下胆管切石術を実施してきました。現在では、胆石症はもちろん、様々なヘルニア疾患、急性虫垂炎・腸閉塞・潰瘍穿孔などの急性腹痛症での緊急手術、そして胃癌や大腸癌の外科治療においても、適応や安全に配慮しつつ積極的に腹腔鏡下手術を行っております。

小樽市内に1名しかいない日本内視鏡外科学会技術認定医の指導により安全かつ質の高い腹腔鏡手術を提供していると自負しています。

術後早期のリハビリテーションを充実したスタッフにより積極的に行っています。術後早期離床を目指すことにより、術後合併症を予防し、早期回復・早期退院・早期社会復帰につなげています。

【実績】

	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
胃切除術	8 (4)	7 (4)	4 (2)	12 (4)
胃全摘術	1 (0)	5 (2)	5 (1)	4 (1)
胆嚢摘出術	38 (35)	46 (43)	46 (44)	63 (59)
胆管切石術	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)
結腸切除術	24 (13)	19 (10)	19 (10)	28 (13)
直腸切除術	8 (5)	2 (2)	7 (4)	8 (3)
直腸切断術	3 (1)	0 (0)	2 (2)	2 (2)
虫垂切除術	15 (14)	11 (8)	12 (9)	10 (9)
鼠径部ヘルニア手術	35 (25)	27 (17)	30 (22)	23 (13)
腹壁癬痕ヘルニア手術	2 (1)	1 (0)	4 (0)	7 (2)
甲状腺手術	11	7	13	17
乳腺手術	0	1	1	1
肛門手術	4	7	8	7
外来手術	139	138	139	113

※総手術件数（腹腔鏡手術件数）

【平成29年度の取り組み】

今年度は10月に大きな変化がありました。当科を長く牽引してこられた長谷川副院長が函館協会病院に病院長として転出され、新たなチーフとして木村雅美先生が2年6ヶ月ぶりに当院に戻ってこられました。木村先生の発案により、胆石症外来とストーマ外来を始めました。胆石症外来は胆石と診断された患者様の相談窓口となることを目指して始めています。ストーマ外来は泌尿器科の協力のもと、皮膚・排泄ケア認定看護師を含めたスタッフによりストーマにかかわる問題を抱えた患者様に対応しています。既存のヘルニア専門外来もさらに強化し、術後愁訴ゼロを目指した腹腔鏡手術を推進しています。

【今後の目標】

平成30年度より消化器病センターが開設されました。消化器疾患に対して、これまで以上に消化器内科との連携強化、一体化に努め、機能充実を図り、より効率的に診療を行っていきたいと考えております。

外科部長 孫 誠一

整形外科

【スタッフ】

近藤 真章	名誉院長	整形外科専門医	脊椎外科
和田 卓郎	病院長	整形外科専門医、手外科専門医、 上肢専門	
織田 崇	副診療部長	整形外科専門医、手外科専門医、 骨粗鬆症専門医、上肢専門	
齋藤 憲	整形外科医長	整形外科専門医	上肢専門
鍋城 尚伍	整形外科副医長	後期研修医	
口岩 毅人	整形外科副医長	後期研修医	
高橋 惇司	整形外科副医長	後期研修医	

【当科の特徴】

手・肘センターを開設し、専属の作業療法士との協働による上肢の疾患や外傷の専門的な診療を行っています。橈骨遠位端骨折、変形性肘関節症、上腕骨外側上顆炎の鏡視下手術の症例数が多く実績を挙げています。札幌医大整形外科との連携により、関節鏡視下腱板修復術や人工肩関節置換術などの先進的手術治療を行う肩関節専門外来、頸椎や腰椎の変性に伴う神経障害に対する診断と手術治療を担当する脊椎専門外来、病態や骨折リスクに応じた薬物療法を行う骨粗鬆症外来を開設しています。高齢過疎化が進む地域の実情に合わせて、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟を活用することで手術後や保存治療に対しても、日常生活への復帰まで十分な入院リハビリを

行っています。

ヨーロッパ手外科学会、日本整形外科学会、日本骨粗鬆症学会など国内外の学会で口演発表を行っています。国内誌への論文発表や著書執筆のほか、4年連続で海外誌への論文発表を行うなど精力的に学術活動を行っています。毎年ハワイで開催される済生会后期研修のための海外研修に後期研修医を派遣しています。

【平成29年度の取り組み】

整形外科医療機関や救急隊からの診療要請を整形外科医師が直接受けるためのダイレクトコールを設置し、多くの救急搬入を受け入れました。外傷診療の知識の整理と共通化を目的として、アメリカ整形外科学会が発行するOrthopedic Knowledge Update Trauma 5を輪読しました。

【今後の目標】

小樽・北後志地区になくてはならない整形外科となるべく、各専門部位で日本トップレベルの診療を提供すること、小樽で診療を完結できること、救急患者の受け入れ要請に迅速に対応することを目標としています。膝関節の専門外来を開設し、診療の柱である上肢に加えて膝を中心とした下肢の診療の充実を図ります。

副診療部長 織田 崇

手術実績（平成29年4月－平成30年3月）

合計	854	下肢	291
上肢	437	骨盤骨折	0
鎖骨骨折	9	大腿骨骨折	119
上腕骨骨折	32	膝蓋骨骨折	1
前腕骨骨折	93	下腿骨骨折	45
手部骨折	39	足部骨折	11
腱・神経損傷	23	THA	21
腱板断裂	18	TKA	20
肩関節脱臼	6	膝関節鏡手術	19
TEA	2	膝靭帯際剣術	5
肘部管症候群	6	外反母趾	2
手根管症候群	51	下肢その他	48
滑膜切除(手)	2	骨軟部腫瘍切除	20
滑膜切除(肘)	9	抜釘	90
腱鞘切開	101		
上肢その他	46		
脊椎	16		
頸椎	5		
胸椎	0		
腰椎	9		
脊椎固定術	2		
下肢	297		
人工大腿骨頭置換	30		
THA	21		
TKA・UKA	54		
膝前十字靭帯再建	10		

泌尿器科

【スタッフ】

堀田 浩貴 診療部長：日本泌尿器科学会専門医・指導医、ICD（インфекションコントロールドクター）、日本性機能学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医

安達 秀樹 泌尿器科部長：日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本性機能学会専門医

【当科の特徴】

泌尿器科は、副腎・腎臓・尿管・膀胱・前立腺・陰莖・尿道・精巣などを原因とするさまざまな症状と疾患を診察・治療する診療科です。

北海道済生会小樽病院泌尿器科では、日本泌尿器科学会認定の専門医・指導医の資格を有する医師が診療を担当します。日本泌尿器科学会の基幹教育施設に認定されております。

患者さんの病気・病状に合わせて、最善と思われる治療方法を検討し、十分な説明を行います。患者さんもお自身の病気・病状について充分にご理解いただいた後に、説明と同意のもとに治療を行うことを重要な目標として、日々診療に従事しております。

【実績】

I. 外来

外来は月曜日から金曜日まで午前各一枠、土曜日は第二、四週午前に各一枠、そして火曜日午後に性機能専門外来を行っています。平成29年の外来延患者数は、8,603名でした。紹介率は54.4%、逆紹介率は50.1%でした。主病名による上位疾患は、前立腺肥大症、急性膀胱炎、過活動膀胱、神経因性膀胱、などでした。前立腺がん、膀胱がん症例に対しては、積極的に外来化学療法なども取り入れております。

II. 入院

平成29年の新入院患者数は352人、手術件数は245件、平均在院日数は8.1日でした。主な入院病名は、膀胱がん、前立腺がん、尿管結石症、慢性腎不全、水腎症などでした。札幌医科大学泌尿器科と綿密な連携を図り、集学的治療により改善が期待できる症例は積極的に紹介を行っています。

III. 透析医療

増え続ける慢性腎臓病症例に対して、他の治療法による改善が見込めず、自覚症状も出現しかつ本人の十分な理解が得られた症例に対しては、血液透析の導入を行っております。平成29年の新規導入患者数は10名でした。おおよそ60名の透析患者さんに対して、安全かつ快適な透析医療を提供できるように泌尿器科医師ならびにスタッフ一同日々奮闘しております。

【平成30年度の取り組み】

安全を第一として、患者さんが十分に満足できるような医療の提供を目指しております。

【今後の目標】

札幌医大泌尿器科との連携を密として、より高度かつ信頼できる医療の提供を心掛けております。

泌尿器科部長 安達 秀樹

医療技術部

■ 総 括

【医療技術部について】

◆部門構成

- ・ 医療技術部長
- ・ 医療技術部次長
- ・ 薬剤室
- ・ 臨床検査室
- ・ 放射線室
- ・ リハビリテーション室
- ・ 栄養管理室
- ・ 臨床工学室
- ・ 臨床心理室

◆医療技術部職員数 111名

◆職員構成

医師 1 名（医療後術部長、診療部兼任）

薬剤師 13 名

臨床検査技師 9 名

診療放射線技師 8 名

理学療法士 37 名

作業療法士 20 名

言語聴覚士 5 名

管理栄養士 4 名

臨床工学技士 10 名

助手 4 名

【医療技術部理念】

私たちは、専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します。

【平成29年度医療技術部目標】

- 検査・加算等の算定漏れ防止
- 人事考課ラダーの改善
- 接遇向上に向けた施策実施
- クレーム件数の減少

【平成29年度の活動】

平成29年度は部門の目標として当初、部門としての医業収益増収への貢献として診療報酬の加算等の算定率の向上や算定漏れの防止、人事考課ラダーの改善、接遇向上に向けた施策実施、クレーム件数の減少を推進しました。

具体的な活動例としては、下記の様なことを企画、実施しました。

- ・ DPC移行を視野に入れた後発医薬品使用推進により経費削減を進めるとともに、上位加算である加算1の算定に貢献しました。
- ・ 臨床工学技士による内視鏡センター業務を開始し、看護業務の軽減と内視鏡管理の質向上に努めました。
- ・ 病院ホームページの部門各部署のコーナーを新しい内容に更新しました。
- ・ リハビリ室として今年度よりリハビリ市民講座と題して一般市民対象にリハビリに関する内容で定期開催を開始しました。
- ・ 部門教育委員会としては伝達講習会の開催に加え部門研修会として『統計』に関する研修を企画開催しました。
- ・ 昨年に引き続き、未来の人材育成により医療提供以外に地域社会へ貢献することを目指し、地元の高校生を対象としたコメディカル職場体験ツアーを企画・実施しました。

また、通常の業務に加えて平成32年度に重心施設みどりの里の当院敷地に移転統合する計画が具体的にスタートしました。これに伴い、医療技術部としても各部署において業務統合の打ち合わせを進めることとなりました。各部署間で人事交流等も実施しながらお互いの業務の仕組みや特徴を理解することに努め、統合後の業務の摺合せを精力的に進めた結果、ある程度の統合後の業務遂行体制の目途を付けることができました。

【今後の目標】

平成30年度に関しては、今後のDPC算定に向け、業務の効率化を推進するとともに、平成32年度夏予定の重心施設みどりの里の移転統合に向けた準備を進め、より地域に密着した病院づくりに向け、医師を始め多職種と積極的に協力し合いながら、病院理念及び部門理念の推進に努めたいと考えております。

医療技術部長 宮地 敏樹

薬 剤 室

【スタッフ】

役 職	氏 名	認定・専門資格等
室 長	上野 誠子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員
課 長	鈴木 景就	緩和薬物療法認定薬剤師(日本緩和医療薬学会) 麻薬教育認定薬剤師(日本緩和医療薬学会) NST専門療法士(日本静脈経腸栄養学会) 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
主 任	小野 徹	抗菌化学療法認定薬剤師(日本化学療法学会) 感染制御認定薬剤師 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬 剤 師	笠井 一憲	NST専門療法士(日本静脈経腸栄養学会) 健康食品管理士 腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師(日本腎臓病薬物療法学会) 認定実務実習指導薬剤師 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員
	青木有希子	糖尿病薬物療法准認定薬剤師(日本くすりと糖尿病学会) 日本糖尿病療養指導士 高血圧・循環器病予防療養指導士(日本高血圧学会・日本循環器病予防学会) 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	一野 勇太	認定実務実習指導薬剤師
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士 認定実務実習指導薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
	中村 圭介	老年薬学認定薬剤師(日本老年薬学会) 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト
	芦名 正生	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	木谷 梨絵	日本糖尿病療養指導士
	寺嶋 望	高血圧・循環器病予防療養指導士(日本高血圧学会・日本循環器病予防学会) 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	又村 健太	
	松倉 瑞希	
薬 剤 助 手	西野 純子	

【部署の特徴】

薬剤室では安全で確実な調剤を基本に薬を通してチーム医療の一員として業務を行うことを目標にしていま

す。業務はグループ制とし、それぞれリーダーを置き業務分担しています。

【実績】

調剤業務件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方せん枚数 (枚)	院外処方せん	6,344	6,489	6,664	6,614	6,743	6,258	6,624	6,473	6,444	6,539	5,920	6,506
	院内処方せん	30	32	43	33	27	21	18	23	27	28	15	18
院外処方せん発行率(%)		99.5	99.5	99.4	99.5	99.6	99.7	99.7	99.6	99.6	99.6	99.7	99.7
入院処方せん		3,720	3,922	3,978	4,016	4,203	4,063	4,248	4,369	4,218	4,131	4,086	4,687
注射処方せん		4,501	4,811	4,936	5,317	4,746	4,041	4,212	4,078	3,936	4,134	4,242	4,294

診療報酬関連

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
薬剤管理 指導料	ハイリスク薬	214	257	231	203	243	193	210	220	216	213	229	189
	その他の薬	148	196	187	181	188	164	175	189	194	182	186	214
	合計	362	453	418	384	431	357	385	409	410	395	415	403
	退院時薬剤情報管理提供料	85	102	106	96	118	96	94	75	80	61	63	43
	麻薬管理加算件数	8	5	5	1	3	2	7	2	0	7	25	15
無菌製剤 処理料	無菌製剤製剤処理料1	13	16	20	22	20	16	22	13	12	23	16	15
	無菌製剤製剤処理料2	359	417	518	449	255	196	288	298	258	235	226	276
抗悪性腫瘍薬処方管理加算		3	6	8	10	7	11	14	21	20	15	23	28
病棟薬剤業務実施加算		624	594	617	592	648	628	661	639	626	662	636	646
特定薬剤使用管理料(TDM)		6	1	4	4	5	9	3	4	0	4	1	16
薬剤総合評価調整加算		3	14	12	17	9	3	2	3	1	1	0	4

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来面談件数	日曜入院	3	5	3	4	4	3	7	7	7	7	5	8
外来面談件数	化学療法	0	0	1	2	3	1	2	2	1	2	3	2

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病棟薬剤業務総実施時間		557	580	640	582	607	494	598	568	518	496	474	509
持参薬処理件数		360	421	399	421	413	385	457	452	357	480	369	430

【平成29年度の取り組み】

平成29年度は薬剤師13名・調剤助手1名のスタッフで、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・医薬品情報管理(DI)・薬剤管理指導業務(病棟業務)・チーム医療への参画(感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、褥瘡対策チーム、認知症ケアチーム)を行いました。12月に薬剤師1名の退職があり欠員の状態でしたが、薬剤管理指導件数は目標とする400件を上回ることができ、病棟薬剤業務実施加算の算定要件でもある週20時間以上の病棟業務を行っています。平成29年度の大きな取り組みとして後発医薬品の使用量を増加させることを目標としました。医薬品情報管理室を中心に後発品への切り替えを薬事委員会等で提案、関係部署の協力の結果、使用割合は75%を超え後発品使用体制加算2を継続的に算定することができています。外来薬剤師業務として、①入院予定患者への対応、②がん患者への指導を目指しました。①入院予定患者への対応については、日曜日入院の患者に対する持参薬確認を開始しました。入院前

に持参薬の確認を行い手術前中止薬の把握をすることで、手術延期や中止を防ぐことができていると考えます。②がん患者への指導については外来化学療法室での注射剤使用患者へのレジメンラベルの配布を開始しました。特定薬剤治療管理料はこれまで抗MRSA薬のみを対象としていましたが、抗てんかん薬、ジギタリス、テオフィリン製剤等、対象範囲を広げる事を目指し、医薬品情報管理室を中心に運用方法の検討し算定可能となりました。外来患者への関与として、当院の院外処方せんの大部分を応需している門前の保険薬局3軒の管理薬剤師と当院の薬剤師と懇談会を月1回の開催を継続しており、情報伝達・共有の場として活用しています。教育に関しては薬学実務実習を今年度も6名受け入れることができました。薬学生の早期体験実習や高校生の職場体験等の受け入れも行い、病院薬剤師の職能について紹介する機会となりました。研究については、病院薬剤師として日常業務の中で問題点から研究テーマを選定し、学会等で発表することにより、多くの患者さんに貢献できる可能性があります。今年度は6演題の発表を行うことができました。

【今後の目標】

平成30年度の取り組みとして、業務内容の見直しを行い、薬剤管理指導件数の増加（25%）、内服薬剤費の削減（10%）、新規算定の開始（がん患者指導管理料3、抗菌薬適正使用支援加算）、一般名処方増加（30%）を中心に考えていきます。チーム医療の一員

として質の高い業務を行うため、専門・認定薬剤師の養成・更新等などの人材育成を今後もすすめていきます。

薬剤室 課長 鈴木 景就

糖尿病療養指導士の資格習得に向けて

医療技術部 薬剤室 松倉 瑞希

当院に入職してから4年目になりました。現在私は3B病棟を担当させていただいています。薬剤師としては、まだまだ知識不足なことが多く、先輩薬剤師に教えてもらうことも多く、未熟さを日々痛感しています。そんな私ですが、糖尿病療養指導士の資格修得を目指し、平成30年3月に試験を受けてきました。糖尿病療養指導士とは幅広い専門知識をもち、患者の糖尿病セルフケアを支援し、糖尿病治療にもっとも大切な自己管理(療養)を患者に指導するスタッフのことで、この資格は一定の経験を有し試験に合格した看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士に与えられる資格です。

今回この資格を修得するにあたり、糖尿病について無知な私は、一からテキストと問題集を使用し勉強しました。テキストを開いた瞬間、わからない内容が多く驚きました。それはこの資格が薬剤師だけの資格ではなく、他職種の内容である栄養や運動・検査など多くのことが書いてあるからです。テキストを読んで問題集を説いてもなかなか理解できなかった部分は先輩薬剤師や栄養の部分では栄養士さんに教えてもらいながら勉強しました。勉強を始めてからは自分の知識のなさや記憶力の低さに驚きましたが、日々の仕事の中で勉強したことを活かせることが多く（特に検査値など）、仕事をしながら覚えていくことも多々ありました。勉強する前は薬剤のことばかり気にしていましたが、勉強してからは薬剤のことだけでなく、生活習慣

についての重要さも再確認することができました。そのせいなのか、患者さんとお話する際、生活習慣についても気にして聞き出すようになったような気がします。

まだまだ勉強中で、わからないこともたくさんあります。患者さんとの日々の関わりの中からどうしたら良いか悩むことも多いですが、今後も勉強したことを活かしていけるように頑張っていきたいと思います。



臨床検査室

【スタッフ】

坂上 延雄 室長 診療情報管理士
 認定臨床化学・免疫化学制度
 保証管理検査技師
 辻田 早苗 技術課長 超音波検査士（循環器）
 NST専門療法士
 木谷 洋介 技術主任
 末藤智枝子
 一条 周一
 高橋 賢規
 小林 拓真
 向田 真綺
 伊藤 朱莉
 逢坂裕美子 NST専門療法士
 伊藤 千春（助手）

【部署の特徴】

検体検査や生理検査等の検査業務が主となりますが、院内の様々な支援業務を行い医療技術部の枠を超えて、診療部・看護部・事務部等の部門間の連携がスムーズに行われるように技術支援を行っている部門と考えています。

【実績】（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

（検体検査）

生化学	免疫	血液	検尿	血糖・HbA1c	止血機能	血型	交差試験	輸血人数	CGM
43,857	10,535	37,849	29,211	41,980	4,859	2,423	1,452	551	69
△2,621	▲9	△2,462	△1,845	△6,151	△371	△226	△272	▲24	△5
106%	100%	107%	107%	117%	116%	110%	123%	96%	108%

（生理検査）

心電図	ホルター心電図	肺機能検査	眼底検査	聴力検査	トレッドミル	ABI
7,692	167	1,067	189	3,103	19	265
△115	△11	▲86	△40	△144	△11	▲7
102%	107%	93%	127%	105%	238%	97%

頸動脈エコー	NCV（技師）	脳波	睡眠検査	心エコー（技師）	下肢静脈エコー
68	2	67	11	522	19
△17	▲2	▲33	▲19	△75	△17
133%	50%	67%	37%	117%	950%

【平成29年度の取り組み】

- * 検体検査項目で昨年度を上回る処理検体数でした。平成28年度にFMSに於ける機器の見直しをしました。大きなトラブルもなかったと思われます。また生化学検査機器を2台体制にしたため、試薬の交換や機器トラブルが発生しても報告の大幅な遅延が解消されてたと思われます。
- * 平成28年度から取り組んでいるパニック値の報告ですが、病棟の負担にならず医師に確実に伝わるような方策に取り組み中です。Hb8.0未満のデータの

報告、輸血製剤期限が5日以内になった在庫情報のお知らせ及びそのコール&レスポンス等の情報提供を継続しています。

- * 今年度は新人職員が2人入職いたしました。業務の中で曖昧になっている事を見直し、新人職員にもわかりやすく業務に取り組めるように日々取り組んでいます。
- * 市内の高校生の体験ツアーや済生会健康フェスタに参加して、一般の方と交流を深め、臨床検査業務を紹介しました。

【今後の目標】

今年度と同様、診療部・看護部など病院全体から検査に関して必要とされる様々な事柄に丁寧に対応していきます。医療技術部の横のつながりをより密にして患者さん、病院運営に更に貢献できるように活動していきます。若手技師へのスムーズな業務の移行、教育

支援を強化していきます。様々な勤務形態の中で働きやすく、能力を発揮できるような職場環境作りを目指していきます。

臨床検査室長 坂上 延雄

2年目の考察

医療技術部 臨床検査室 小林 拓真

私の名前を見て顔が思い浮かぶ方はいるのでしょうか。検査室に籠りつつ働き2年目を迎えました。

自分の働く理由を考えたことがあるでしょうか。まだ20代前半、働き始めて間もないひょっこがこのようにことを説くのも烏滸がましいような気もしますが、「普段は意識しないようなことをゆっくりと考える」この時間が私は好きなので少しだけ共有できたらと思います。

働く理由は大きく分けて2種類、仕事自体に対するものか、それによって得られるお金の為でしょうか。お金の為というのも、さらに分け、生活・家族・趣味など様々でしょう。

私の場合はまず趣味の為です。私の趣味は音楽鑑賞・電子工作・お菓子作り・化学などあり日々金欠です。初めは普通の音楽プレイヤーで音楽を聴いていましたが、そのうちコンポを買い、大学生活中にはアルバイトをしてヘッドフォンにスピーカーにアンプにと揃えました。しかしながらそれでは飽き足らず、電子工学を独学し、秋葉原に部品を買いに行ってはアンプを自作していました。こんな私を見て、教授や講師には「化

学や電子工学が好きなら薬剤師や臨床工学技士を目指せばよかったのに、なぜ検査なんだ？」と言われたのをよく覚えています。

さて、ただの趣味の話に逸れてしまいましたが、私はそのくらい音楽を聴くことが本当に好きなので…また多少ながらも私自身、他人と関わることを好まずにいたため、プライベートではほとんどの時間、音楽を聴いて生活していました。ゆえに、患者さんとの関わりに少し不安がありました。しかし、働き始めて生理検査を担当することが多く、患者さんや職員の方々と様々な立場・年代の人と関わり、大変なことも幾度かありましたが、顔見知りの方もでき、皆さんによくしていただいて、今では直接的に人と関わることのできる生理検査に魅力を感じています。直接関わるからこそ、誰かのためにできることは多く、患者さんから「ありがとう」と感謝された時の気持ちは一生忘れることはできないでしょう。自己満足かもしれませんが、これからも自分ならばできることを見つけて増やし続け、これを患者さんに、職員の方々に還元していきたいと思います。これが私のもう一つの働く理由、やりがいと承認欲求に対する満足感の獲得です。

また次に同じことを考える機会が来たとしたら、現状とどのように変化したか考えるのが楽しみです。それではこれにて本日の考察を終了とさせていただきます。



図1 音楽鑑賞中の筆者

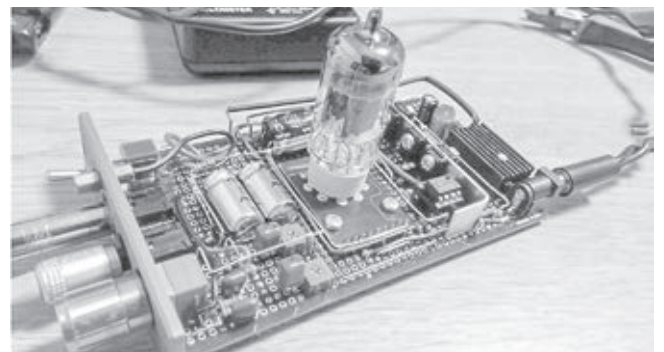


図2 自作ヘッドフォンアンプ

放射線室

【スタッフ】

放射線室長	松尾 寛志
係長	釜石 明
主任	舟見 基
技師	久保田裕美、高橋 詩織、但木 勇太、 内藤 格、小林 洸貴
助手	森 尚美

【部署の特徴】

平成29年度の放射線室は診療放射線技師8名、助手1名の計9名にて24時間365日、撮影業務に従事してまいりました。基本的に、各モダリティーを1週間交代でローテーションし、腹部・頸部エコー検査を4名の技師が、マンモグラフィーは2名の女性技師が担当しておりましたが、途中、職員の妊娠もありローテーションの見直しを行い、一般撮影の一部と画像データの作成・取り込みを中心とした業務にあたってもらいました。

当院の特徴としまして、整形外科医が多数在籍していることから、一般撮影室3室で撮影にあたっている

ことと、外科用イメージ2台体制で手術室業務にあたっていることが特徴といえます。また、平成28年の放射線科医師の退職に伴い開始した内科依頼のCT検査の一次読影を29年度も継続して行っており内科の先生方より評価いただいております。

また、放射線技師が腹部・頸部エコー検査を担当しているのは、比較的珍しいかもしれません。

【設備機器】

・一般撮影装置	(FPD 2台、CR 1台)
・ポータブル撮影装置	(2台)
・乳房撮影装置	(1台)
・外科用イメージ	(2台)
・骨密度測定	(DEXA 1台)
・X線TV装置	(2台)
・CT	(64列 1台)
・MRI	(1.5T 1台)
・超音波装置	(1台)
・放射線情報システム	(1式)

【平成29年度検査実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般撮影検査	1,914	2,057	2,052	1,957	2,220	1,920	2,105	2,429	1,927	1,897	1,877	2,324	24,679
ポータブル撮影	221	200	229	251	210	172	181	162	162	167	194	195	2,344
透視・造影検査	51	63	86	87	104	91	92	66	54	42	49	94	879
嚥下造影	5	4	4	8	7	11	2	4	8	5	4	0	62
乳房撮影	11	22	19	25	16	28	38	29	30	22	29	21	290
骨塩定量検査	73	84	83	72	74	87	64	88	78	98	84	88	973
MRI検査	248	267	280	254	247	258	256	267	270	232	257	247	3,083
CT検査	423	452	498	491	475	397	476	522	464	455	502	518	5,673
オベ室X線透視	55	84	89	70	72	70	85	89	109	77	80	97	977
超音波検査	83	95	112	106	79	84	88	88	81	78	66	77	1,037

【平成29年度の取り組み】

CT検査一次読影の質の向上のため、毎週、札幌医科大学病院放射線科医による画像の読影レポートを技師全員が確認するという取り組みを継続して行いました。また、新しい知識を習得するために、半年に一冊の専門書を読み、15分以内で発表出来るようにまとめて、みんなの前で発表するという取り組みをはじめました。さらに毎週水曜日17時より開催される内科外科放射線科合同カンファレンスにも積極的に参加し知識の習得に努めました。

【今後の目標】

平成30年度から、内科外科放射線科合同カンファレンスは毎週水曜日午前8時15分からの開催となり

ます。早朝からのカンファレンスとなりますが積極的に参加し知識の習得に努めていかなければなりません。また、今年度も半年に一冊の専門書を読み、15分以内で発表出来るようにまとめて、みんなの前で発表するという取り組みを継続して行うことを確認しております。知識の習得だけでなく、伝えたいことをまとめる力、プレゼンテーション能力の向上を目指して取り組んでいきます。

最後に職員の出産が7月予定のため、5月末より産休を、その後は1年間の育休を取得予定しており7人態勢で業務にあたることとなります。幸いなことに「みどりの里」から佐藤係長が水曜と金曜の午前中に手伝いに来てくれることが決まっておりますが、それ以外の時間は一人減の状況で業務をしなければならない

仕事と日常の変化

放射線室 但木 勇太

放射線技師になって5年目になりますが、このように年報に投稿するのは初めてなので、少し自己紹介もまじえて書かせていただきます。私は生まれも育ちも小樽です。当院に入職したのはちょうど病院が築港に移転した年でした。入職して数ヶ月で移転があり、仕事を覚えながら引越し作業もし、大変でしたが貴重な経験でした。また、入職した直後に放射線室内でインフルエンザが蔓延して人手が足りなくなり、自分ひとりでレントゲン撮影をこなさなければならなくなりました。当時は緊張と心細さで逃げ出したいくなっていましたが、今思えば他の同期よりも整形の撮影法の上達は早かったように思います。

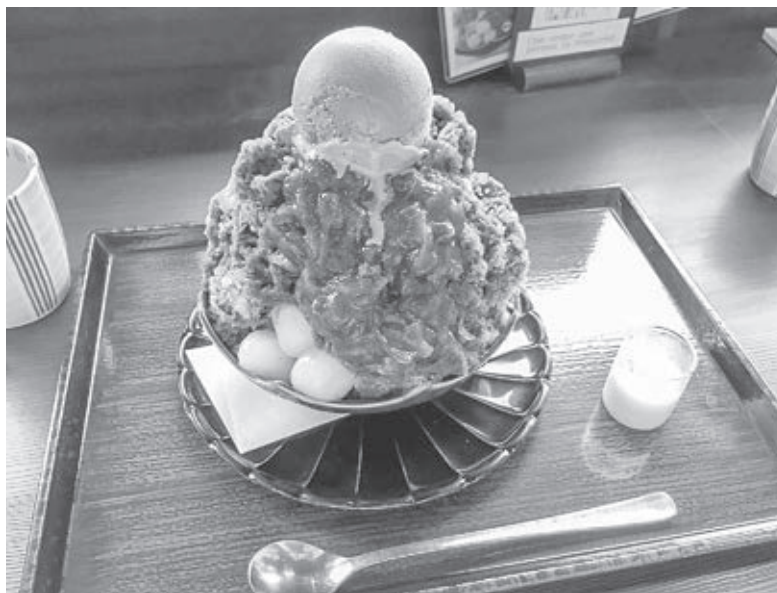
社会人になってからプライベートも充実させたいと思い、なにか趣味を見つけたいと思っていました。もともとスマホゲームや学生の頃から続けているバスケットボールくらいしか趣味が無かったのですが、ここ数年で旅行に行く回数は増えました。高校の修学旅行以来北海道から出ていなかった私にとっては大きな変化だと思います。車で道内ドライブしたり、年に数回は道外にも行くようになりました。海外旅行に行く行動力はまだまだありませんが。

ここ最近では大阪・京都に旅行に行きました。初日は大阪でひたすら食べ歩き、たこ焼屋4軒はしごしま

した。さらに夜はお好み焼きを食べ、ホテルに着いたときには体中からソースの匂いがしました。

京都では祇園や嵐山を中心に観光しました。嵐山の竹林や渡月橋の風景、鴨川デルタ、夜の祇園の雰囲気などすべてが魅力的に感じました。また、お土産品の誘惑がすさまじく、どれもこれも買いたくなってしまいました。両手にたくさん荷物を抱えての観光になってしまいました。最終日に京都駅で買えばよかったのだと後に反省しました。後日、職場で京都が楽しかったという話をしたところ先輩方に「もうおっさんだな」と言われてしまいました。私は大人になったのだとポジティブ考えています。旅行が趣味だと言えるよう、これからもいろんなところへ行こうと思います。

放射線技師としてだいたい経験を積んできて、仕事においても何か変化が必要な時期なのだと思います。現在新たに超音波検査の習得を目指しているのもそのひとつだと思います。以前、ひさしぶりにあった中学校時代の友人に「放射線技師ってレントゲンのスイッチを押す人でしょ?」と聞かれたことがあります。「スイッチを押す人」と言われると、ものすごく簡単なイメージをもたれているように感じましたが、あながち間違いではないようにも思います。検査のたびに患者さんは毎回違いますが、私たちがしている作業はだいたい同じです。だからこそ、自分から変化を求め姿勢がこの仕事には必要なんだと最近思うようになりました。これからも新しいことに挑戦しながら成長できればと思います。



今回は食べてばかりの旅行でした

リハビリテーション室

【概要】

リハビリテーション室 算定疾患別リハビリテーション料

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料 I
- ・運動器リハビリテーション料 I
- ・心大血管疾患リハビリテーション料 I
- ・呼吸器リハビリテーション料 I
- ・がん患者リハビリテーション料

【スタッフ】

室長：野村 信平
 課長：三崎 一彦、平塚 渉
 係長：須藤 榮、髭内 紀幸
 主任：山中 佑香、白井美奈子、松村 真満、
 桧山 朋也
 理学療法士：39名 作業療法士：19名
 言語聴覚士：6名 助手：1名

【業務内容】

地域の中核的医療機関として地域に密着し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が各々の専門性を生かして協働し、患者さんを中心としたリハビリテーション

【実績】

ンを提供することで、患者さんの生活・社会復帰を支援しています。

対象としては運動器疾患、脳血管疾患、神経難病、内部障害（呼吸器疾患、循環器疾患、癌、糖尿病など）等、多種多様な患者さんへ病期に問わず介入しています。

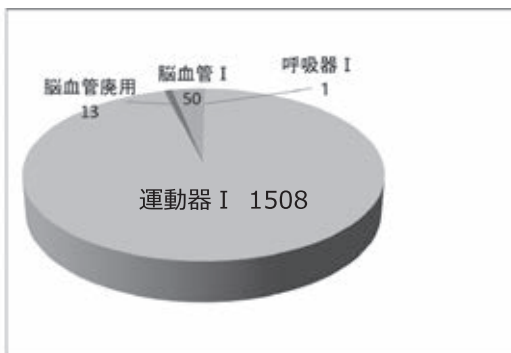
【リハビリテーション室の特徴】

急性期より早期に介入し、多職種と協働しながら早期離床を促しており、院内でシームレスに地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟へと連携を図り、リハビリテーションを提供しています。

回復期リハビリテーション病棟では365日チーム一丸となって協働しながら患者さんへリハビリテーションを提供し、在宅での生活を意識していきいきとした生活を送れる事が出来るよう支援しています。

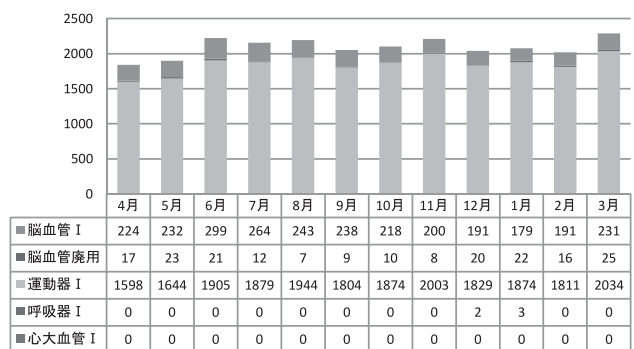
また各種専門外来（スポーツ、栄養サポート）、センター（手・肘、関節外科、脊椎・腰痛、内分泌・糖尿病診療）、チーム（緩和ケア、呼吸・摂食）へ積極的に協力し、より高い専門技術の提供へも努力しています。

処方

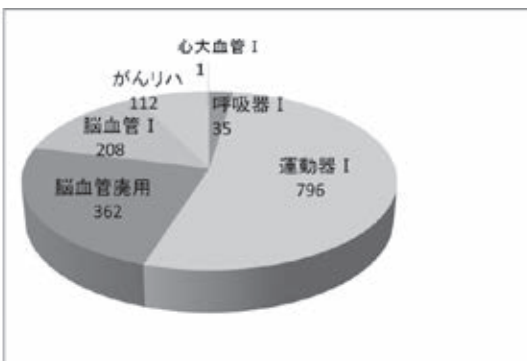


外来

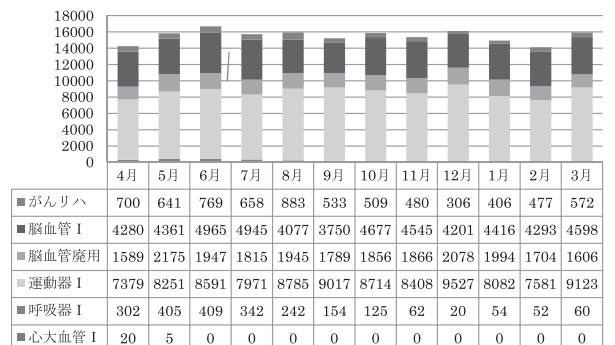
単位数



処方



入院



【平成29年度の取り組み】

業務の効率化：各病棟内で業務量の均一化を図ることをはじめ、非専従スタッフによる病棟の垣根を越えたフォロー体制をとることで、安定したリハビリテーション提供に努め、一定の成果をあげることができました。

地域との連携強化：新たな試みとして、リハビリテーション室主催の「市民公開講座」を7月～12月(計6回)に渡り開催しました。開催当初はごく数名の参加者ではあり、昨年同様、中高校生を対象としたコメディカル体験ツアーや野球検診、済生会健康フェスタ・地域主催の健康フェスタ等への積極的な企画・協力を行うことで、交流を深めることもできました。

安心・安全な技術の提供：転倒・転落予防に関する危険予知トレーニング研修会や安全な介助方法の勉強会等の開催をはじめ、術後のリハビリテーションプロトコルの作成や見直しにより、安心・安全なリハビリテーションが提供できるよう努めてきました。

【今後の目標】

平成30年度は、業務の更なる効率化を図りながらチーム機能を向上させることで生産性を高めていきます。また、教育体制を整備することで、より質の高いサービス提供に努めます。これらによりスタッフ一人ひとりが生き活きと働ける職場環境を目指します。一方で、地域との連携を深めるために、リハビリテ

全国デビュー！

リハビリテーション室 二口 央菜

現在私は脊椎・腰痛センターに所属し、主に疼痛のことを中心に勉強中です。そこで今回私は福島で行われた第10回運動器疼痛学会にて"当院脊椎・腰痛センターにおける入院患者、外来患者に対する治療効果"というタイトルでポスター発表を行いました。

ポスター会場では当院の成績を元に、理学療法士のみならず臨床心理士や企業の方も質問に来て下さり、他職種の方と意見を交換出来るいい機会となりました。

今回の学会に発表者として参加することで引き続き勉強に励み、そして疼痛で困る人の助けになりたいという思いが一層強くなりました。また北海道ではまだ疼痛に関して積極的に取り組んでいる病院は少ないと伺いました。今回の学会では当院より看護師1名、理学療法士4名がそれぞれ発表を行いました。今後も他院とも協力しながら積極的に学会発表等行っていくといいのではと思います。

余談ですが...ポスター発表の会場に質問をしにき

ション室では今年度も定例的に市民公開講座を開催します。また、出前教室や地域個別ケア会議等への企画・参加も行いながら、地域貢献に努めていきたいと考えています。

【理学療法 PR】

可能な限り住み慣れた環境へ戻れるよう、早期から積極的に関わり機能回復を目指しています。また、質の高い技術が提供できるよう日頃から自己研鑽に努めています。院内での取り組み以外にも、地域住人や他サービス従事者との交流の場に参加しながら連携を深めています。

【作業療法 PR】

退院後も住み慣れた小樽、後志で安心して暮らせるよう、病院内のみならず、地域で働く他職種の人たちと連携できるように積極的に院外の勉強会、事例検討会に参加しています。

【言語聴覚療法 PR】

円滑なコミュニケーションスキルや、口から食べる幸せを少しでも長く続けられる手段の獲得を目指し、住み慣れた地域での暮らしを支援します。

リハビリテーション室課長 平塚 渉

ていた方に懇親会で再会したので一緒に写真を撮ってもらいました。

実はこの方...運動器疼痛学会の理事長でした!!!そしてさらに後ろに写っている白シャツの方...この方も学会の重鎮でした...

図らずも大先生達との超豪華な1枚となりました(笑)

そんな写真をとったり、福島の美味しいお肉やお酒も堪能できてとても楽しい学会となりました(^^)

最後にこの場を借りて今回の発表についてご協力していただいた三名木先生をはじめ、リハビリテーション室の皆様にお礼申し上げます。



理事長と



腰痛センター

栄養管理室

【スタッフ】

(1) 職員構成

・栄養管理業務

技術課長：多田 梨保

管理栄養士：権城 泉・前田 紗貴・

松村亜貴子・奥嶋寿美子

・給食管理業務

日清医療食品株式会社 計18名（平成29年4月現在）

管理栄養士：1名

栄養士：3名

調理師：2名

調理員：11名

事務員：1名

(2) 認定・専門資格の現状（同一管理栄養士の重複資格取得あり）

・NST専門療法士：3名

・糖尿病療養指導士：4名

・病態栄養認定管理栄養士：1名

・栄養経営士：1名

・人間ドック健診情報管理指導士：5名

・栄養教諭普通免許：1名

【部署の特徴】

栄養管理業務と給食管理業務は、二分して行っています。入院早期に栄養計画書を立案し、患者個別に必要な栄養量を算出、病態を把握し適切な食事が提供されるよう働きかけています。提供された食事が、きちんと摂取されるよう個別に嗜好調査を行い患者が食べられるような工夫を行っています。栄養管理・給食管理のどちらの知識も持ち合わせていなければ、患者の栄養管理は行えないため給食提供における運営方法、臨床栄養学に基づいた献立作成についてまとめた給食管理業務マニュアルを作成しています。給食委託業者の栄養士にも、当院で行っている勉強会にできる限り参加して頂いています。チーム医療にも積極的に参画し、NSTをはじめ、緩和ケア、回復期病棟、糖尿病領域において、管理栄養士の立場で臨床栄養管理を行っています。外来患者に継続的に様々な栄養指導を行い、疾病の改善・予防に努めています。その他、地域住民の健康改善を目的に出前健康教室を実施、後志管内で唯一特定保健指導を実施しています。

【実績】

(1) 栄養指導実施件数

入院 個人指導	240件	
外来 個人指導	653件	
糖尿病透析予防指導	79件	
特定保健指導	動機付け支援	17件
	積極的支援	14件
合 計	1,003件	

(2) 給食延数

常食	84,425食	
流動軟菜食	34,434食	
ハーフ食	7,141食	
嚥下食	6,914食	
特別食	加算有	51,368食
	加算無	5,602食
経管濃厚流動食	3,602食	
外来透析	2,477食	
患者合計	195,963食	

(3) お楽しみ食提供回数

行事食	20回
日本全国味めぐり給食	16回
あんかけ薬膳焼きそば	6回
石原裕次郎御膳	5回
伊藤整御膳	4回
小林多喜二御膳	4回
どさんこDay	8回
合計	63回

(4) 嗜好調査

年2回実施

<前期>

・対象食種：治療食（エネルギーコントロール食・たんぱく質コントロール食・脂質コントロール食）を喫食している入院患者

目的	入院患者 食事療法の支援として、栄養教育に結びつく食事提供を行うため、患者さんの日常の食事内容や嗜好を調査する。
実施日	5月29日～6月2日

<後期>

対象食種：入院患者全職種（但し、経管濃厚流動食・嚥下食・きざみ食・ミキサー食・流動食を喫食している患者さんは除く）、外来透析食事希望者

	入院患者	外来透析患者
目的	食事の質の向上と家庭料理に近い食事の提供に向けて、患者さんの嗜好や満足度を調査する。	治療食という制限のある中で、食事の質の向上に向け、患者さんの嗜好や満足度を調査する。
実施日	9月26日～9月29日	9月25日～9月29日

(5) 実習受け入れ

学校名	学年	期間	人数	実習目的
藤女子大学	3年	9月25日～10月6日	4名	臨床栄養学実習Ⅲ
天使大学	3年	11月6日～11月17日	2名	臨床栄養学実習Ⅲ
光塩学園女子短期大学	2年	8月21日～9月1日	3名	臨床栄養学実習

(6) 地域住民への健康教育の取り組み

セミナー講師	実施回数
地域住民向け	3回
医療従事者向け(院外主催)	4回

【平成29年度の取り組み】

- ・糖尿病教育入院後の栄養指導の強化、連携クリニックからの栄養指導依頼などに取り組み、栄養指導件数が1,000件を突破し、過去一番の実績となりました。
- ・特別食加算算定率の向上に取り組み、前年度比106%でした。
- ・地域住民への健康教育の講話以外にも、医療従事者の研修会でも栄養管理の必要性について講師を務めました。
- ・QC活動では職場環境の改善をテーマに、作業効率の良い導線作りとPC業務とその他の業務を行うスペースを分けることで環境の整備を行いました。院内のQC大会にて、優良賞をいただきました。
- ・食事サービス向上の観点より、選択メニューの申し込みを週1回から週2回に変更し、入院後早期に選択メニューを提供できるように仕組みに改善しました。
- ・小樽市民の高血圧症予防・改善への働きかけとして行っている小樽ゆかりの人「減塩食シリーズ」という食事提供を行っています。「石原裕次郎 御膳」は、平成29年8月31日に閉館となった「石原裕次郎記念館」ご協力のもと、石原まき子夫人考案のレシピで構成した食事でした。記念館閉館の日には、3食とも裕次郎さんに関連した食事の提供をし、院内放送にてオルゴール調の裕次郎さんの曲が流れる中、食事を楽しんでいただきました。また、夕食時には「石原裕次郎 御膳」誕生秘話がかかれた、当院管理栄養士手作りのしおりを患者さんにプレゼントさせていただきました。

石原まき子夫人にも、「石原裕次郎 御膳」の取り組みをご報告させていただき、大変喜んでいただきました。

- ・「行事食」、「日本全国味めぐり給食」、「あんかけ薬膳焼きそば」、「小樽ゆかりの人減塩食シリーズ」など、お楽しみ食の継続的な提供を実施しました。平昌オリンピックが開催された際には、韓国の郷土料理を提供しました。また、小樽の姉妹都市であるロシア（ナホトカ市）、ニュージーランド（ダニーデン市）、韓国（ソウル特別市江西区）の料理も定期的に提供しました。

【今後の目標】

- ・治療上の医療効果を高めることを目的に、必要な患者には積極的に治療食を提供します。
- ・特別食加算算定率向上の取り組みを継続していきます。
- ・治療の一環として提供している食事ですが、楽しみの要素も忘れずに、引き続きお楽しみ食の提供を継続していきます。
- ・安全で安心して食べられる給食提供と共に、厨房内業務の標準化を図ります。

栄養管理室 権城 泉

Never ending journey

栄養管理室 権城 泉

管理栄養士という資格を得てから今年で11年目を迎えました。管理栄養士になった頃は、漠然とNST専門療法士の資格が欲しいな、糖尿病にも興味があったので糖尿病療養指導士の資格も取得したい・・・と淡い期待と希望を持って就職しました。しかし最初に就いた職場はどれも目指せない職場でした。またその資格を取ったからと言って、どう生かしていけばいいかなんて考えてもいませんでした。とても安易な考えだったと思います。それでも管理栄養士として給食管理や栄養管理を同時に学べて、基礎を養うにはとてもよい環境だったと思っています。

済生会小樽病院に就職し、期待と希望していた資格は、運よく？挑戦できる環境が整っていました。臨床という現場に慣れることなく、就職した翌年にNST専門療法士の試験を受け、合格。そしてその翌年には

糖尿病療養指導士の資格も得ました。そして管理栄養士11年目を迎えた今年、気づけば歴は二けたに突入。新しいステージを目指して、病態栄養専門管理栄養士の資格を取ろうと考えています。しかしこの資格を取ることが、最終目標ではなく、この資格の先にはより専門的な資格を取得することができるため、今回挑戦することは通過点でしかありません。

今は医師の他にも看護師・薬剤師・理学療法士などにも、より専門的な分野がありますが、栄養士の分野にもどんどん誕生しています。管理栄養士になった頃は、どんな栄養士になりたいかなんて考える間もなく、日々の業務や新しい情報を追いかけるのに精いっぱいでした。今は少しだけ、自分がどんな栄養士になりたいのか、なるためにはどんなことが必要なのかが見え、余裕も出てきたように思います。

育児と家事と仕事と、両立することは以前よりもハイレベルになってきていますが、挑戦できる環境があること、目指すべきものが見えてきたことに日々感謝したいと思います。

臨床工学室

【スタッフ】

課長 笹山 貴司
 係長 横道 宏幸
 技士 奥嶋 一允 吉田 昌也 今野 義大
 中村 友洋 及川 尚也 山崎 悠貴
 菊池亜衣梨 中野裕城子

【業務内容】

生命維持管理装置である人工呼吸器や血液浄化装置をはじめとした医療機器の操作および保守点検を中心に様々な医療機器を管理し、安全かつ迅速に医療機器を提供できる体制を整えています。また、高度化・複雑化する医療機器に対応できるよう、最新の知識と技術を習得し、医師や看護師、その他コメディカルとともにチーム医療の一員として、安全で安心な医療の提供に努めています。

【部署の特徴】

血液浄化業務・医療機器管理業務・手術センター業務・内視鏡センター業務と幅広い分野で他の医療職と協働して業務を遂行しており、急なトラブルにも迅速に対応できるよう、24時間・365日のオンコール体制を整えています。また、適切で安全な医療機器の操作を促進するため、看護師をはじめとする幅広い職員に対する研修や、当院独自の医療機器操作マニュアルの作成・改訂を行っています。

・血液浄化業務

透析センターでは、看護師とチーム制で慢性腎不全患者さんに血液浄化療法を提供しており、透析関連装置の保守管理や水質管理、リスクマネジメント業務も担っています。また、体外循環によって血液を体外へ導き、病気の原因となる物質を分離除去する治療法（アフェレシス療法：血漿交換や吸着療法等）にも対応しています。

その他、肝硬変やがんなどによって貯まった腹水（又は胸水）を濾過・濃縮して、アルブミンなどの有用なタンパク成分を回収して安全に体内に戻す治療法（CART）も施行しています。

・医療機器管理業務

院内の高度医療機器を一括管理し、年間点検計画に基づいた定期点検や終業点検を行う事により、安全な医療機器を迅速に提供できるように努めています。

また、停電時に備えてバッテリーの定期交換や、日常的なラウンドにより、人工呼吸器や除細動器・AEDの使用時を含めた点検も施行しています。

・手術センター業務

麻酔器や内視鏡装置等の手術用機器の始業点検や準備を施行する他、内視鏡関連装置の操作や人工関節置換手術時の機器操作・管理も行っています。また、手術野に於ける直接介助業務には、手術件数1175件中435件（37%）携わっており、医師や看護師と協働しながら活躍の場は広がりつつあります。

・内視鏡センター業務

今年度より新たに内視鏡業務に加わり、内視鏡システムや軟性内視鏡（ビデオスコープ）等の始業点検・準備・終業点検に加え、使用後のビデオスコープを再生処理のために洗浄消毒装置により清潔かつ正常に機能することが前提の環境で成り立つよう管理しています。

【実績】

・血液浄化業務

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
血液透析・血液濾過透析	8,629件	9,023件	9,262件
持続的血液濾過透析	26件	6件	7件
単純血漿交換療法	12件	14件	13件
エンドトキシン吸着療法	6件	5件	2件
腹水濾過濃縮再静注法	75件	42件	39件

・医療機器管理業務

(1) 終業点検件数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
シリンジポンプ	241件	303件	265件
輸液ポンプ	744件	806件	903件
人工呼吸器	27件	20件	15件
除細動器	0件	2件	1件
フットポンプ	432件	455件	431件
低圧持続吸引器	16件	12件	16件
エアマット	139件	140件	138件
その他	73件	107件	128件

(2) 医療機器修理件数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
シリンジポンプ	7件	15件	9件
輸液ポンプ	13件	26件	28件
人工呼吸器	3件	5件	4件
除細動器	0件	3件	1件
フットポンプ	3件	6件	7件
低圧持続吸引器	0件	1件	1件
生体情報モニター	10件	15件	4件
透析関連機器	72件	62件	46件
手術関連機器	15件	21件	13件
エアマット	1件	5件	3件
その他	1件	0件	10件

・手術センター業務

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外科腹腔鏡操作	111件	95件	100件
整形関節鏡操作	103件	87件	63件
泌尿器膀胱鏡操作	187件	170件	145件

【平成29年度の取り組み】

医療機器は定期メンテナンスが必要な時期に差し掛かかっており、透析装置及び水質管理関連装置や人工呼吸器に関しては、習得したメンテナンス技術を活かして、部品交換や点検・早期修理を行う事で、トラブルを未然に防いでいます。また、複雑で高度化した医療機器を安全かつ安心して使用していただく為に、院内スタッフ向け機器操作研修会や定期的な広報紙の発行等を通じて、安全情報の周知に努めてまいりました。

一人暮らし3年生

臨床工学室 及川 尚也

札幌の実家を出て、3年が経ちました。それだけ経てば一人の生活も板についてきていると思っていましたが、未だに両親に心配され続けている一人暮らし3年生です。

最初は、何の不自由もせず一人の生活を謳歌できるだろう、と思っていましたが現実には甘くなく、押し寄せる家事に日々、奮闘しています。少し大袈裟かもしれませんが、自分が思っていた以上に家事が苦手でした。少しサボると溜まっていく食器や洗濯物、お風呂やトイレ、リビングの掃除、食材や日用品の買い出し…。実家に居たときは、いかに両親に甘え、楽をしてきたということが痛感させられました。

今となつては、家事も難なくこなしていけるようになりましたが、それは、2か月に1回ほど両親の抜き打ちチェックがあるからです。親の仕事のついでに顔を見せに来てくれるのですが、その時に汚くしていると酷く怒られるのです。その甲斐あって家事も一人前にこなしていけるようになりまし。両親から見ればまだまだのようですが…。

親に迷惑をかけないという思いで一人暮らしを始めましたが、まだまだ迷惑かけっぱなしで情けない限り

【今後の目標】

医療機器のメンテナンス研修や学会参加を通じて得た知識を活かし、医療機器の安全使用に向けた院内研修会の更なる充実に努めます。また、ME機器の中央管理化を推進すると共に、院内のRST（呼吸サポートチーム）の一員として、人工呼吸器の適切なセッティングやスムーズな呼吸や無理のない離脱ができるように、他の医療スタッフに適切で安全な使用を啓発してまいります。その他、アフレンス業務の拡大や手術センター業務・内視鏡センター業務の充実を図りながら、地域住民の皆さんの健康と安全を陰で支えてまいります。

臨床工学室 奥嶋 一允

です。定期的に両親に会えるので、親孝行といえるほどでは無いですが食事に誘ったり、温泉に行ってみたりと少しでも両親と楽しい時間をどう過ごすか考えるのが今の楽しみです。これからも、健康第一をモットーに、仕事もプライベートも充実した生活を送れるように日々、精進するばかりです。



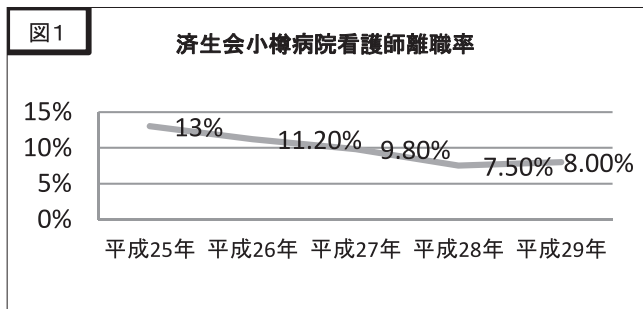
埼玉西武ライオンズの応援に
メットライフドームまで行った時の1枚

看護部

■ 総 括

【看護部概要】

- 看護部職員：218名（平成29年4月1日）
 - ・看護師 156名
 - ・常勤看護職員在職年数17.9年
 - ・准看護師20名（学生13名含む）
 - ・常勤准看護職員在職年数6.9年
 - ・看護補助者41名（介護福祉士7名含む）
- 看護師離職率：8.0%
- 新採用者離職率：0%



- 看護方式：固定チームナーシング
- 平成29年度 病床稼働率
 - ・一般病棟155床 稼働率79.7%
(入院基本料7対1)
 - ・地域包括ケア病棟53床 稼働率85.1%
(入院基本料13対1、看護職員配置加算150点)
 - ・回復期リハビリ病棟 I 50床 稼働率92.1%
(入院基本料13対1)

【看護管理者の紹介】（看護課長職以上）

- ・看護部長 大橋とも子
- ・看護次長 松江知加子
- ・看護室長 金澤ひかり
(4B 包括ケア病棟看護課長兼務)
- ・看護主幹 石渡 明子 (緩和ケア認定看護師)
- ・看護課長
 - 3A病棟：浅田 孝章
 - 3B病棟：伊藤 瑞代
 - 4A病棟：児玉真夕美
 - 5B病棟：小松多津子
 - 透析センター：今野 晶子
 - 外来：澤 裕美
 - 手術センター：谷川原智恵子
 - 教育専従：早川 明美
- ・看護係長9名 看護主任9名

【平成29年度の活動について】

平成29年度看護部目標

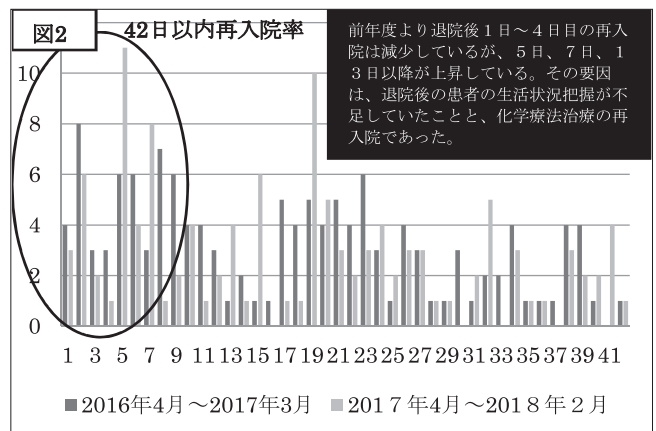
1. 患者・家族に寄り添った退院支援
2. 安全・安心な個性のある看護の提供

≪目標設定理由≫

2025年問題に向け、昨今、退院は大きく変化し、退院がすなわち治療のゴールではない。すべての世代の人々が、どのような健康状態であれ、地域で希望を持って暮らすことができるように、看護職にはあらゆる場で看護を提供する役割がある。退院後の生活を見据えた個性のある看護の実践が皆無となる。外来や急性期などのあらゆる場において、病態の変化や疾患、患者背景を包括的にアセスメントし個別的な看護計画を立案することが必要となる。ケアの受け手が『その人らしい選択』ができるよう意思決定を支援できることが目標である。

□看護部目標評価

1. 患者・家族に寄り添った退院支援



高齢化率37.1%【H28.1】（高齢者：45,478人/人口：122,438人）の小樽市の独居、認知症、老々介護は退院困難な事例も多い。42日以内の再入院は前年度より減少しているが、地域包括ケア病棟の60日越えの患者は前年度の24人から27人と増加している。図2（100日越えもいる）高齢化の進む地域医療を支えるためにも、退院後の生活を視野に入れた個性のある地域へつなげる看護の提供を今後も強化する必要がある。

看護部に関する苦情は、平成28年度は36件、平成29年度は11件と前年度より25件減少。苦情内容は、廊下での私語や身だしなみ、患者家族への配慮不足などであった。お褒めやお礼に関しては、前年度23件で今年度は16件と7件減少しているが、いただいたお礼には長文の手紙が多く、感謝の言葉が多かった。

中には、亡くなられたご家族よりいただいた感謝の手紙が5件あった。お礼の内容からも患者、家族の思いに寄り添った看護が実践しつづけていると考える。

2. 安全・安心な個別性のある看護の提供

平成29年度のインシデント発生件数の転倒・転落が、前年度より56件減少となったが、与薬（内服・外用）が33件の増加であり、前年度から1.8倍の発生となった。

転倒・転落件数は前年度245件であったが、平成29年度は189件であり、22.8%の減となった。その要因は、各部署での対策強化に加え、せん妄対策が早期から図れたこと、せん妄薬剤マニュアルの整備、認知症リンクナースの活躍等が転倒・転落防止に繋がったと思われる。

与薬に関しては無投薬などが増加傾向にある。患者の情報収集不足や与薬時の手順等のシステムの見直しが必要である。

【看護部BSC評価】

《財務の視点》

一般病床の稼働率が79%と目標値を下回る結果となった。病床管理委員会を中心に看護部管理者と改善に向け取り組んできたが、新規入院患者数は増加しているにも関わらず、在院日数の短縮などが稼働率低下の要因となった。入院基本料7対1算定要件である重症度医療看護必要度についても、医事課と共に病棟管理者が取得漏れなどの確認を週3回行い、退院支援スクリーニングの確認と共に積極的な取り組みを行った。地域包括ケア病棟の稼働率は前年度より上昇したが、ポストアキュートが中心である。今後はサブアキュートの受け入れも強化しなければならない。

《顧客の視点》

看護部の今年度の目標の評価を参照。
平成29年度は新人看護師教育体制の見直しを行った。（看護部係長会）【済生会小樽病院なでしこナースサポートシステム】が完成した。新人看護師の相談役として、悩み事などの精神面をサポートする先輩看護師を配置した。ここ数年看護師の離職率も低下しているが、さらに実習の看護学生や、職員の顧客満足度の向上にも取り組む。（図1）

《内部プロセス》

多種多様な専門職がそれぞれの専門性を発揮できるよう、前年度よりチーム医療の強化に努めてきた。その中でも、退院支援については看護師が中心となるよう取り組みを行ってきた。しかし、現状は地域包括ケア病棟や、回復期リハビリテーション病棟へ転棟後に介護保険の申請を行う状況が未だあるのが現状である。次年度も、早期から患者の生活を視野に入れた退院支援に実現に向けた看護の提供を目指す。

《学習と成長の視点》

平成29年度は、済生会研修参加者が48人となった。アドバンスマネジメントⅡ研修の開催施設が当院であったこともあった。13名の中堅看護師が『コーチング研修』に参加し、将来の管理者候補として多くの学びを得ることができた。他、北海道看護協会の研修参加を含め前年度より20人増の参加となった。

【今後の目標】

患者さんが、その人らしく安心して地域で生活できるよう、個別性が高く、総合的な看護の提供ができる人材育成に取り組む。

平成29年度新人看護師と中途採用看護師



浅田課長と頼れるナースマン達



看護部長 大橋とも子

3A病棟

【スタッフ】

浅田 孝章 看護課長
原田 真里 看護係長
岸本 悦子 看護主任
看護師：29名

(うち短時間正職員：3名 夜勤専従：1名)

看護補助者：8名 医療クラーク：1名

【部署の特徴】

3A病棟は外科・泌尿器科・循環器内科の混合病棟です。主に急性期の患者さんの看護にあたり、周手術期看護を中心とした急性期看護、重症患者管理を行っています。前立腺の検査から消化器系の癌の手術、透析療法、うっ血性心不全と幅広く、手術前・後の状態だけでなく健康レベルも様々です。また、高齢者が多く、患者さんだけでなく、家族を含めた援助が多く、高い看護スキルが求められます。

患者さんが早期に退院できるよう、看護師が中心となり医師と連携を図り、他のメディカルスタッフと定期的にカンファレンスを開催し、チーム一丸となり日々取り組んでいます。

【実績】

平成29年度

入院患者数	退院患者数	利用率	平均在院日数	手術件数
871人	658人	78.55%	14.1日	501件

【平成29年度の取り組み】

平成29年度の看護部のBSCは、・患者、家族に寄り添った退院支援、・安全、安心な患者中心の看護の提供でした。

そこで、病棟目標は、①退院支援を強化し、早期に退院できる、②転倒・転落を減少させて安全な療養環

境を提供するとして取り組みました。日々多忙な業務の中、多々ある活動の中でシンプルな取り組みができればと考え、病棟目標とチームの小集団活動をリンクさせて取り組みました。チームをまたいで小集団活動したことで、病棟の中でチームによって関わりが違ったということが無く、統一した取り組みができたのではないかと思います。

①の退院支援については、まだまだ、退院支援表や運用フローの浸透が足りなく、上手に活用できていない事もありました。来年度も引き続き運用フロー、フローチャートシートの活用ができているかを確認し、今後も継続して退院支援に繋げていこうと思います。

②の転倒転落については、状態変化時の認識を統一し、転倒転落シートの活用に取り組みました。この取り組みにより、転倒転落の減少につながりました。

【今後の目標】

今年度、看護部の戦略テーマは、『社会、医療情勢の変化を見据えた変革』です。専門職として、常に最良の看護を提供していくためには個々の知識、技術も向上していかなければなりません。また、処置や技術は共有され、誰が担当しても同じ看護が提供できればなりません。そうすることで、安全で安心した看護が提供できると考えます。

当病棟の今年度の目標は『多職種と連携を図り、患者・家族の臨む退院支援を実践する』『専門的知識・技術を高め、根拠に基づいた看護を提供する』です。看護部が目指す、生活を視野に入れた個別性のある看護の提供、現状の看護実践を評価し、質向上に取り組んでいきます。

看護係長 原田 真里



8年目になりました

3A病棟 石丸 恵子

看護助手として入職して、准看護師、看護師となって8年目になりました。看護助手、看護師のときは学校に通いながらの仕事だったため、その両立が大変だったという思い出が大きいです。一方で、仕事をしていたため学生時代の実習や国家試験対策としての知識が実践と繋がりがやすく、働いていてよかったと強く思いました。

准看護師のときから外科・泌尿器科病棟に勤務しています。病院移転後からは循環器内科も一緒になり、看護師としてまだまだ覚えなければならいことが多く、日々先生方や諸先輩方にお世話になっています。プリセプター、チームリーダーを経験し、研修にも参加させて頂きました。学んだこと、教わったことを実践していくと共に、後輩に伝えていけるようになることが今後の目標です。

看護師になって

3A病棟 照井那奈美

看護師として働き始め、今年で2年目となりました。緊張と不安でいっぱい、仕事が終わりに家に帰った後も、仕事のことを思い出して、「今日大丈夫だったかな」と不安になる毎日です。しかし、わからないことや不安なことは先輩たちがやさしく教えてくださり、悩んだ時にも相談に乗ってくださる方がいるからこそ、日々乗り越えることができ、もっと頑張りたい、色々な事を経験してみたいと思うことができます。

周りの方々の支えがあることや、充実した研修が組まれていることなど、恵まれた環境に感謝をし、初心を忘れずに、日々働いていきます。これからも勉強に励み、患者さんにとってよりよい看護を提供できる看護師になれるよう、これからも頑張っていきます。そして、いつかは自分も先輩方のように、患者さんからもチームメンバーからも頼られる看護師になりたいです。



3B病棟

【スタッフ】

伊藤 瑞代 看護課長
中山 優子 看護係長
斉藤 亜妙 看護主任
看護師 24名 准看護師 2名 看護助手 7名

【部署の特徴】

3B病棟はH28年度まで急性期整形外科単科の病棟でしたが、本年度より内科医師1名が配置となり、糖尿病、甲状腺専門とする急性期内科病棟の混合病棟へ編成されました。

【実績】

病床利用率	平均在院日数	入院数(転入数)	退院数(転室数)	手術件数
77%	13.5日	1,135名	1,130名	856件

【平成29年度の取り組み】

「患者さんに寄り添い、患者さんを見る」「チームで協働し、看護にやりがいを持つ」ことを目指し取り組んできました。チーム目標は患者さんと看護計画を共有する、苦手意識なく内科患者を受け入れるための活動をしました。その結果、すべての患者さんと計画を共有することはできませんでした。患者さんの声をしっかり聴くこと、データベースの情報追加、情報共有の重要性、看護計画は看護者だけのものではないことを再認識できました。苦手意識なく内科患者を受け入れられるよう、定期的学習会やマニュアルの見直しをすることで、内科疾患に関する知識、検査手順等が習得でき、日々学習の必要性を再認識し、看護師の漠然とした不安が解消することができ、安全な看護の一助とすることができました。

急性期整形は幼児から超高齢者の幅広い周手術期看護をし、患者さんの最善になるように比較的早期に回復期、リハビリ病棟、包括病棟へ移動していただきます。急性期内科は内視鏡検査・治療と専門である糖尿病教育入院など、以前に増して知識の向上と、安心安全な看護をめざしています。看護師24名中、力強い男性看護師が院内で1番多く6名おり、整形外科医師は毎年3名～4名フレッシュな医師が入職されます。3B病棟は患者、家族に寄り添い、満足していただける退院ができるように看護師の力を発揮し、医師、他職種と連携し支援しています。

【今後の目標】

生活を視野に入れた個別性のある看護の提供を念頭に平成30年度も引きつづき、患者さんと目標を共有することに取り組んでいきます。DPCが開始され、短期化する入院期間、煩雑化する急性期病棟のなかで、医師、多職種との協働はもちろんですが、看護師が中心的役割として患者家族の思いを確認し、カンファレンスを行い、看護計画を患者さんとの信頼関係を築く入院になくてはならないものにしていきたいと考えます。今後も3Bは元気で明るい笑顔が素敵な病棟として頑張ります。

看護係長 中山 優子



入職2年目

3 B病棟 大村 和史

正看護師4年目、入職して2年目の大村です。覚えが悪くまだまだ未熟者の私ですが早く一人前になって、患者さんや病棟スタッフの皆さんの役に立ちたいと日々頑張っています。私は正看護師3年目で入職しましたが病棟勤務の経験がありませんでした。病棟勤務を希望してきましたが実際に働くとなると、知識・技術ともに足りない状態で不安がありました。しかし、看護部の新人研修に参加させてもらって基礎技術を学びながら働けたことで不安は少なくなりました。病棟スタッフの皆さんも中途半端な新人の私に、出来ること出来ないことを確認しながら指導してくれ、学びやすい環境だったので不安なく働けました。済生会で働けてよかったと思っています。

仕事以外にも済生会に入っていることがあります。野球部に誘われてプライベートも充実していることです。野球を通してコメディカルとコミュニケーションがとれるので、シャイな私は職場で話せるスタッフがいて助かっています。さらには病院対抗のソフトボール大会にも参加させてもらって「なんていい病院だ」と感謝しています。

終わりに、患者さんへの質の高い看護ができるように、今後もスキルアップできるように精進します。これからも夫婦ともども宜しくお願いします。



筆者 一番右

子育てとの両立

3 B病棟 田中 寛子

皆さん、こんにちは。私は3 B病棟で短時間正職員として勤務している田中寛子です。

小学校3年生の娘と3歳の息子の子育てをしながら、働いています。

3歳児の息子は、暴れん坊でスーパーに行くたびにただの追いかけてこととなり、スーパーの肉や鮮魚の調理場まで走っていくこともあり、子育てに悩んでいました。しかし、職場のスタッフの方々が話を聞いてくれ、悩み事が笑い話に変えてくれ、子育てのストレスを解消しながら働いています。

娘は、茶わん洗いや洗濯を手伝ってくれ、寝る前にマッサージもしてくれます。最近ではやきそばや焼うどんを調理してくれ、私がしっかりしていない分しっかりしています(笑)「ママ、しっかりして」と言われることも(笑)

娘の児童クラブの迎えの都合で平日17時10分までの勤務ですが、17時10分になるとスタッフの皆さん、優しく「帰れるかい」と気を使ってくれて感謝と申し訳ない思いでいます。なので、勤務中には自分の任務を迅速に正確に実施しながらスタッフの皆がスムーズに働けるようにと動いているつもりですが、まだまだだと日々感じています。

また、学生指導も受けもっていますが、指導の都度、勉強不足を痛感します。

今後は看護師のよい模範となり、学生さんが「この病院で働きたい」と感じて入職してくれたらなという目標をもって取り組んでいきます。



4 A病棟

【スタッフ】

兒玉真夕美 看護課長
岡本 麻理 看護係長
千坂あかね 看護主任
看護師26名 准看護師3名 看護補助者7名
医療クラーク2名
(うち短時間正職員2名、パート看護師3名 育児休暇中1名)
専門・認定資格 内視鏡技師1名 認知症ケア専門士1名

【部署の特徴】

内科では内視鏡手術や術前精査、肺炎などの感染症、がんターミナル期の疼痛緩和などの看護にあたっています。とくにがんターミナル期の看護は緩和ケアチームと連携を図るために病棟から2名のリンクナースがチームに参加し多職種と情報を共有することで患者さんの為に出来る事をスタッフみんなで実現できるように日々関わっています。神経内科では脳梗塞急性期から慢性期、パーキンソン病や筋委縮性側索硬化症(ALS)、慢性脱髄性多発神経炎(CIDP)といった神経難病のため入退院を繰り返している患者さんや病状の進行によって日常生活を送る事が困難となる患者さんもいるため、ご家族の方とも積極的に関わり、患者家族が望む日常を送る事ができるように支援していきます。また、高齢の患者さんでは認知症の既往がある方や、入院後せん妄になってしまうことがあります。そのような中でも必要な治療を受けることができるように認知症ケアチームのリンクナースを中心にチームで統一した関わりを行なっています。認知症ケアのリンクナースは更なるスキルアップを目指し認知症看護の認定看護師資格取得の為、北海道医療大学の入学試験に合格し来年度から資格取得を目指すことになりました。スタッフ一同認定看護師になって病院で活躍する日を心待ちにしています。

【実績】

平成29年度

入院数(うち転入数)	909人(55人)
退院数(うち転出数)	906人(238人)
病床利用率	82.9%
平均在院日数	16.9日
内視鏡件数	478件

【平成29年度の取り組み】

今年度の病棟の目指す看護は「患者や家族の思いに寄り添い、受け持ち看護師として責任を持って看護を展開していく」とし、部署目標を「受け持ち看護師として役割を発揮する」としました。受け持ち看護師が患者さんの情報を把握しチーム内で共有することで統一した看護が提供できると考え、データベースの追加、修正を受け持ち看護師が行う取り組みを行いました。そして、看護計画の評価、修正が適切な時期に行われるように監査を行っていきました。目標を8割以上とし、日々活動を行ない、年度末の評価では目標を達成する事ができました。部署目標の評価としては受け持ち看護師の役割と業務チェックシートを用い5月と2月に評価を行ないました。結果、全員評価の点数が上昇し、受け持ち看護師として責任を持って患者に関わろうという姿勢が表われた形となりました。

【今後の目標】

受け持ち看護師としての役割、業務の理解度は高くなり、看護計画の評価、修正も遅れなく行えるようになりました。今後はさらに受け持ち看護師として個別性のある看護が提供できるように知識を深めるために学習会を行い、看護の専門性を高める取り組みを行っていき、患者さんそれぞれに必要な看護が提供できるよう日々頑張っていきたいと思います。

看護係長 岡本 麻理



看護師4年目を迎えて

4 A病棟 佐藤 琢己

入職して4年目を迎えました。4年目の今年はリーダー業務をはじめプリセプターを経験させていただき今まで先輩方が行っていた業務やチームとして働くことの大変さに四苦八苦しなながら日々患者様のために何ができるか考えながら勤務にあたっております。休日疲労からなのか寝る時間、食事が増えてしまいメタボリック一直線な生活を送ってしまい入職時と比べ体重が8キロも増えてしまいました。このままではイカンと思いはじめ2月より週3日ランニングを行い、スポーツジムに通い始め、今では体重も6キロ減り少しずつではありますが絞られた体形に近づいていると思っております。

北海道での看護師生活は。

4 A病棟 鈴木智香子

大阪からいつか住みたいと願った北海道へ移住・入職し今年で3年が過ぎました。入職当時は踏み込んだことのない土地と生活にドキドキしながらも、不安を抱え自分のことで一杯になることが多くありました。ようやく警戒していた冬を乗り越え、生活に慣れたと思っても仕事への緊張感と共に知識や技術の不足、責任の重さを感じ看護師として自分が思い描いた看護の理想と現実の差に疑問を抱いたり、何度も「これでいいのか」と自問自答することもあります。時にいっそのこと仕事を投げ出して故郷に帰ろうかと思う時もありました。そんな日々の中でも自分の看護が少しでも患者さんから「ありがとう」と感謝されたり笑いかけ

最近では、走れる距離も長くなり病院からおたる水族館への往復ができるようになってきました。最近の僕の目標は来年のおたるロードレース、そして北海道マラソンに出場し完走することです。仕事、プライベートと両立させ日々の生活を前向きに過ごせるようにしていきたいと思います。願わくば来年マラソンを完走しメダルを持っている自分でいられることを期待したいと思います。



られたりすると、勢いで航空チケットを取ることを踏みとどまることができます。また、チームの一員として少しでも役に立てたと思える瞬間は看護師としてのやりがいを感じることができます。

それでも心身共に疲労してしまったときは、いつも相談に乗ってくれる同期生や、優しく楽しく接して下さる先輩方と共に、小樽だけではない北海道の美食や開放感溢れる自然の地を求めてドライブに行ったりと、自分ひとりだけでは満喫できない北海道生活を送っています。しかし冬の雪道と夏の短さ、衣替えの時期等にはまだまだ慣れず日々模索しながら過ごしている部分も多いです。

看護師としても未熟な部分が多いですがプライベートも充実させ、少しでも患者さんと向き合い笑顔と安心を引き出す関わりが持てるよう自分も成長させていきたいと思います。



ザンギとレモンサワーは相性抜群！



冬の北海道にて



美味しい食を求めて

4 B病棟

【スタッフ】

金澤ひかり 看護部室長（病棟看護課長兼務）
伊井 洋子 看護係長
伊藤 理恵 看護主任

看護師 19名 准看護師 4名 看護補助者 9名

【部署の特徴】

4 B病棟は地域包括ケア病棟です。急性期病棟で治

療や手術などを終わられた患者さんを中心に、日常生活の援助や退院に向け環境の調整を行っています。また、小樽市は高齢の方が多いため、退院後は少しでも長く地域で生活できるよう、看護師はもちろんリハビリテーションスタッフ、薬剤師、社会福祉士など、それぞれ専門職の立場として意見交換し情報の共有に努めています。年々患者さんやご家族の訴えも多様化し対応に悩むこともありますが、患者さんの望むゴールを見失わないよう日々看護ケアを実践しています。

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院(院内)	41	51	52	40	60	48	42	39	43	47	50	46
入院(院外)	4	1	7	12	3	7	8	12	8	13	9	5
退院	45	53	57	48	60	49	46	51	63	48	55	62
病床利用率(%)	85.1	80.8	83.6	81.8	87.5	81.6	85.0	87.0	88.6	80.2	89.0	90.7

【平成29年度の取り組み】

今年度は退院支援を積極的に進めるために、チーム医療の中の看護師の役割を意識しました。病棟目標を『医療チームの中で看護師の役割を發揮し、チームの中心となって退院支援・調整を行う』としました。

退院支援を行う上で、患者さんやご家族とコミュニケーションを図り、多職種と情報を共有することが重要です。入院は患者さんにとってもご家族にとっても日常生活とはかけ離れたところにあります。そのことを忘れず看護師としての視点を持ち、退院後の生活が安全で、患者さんやご家族が望むものであるのかを見極めなければなりません。患者さんに寄り添い医療者側との橋渡し役として看護を実践するよう努めました。が、患者さんやご家族の望むゴールが必ずしも退院時

の姿と重なったわけではありませんでした。

私たちは患者さんやご家族一人一人と向き合い“その人だけの看護”を行っていきたくと思います

【今後の目標】

平成30年度は、チーム医療のキーパーソンとして院内のみならず、地域包括ケアシステムにかかわる地域の方々や情報共有できるよう積極的に働きかけていきたいと思っています。院内で完結するのではなく、地域の方々や交流することで情報の伝達がスムーズになったり、外来での継続看護や予防につながっていければと考えています。

看護係長 伊井 洋子



看護補助者になって2年目

4 B病棟 山中 幸子

私は済生会小樽病院で働き始めて今年で2年目になります。仕事と家事と3児の子育てに毎日奮闘しています。

入職のきっかけは、当時幼稚園の年中組だった長男も幼稚園の時間外の間、次女とともに付属の保育所で預かっただけのことと、来年7回忌を迎える母の勧めがあったからです。

母は生前、済生会小樽病院が北生病院だったころから20年ほど看護助手として働き、私と兄弟3人を育ててくれました。長く勤めた母が「大変だけどやってみたら？」と言っていたことを思い出し入職を決めました。母は勤めていたころ、「疲れた〜」「忙しかった〜」などと言うことはありましたが、家で仕事の愚痴を一切漏らしたことはありません。私から仕事のことを聞くと答える程度だったので、大変だけど…と言われてもいまいちピンときませんでした。実際に仕事をしてみると想像以上に忙しく、本当に大変な仕事でした。それでもがんばろうと思えるのは、3人の子供たちの存在とスタッフの皆さんのおかげです。入職したころから母を知る助手さんをはじめたくさんの方々に励ましの言葉をかけていただいたり、今では知りえない母の話をしていただいたり、ととてもうれしくありがたいと同時に母を思い出し、また近くに感じられ大先輩の前で涙した日もありました。亡き母に負けぬよう、これからも患者さんに対する真心と、いつも支えてくださるスタッフの皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに、チームの一員として貢献できるよう、そしてパワフルな先輩に負けぬよう頑張っていきたいと思えます。



中央が筆者

済生会へ就職してよかった！

4 B病棟 須貝 春華

看護師となり3年間、急性期病棟でバリバリ働き以前勤めていた職場を辞め、4月に当院に就職しました。急性期病棟ではいろいろなことを経験し学ぶことができましたが、やはり業務の忙しさがあって患者さんとかかわる時間が少なく、日々の業務に追われやりがいを感じることはできませんでした。

地域包括ケア病棟へ配属され退院調整に携わるようになり、患者さんとその家族とかかわる時間が多くなりました。患者さんのこれからの人生をよりその人らしく生活ができるような方法を考え提案し、退院調整をすることにとってもやりがいを感じるようになり、毎日たのしく働くことができています。

そしてもう1つ、当院へ就職してよかったと思うことがあります。それは4 Bスタッフのあたたかさです。新しい職場で1から学ぶことに不安はたくさんありました。しかし、スタッフのみなさんはとても優しく丁寧に教えてくれたので不安な気持ちも忘れることができました。体調を崩し数日お休みをいただいた時、復帰したときにたくさんのスタッフが心配の声をかけてくれました。なんてあたたかい職場なのだろうと感じたのを覚えています。

当院へ就職して、やりがいを感じ楽しく仕事することができ、とても感謝しています。これからも、よろしくお祈りします！



みんなでBBQ！



夏の思い出

5 B病棟

【スタッフ】

小松多津子 看護課長
 藤田真由美 看護係長
 白杵 美花 看護主任
 看護師 12名 准看護師 5名
 介護福祉士 6名 看護補助者 2名

【部署の特徴】

病気やけがなどにより身体・認知機能が低下した患者に対して、急性期での治療を終えて家庭復帰・社会復帰を目的に集中的にリハビリを行うための病棟で

す。患者さんやご家族と共に医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語療法士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士などがそれぞれの専門性を活かしてカンファレンスを行ないチームで目標に向かってリハビリを行います。患者さんの家庭復帰、職場復帰、寝たきり防止のため、病棟では退院後の生活を想定した練習を繰り返すことで、退院後の生活によりスムーズに移れるように日常生活動作の向上を目指しています。また、当病棟では、土曜日、休日も関係なく1年365日患者さんにリハビリを提供しています。

回復期リハビリテーション病棟へ入院対象の方

病名	上限日数
脳血管疾患、背髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍	150日以内
義肢装具訓練を要する状態	150日以内
高次機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷を含む多部位外傷	180日以内
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折	90日以内
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	90日以内
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は股関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	60日以内
股関節又は膝関節の置換術後	90日以内

【実績】

延べ入院患者数/月	病床利用率	平均在院日数	在宅復帰率
1,400名	93.3%	53.3日	96.4%

【平成29年度の取り組み】

今年度は患者・家族が望む退院支援を行いたいと考え「安全で安心して入院生活を送れるように、看護を提供する」「専門職としての自覚と責任を持ち知識・技術を習得する」という病棟目標を掲げて取り組みを行いました。安全に入院生活を送れるように転倒予防を中心に活動を行い、ピクトグラムの統一や看護計画、ケア予定の充実を図り前年度より転倒件数を減らすことが出来ました。また、定期的な勉強会の開催やeラーニングの視聴の促しやテストを行うことにより、専門職としての知識を深めることが出来ました。

【今後の目標】

当病棟は、回復期病棟であり、ADL向上、寝たきり予防、在宅復帰を目的にしています。多職種によるカンファレンスを毎週開催して医師・看護師・セラピスト・社会福祉士などと情報共有や意見交換を行っており平成29年度の在宅復帰率は、96.4%となりました。日々、患者・家族とコミュニケーションをとりセラピストと情報交換を行い目指すゴールに向かって関わっていく必要があります。来年度も在宅復帰率は、

90%を維持したいと考えています。その為、多職種によるカンファレンスで看護師としての役割を發揮し、患者・家族が望む退院先へ退院できるよう退院支援を行っていきたいと思います。

看護係長 藤田真由美



夏祭りの様子です

回復期リハビリテーション病棟へ異動して

5 B病棟 白杵 美花

回復期リハビリテーション病棟に勤務異動し2年になります。今までは外科、泌尿器科、整形外科、神経内科病棟など急性期病棟で勤務をしており、慢性期病棟で勤務することは初めてのことでした。2年前は急性期病棟での主任として経験し、臨地実習指導者として2ヶ月の研修を終え、今後整形外科での主任としての在り方について、どのように病棟で自身の知識や経験を活かすことができるか目標が明確になっていた矢先の勤務異動でした。勤務異動は初めてではなかったのですが、主任として異動することが初めてであること、また、回復期リハビリテーション病棟で主任として受け入れてくれるのか、正直不安でいっぱいだったことや、今まで急性期疾患が多かったこともあり、高次脳機能障害のある患者さんに触れることが少なく、またリハビリスタッフとの連携は少なかったように感じます。

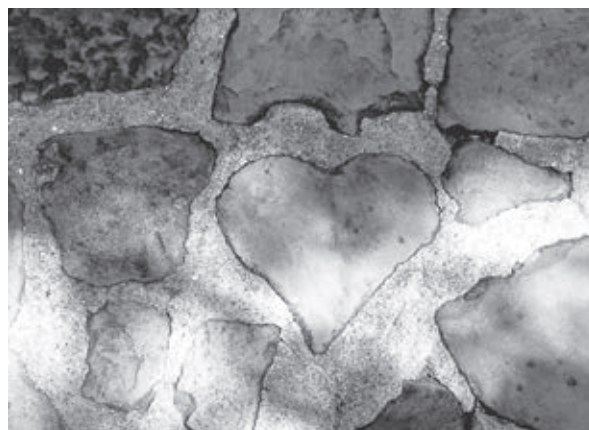
異動後、回復期リハビリテーション病棟で脳血管疾患の後遺症患者も多く入院しているにも関わらず、理解できていなかったことに気付かされました。今まで普通に暮らしていたのに病気や怪我により脳に損傷を受け、考えたり話したりすることに損傷を負った患者さんに対しその患者さんの人権を守り、可能な限り患者さんの主体性を尊重し、本人にとって快適で安心できる対応をしていたつもりでした。高次脳機能障害のある患者さんの退院支援、家族とのかかわりはとても難しくリハビリスタッフとの連携は必須です。高次脳機能障害について理解を深めるためには意識、記憶、感情、注意などの全般的症状や失語失行、半側空間無視などの個別的症状を理解し行動を観察することが大切だと実感しました。日々の記録は患者さんのこういった行動を詳しく記載することが大切です。毎日の日常行動にこそ評価する材料があると思います。今後はリハビリスタッフとの連携を密に取り、看護記録の充実と医療者のアセスメント能力向上、患者さんと接する時間を多く取れるよう、主任として日々お手本となり業務改善や指導に当たってまいります。



リフレッシュで長崎へ



トリックアートと私



触ると幸せになる石畳発見！

回復期リハビリテーション病棟に勤務して

5 B病棟 藤林茂鈴恵

今年の1月から中途採用で回復期リハビリテーション病棟で働かせていただいてから、もうすぐ3カ月が経ちます。

以前は施設に勤務していて、病院で働くのは10年ぶりだったので毎日が不安と緊張でした。まず、日々の業務に慣れる事とパソコンでの記録を打つので精いっぱいでした。すでに勤務して3カ月が経過していますが、パソコンを打つ速度は上がってなく、業務でもパソコン操作でもわからないことが多くあり、スタッフの方々にはご迷惑をおかけしてしまっている状況です。しかし、初めての事や、わからない事をいつでも相談でき、教えて頂ける環境であったので、積極的に聞いていくようにして少しでも皆さんに近づけるように意識して日々業務にあたっています。また、レクリエーション係りとして、患者さんが少しでもベッドから離床してもらう機会を持ってもらうように貼り絵や、輪投げ、風船バレーなどを企画して、運営しています。レクリエーションに夢中になっている患者さんの顔がとても素敵です。

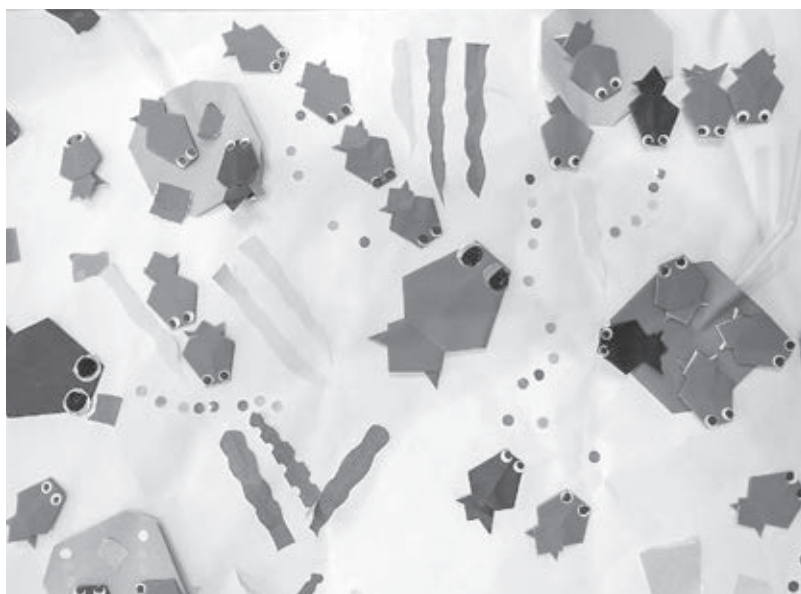
回復期病棟では以前のADLに戻れるように、または近づけるように1日約3時間のリハビリを毎日行っ

て自宅や施設へ退院されますが、患者さんの退院支援をしていく事の難しさに直面しているところです。

退院支援を積極的に行なったことがないため、何のように進めたらよいかもまだ分からないことだらけです。

退院支援の研修では、「患者さんや家族と信頼関係を築くために密にコミュニケーションを取り、患者さんが自宅や施設で生活しているイメージを持ちながらどんな支援が必要か考え進めていく必要がある」とのことでしたが、毎日の業務に追われ、なかなか患者さんとコミュニケーションが図れなかったり、話しても肝心なことが抜けていたり、患者さんが何を思っているのか聞き出せないこともあります。看護師となってかなり時間が経過しているのに基本ができていなくて今まで何してたんだろうと考えてしまいます。

そんな中、他の職種と連携をとって情報を共有していく事で患者さんや家族の思いを知ることができ、少しでも患者さんや家族の方が望む退院支援ができていると知ることができました。その為には、患者さんや家族の方と密に話ができ、多職種との連携も密に行われることが大事だと思いました。進め方だったり、タイミングだったりまだまだ分からないことがたくさんあるため、先輩たちに教えて頂きながら今後も支援していきたいと思います。



レクリエーションで患者さんと一緒に作成した貼り絵です

外来看護課

【スタッフ】

澤 裕美：看護課長
瀬川 信子、吉田真知子：看護係長
高橋 恵、中山 祐子：看護主任
看護師：6名（資格取得者：消化器内視鏡技師3名、
糖尿病療養指導士2名、NST専門療法士1名）
短時間正職員：11名
パート職員：6名
看護補助者：2名
皮膚・排泄ケア認定看護師1名

【部署の特徴】

外来を受診された患者さんが症状に合った診療科を選択され受診される方や何科を受診してよいかを迷っている方のご相談、診療時の介助、採血、検査の説明や介助、治療や入院の説明など外科系・内科系のチームに分かれて行っております。診察や検査がスムーズに運び、患者さんに安全で安心して医療が受けていただけるよう、新しい知識や技術を身に付け、質の高い看護が提供できるよう努めております。

【実績】

平成29年度外来受診患者数

	外来患者延数
内科	27,011
外科	3,178
整形外科	42,267
婦人科	305
泌尿器科	8,603
耳鼻咽喉科	1,660
循環器内科	12,242
神経内科	5,761
リハビリテーション科	78
家庭医療科	145
総数	109,651

【平成29年度の取り組み】

外来診療の待ち時間に対する苦痛が最小限にできる気持ちに寄り添った看護と看護師が常に知識、技術を磨き、安全な看護を提供することを目標にチーム会での学習会を行い、応援機能を充実させるため、他科の看護技術を習得し、協力できるようにしてきました。また、病棟と連携し退院後も継続した看護が提供できるようにしていくため、退院時支援カンファレンスに参加するよう業務を調整しています。

【平成30年度の目標】

看護師全員がレベルの向上に努め、患者さんが安全かつ安心できる看護を目指し、以下の目標を設定しました。

1. 外来で取得している加算を確実に取れている状態
2. DPCについて理解し、外来として円滑に運用できている状態
3. 入院時から退院後の生活を視野に入れた支援ができていく状態
4. 自立して行える技術を増やし、応援機能が充実している状態

看護係長 吉田真知子



仕事の励み

外来 岡部 優香

今年、私は病棟から外来に異動になりました。新しい環境の中で不安や戸惑いを感じながらも、病棟とは違う処置や患者さんとの関わり、新しい知識を日々学ばせてもらっています。そのような中、忙しい時でも些細な質問に笑顔で答えてくれたり、自分から話しかけるのが苦手な私にたくさん話しかけてくれる先輩に日々救われています。

仕事の環境が変わったことで休日の過ごし方も変わり、以前より実家に帰って過ごすことが多くなりました。私の実家は名寄市なので、小樽からだとして遠くて少し大変ですが、住み慣れた実家でゆっくり過ごし美味しいご飯を食べてリフレッシュしています。

また、実家に帰ると飼っている猫がお出迎えしてくれます。名前は『にゃもこ』、雑種の白黒の猫です。私が中学の時に、家の前でボロボロな姿で鳴いていたのを母親が拾ってきて飼うことになりました。私は元々猫好きだったので、その頃からとても可愛がっています。そして実家に帰ったときは『にゃもこ』に癒され、それを仕事の励みにしています。

また、時間が合う時は同期や看護学生時代の友人と遊んだり、飲みに行ったりと楽しい時間を過ごしています。この時間も「仕事を頑張ろう」と思える励みの一つです。同期や学生時代の友人は、仕事と学校の両立で大変だった時に支えてくれた仲間なので、今後も一緒に過ごせる時間を大切にしていきたいと思います。

これからも休日の癒しを大切にしながら、先輩の皆さんの支えを励みに頑張っていきたいと思います。



くつろぐ「にゃもこ」



「ニャンだに？」

専業主婦からの復帰

外来 古山 真代

私は、今から12年前、8年間勤めたこの病院を結婚退職しました。「一度は専業主婦になってみたい」「子どもを産んで何年かしたら、また看護師として復帰したい」と考えていました。

それから仕事復帰までに9年の歳月が経過し、その間4人の子どもの生まれました。復帰までの9年間は、病院とは切っても切り離せず何十回通ったかわかりません。妊娠中のトラブルや子供の病気で入院したこともあります。

その時に私が感じたことは、医療者が患者に与える影響の大きさです。医師や看護師の心無い一言や冷たい態度で、不安になったり泣いてしまったこともありました。きちんと説明してくれず不信感を持ったこともありました。

しかしそのような中でも、親身になって話を聞いたり、共感して笑顔で接してくれる看護師さんに安心出来たことを覚えています。自分が看護師として復帰したら、この時に感じたことを忘れずにいようと強く心に思いました。

そして今、復帰して3年が経ちます。9年のブランクは相当長く、新しく覚える事や感覚を取り戻すのはとても大変ですが、指導者・スタッフの皆さんに支えられて何とか頑張っています。

育児との両立も本当に大変ですが、「やっぱり自分は看護師で良かった」「この仕事が本当に好きだ」と感じながら毎日仕事をしています。これからも患者さんに安心感を与えられるような看護師を目指して日々努力していきます。



子供たちに囲まれて

透析看護課

【スタッフ】

今野 晶子 看護課長
本間美穂子 看護係長
佐野 舞 看護主任
看護師 6名 (うち、パート1名)
看護補助者 2名 (午前・午後各1名)

【部署の特徴】

透析ベッド数25床を有し、月水金は午前・午後、火木土は午前のみ3クールで血液透析治療を行っています。

当院の維持透析患者の平均年齢は67.1歳で、65歳以上の患者さんが7割を占めています。いくつになってもその人らしく、透析治療を受けながら生活できるよう、患者参加型看護計画を立案しケアにあたっています。

地域の基幹病院として、他の透析施設からの転入患者さんの受け入れや、観光地小樽ならではの旅行透析の受け入れも積極的に行っています。

【平成29年度の取り組み】

「一生涯続く透析患者を支え、意思尊重と寄り添う看護」をめざし、生活の場がどこであっても支援が途切れることのないよう、継続看護の強化を図りました。患者参加型の看護計画を立案し、行った看護を振り返り次に繋げていくために、評価方法の見直しを検討しました。

また、入院患者へ透析後の移送を透析看護師と病棟看護師が連携して行うことで、待ち時間の短縮につながり、患者負担が軽減されました。

【今後の目標】

高齢・長期・糖尿病・合併症を抱える透析患者が治療を受けながら、地域で安心した生活ができるよう、今後も透析チーム一丸となって支援していきます。

看護係長 本間美穂子

【実績】

(件)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
血液透析件数	8,443	9,023	9,262
入院	1,042	793	967
外来	7,401	8,230	8,295
新規導入件数	23	12	9
他院からの転入件数	22	20	24
旅行透析件数	15	21	26



透析看護を通して学んだこと

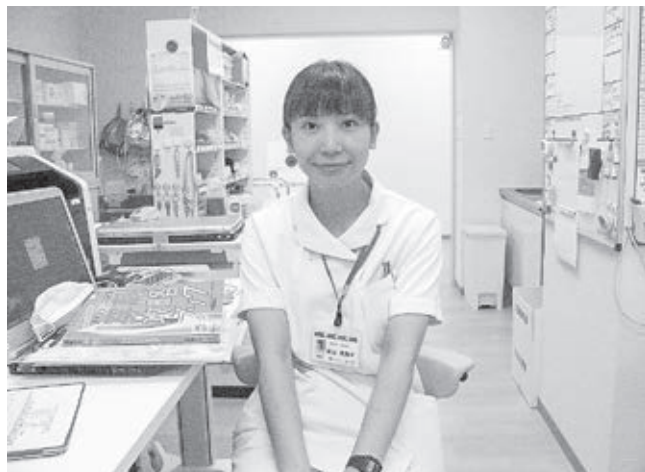
透析看護課 島山那奈子

透析センターで勤務し1年と数か月が過ぎました。今までは病棟勤務の経験しかなかったため、異動になった当初はわからないことばかりでした。初めてのことで、不安な毎日の中、先輩看護師や臨床工学技士の方々に、透析治療や透析機器についてたくさんのお話をいただき、とても感謝しています。また透析センターでは、看護師と臨床工学技士が2人1組となり、割り当てられた患者さんへの穿刺や血圧測定などを行います。一日を通して、多職種の方と連携し働くことで、日々勉強になっています。

透析治療を行っている患者さんは、数年単位と長い期間を通し関わっていきます。そのため、患者さんの状態を長期間観察することができ、より慢性期看護について学ぶことができていると感じます。また、透析治療は自己管理が大切であり、患者さんに対し理解し

やすく説明や指導を行っていくことの難しさも知りました。

透析看護には、専門的な知識や技術が必要です。そのため、今後も学習を深めよりより看護援助に繋げていくことで、患者さんから信頼される看護師を目指していきたいと思っています。



笑顔で患者さんに接していきます

これまでを振り返って

透析看護課 古瀬 康江

約30年前、高校生で進路を考える中、商業高校出身ですが就職するという選択はありませんでした。もう少し学生でいたいけれど大学進学は学力がないため、自宅から通える全日制の専門学校を探したところ、目についたのが、以前北生病院だった頃の付属准看護師養成所でした。

北生病院付属准看護師養成所は奨学金制度で卒業、進学、資格取得後は病院に就職という、いわゆるお礼奉公があり（そういう縛りは今は敬遠されがちですが）、レールの上を平坦に歩くのが好きな私は、学費も出て自宅から通え、すでに就職先まで決まってる昼間の学校なんて☆ぜひ入りたい！と入学にいたりしました。やや不純で大きな目標もなく踏み込んだ看護の道ですが、看護学校の友人たちとは苦楽を共にし、病院内のスタッフや患者さんたちとの関わりの中で大きなやりがいを見つけ今ここにいますといった状況です。

済生会小樽病院で働く中、長男が600gという超未熟児出生であり長期入院や退院後も油断ならない状態もあり約8年勤め、退職しました。退職後に第2子も授かり子育てする中で、済生会小樽病院ではパート看護師としても半年ほどお世話になりました。第3子出生後は自宅近くの病院の透析室に入職し約8年間働きました。

平成25年の済生会小樽病院の築港移転後の10月に再度入職となり現在、透析センターで働いています。

透析センターでは各曜日に決まった透析患者さんが来院され透析治療を受けています。

毎回同じ業務の繰り返しのようなのですが、実は毎回まったく違った状態で、それぞれの生活背景や環境も大きく影響してきます。全身状態の観察やコミュニケーションからいち早く状態を把握し、安全で安心な透析治療を受けられるよう支援し関わることにやりがいを感じています。

日々笑ったり、泣いたり（実際は泣きません）、いらだったり、脱力していますが、約30年前にこの道に進むことを決めてよかったと思う、なかなか充実している毎日です。



仲良し3兄弟



バカンス満喫中

手術センター

【スタッフ】

谷川原智恵子 看護課長
杉崎 美香 看護係長
猪股 光 看護主任
看護師 7名
臨床工学技士 2名

【部署の特徴】

手術センターは、看護師、臨床工学技士が連携し、安心・安全な看護の提供に努めております。又、当院の基本運営方針の一つである“断らない医療”に沿い、手術件数に関係なく対応しております。昨年同様、麻酔科医は非常勤となっておりますが、手術センター一同一丸となって、患者さんに「ここで手術を受けて良かった。」と思っただけのよう、質の高い看護を提供していきたいと考えております。

【実績】

今年度の手術は、1,272例（麻酔科医依頼あり：1,055例 麻酔科依頼なし：217例）
前年度に比べて減少はありません。

【平成29年度の取り組み】

安全な手術看護を行い、事故のない環境を整備することを部署目標とし、マニュアルの作成、チェックリ

ストの改訂、使用物品の製作、必要物品の見直し等を行いました。その結果、確認不足によるインシデントが前年度に比べ3割減となりました。今後も安全を第一に考え、活動していきます。

【今後の目標】

スタッフ数の減少、手術件数の増加に伴い困難となっていた術前訪問を再開し、安心・安全な看護の提供ができるよう患者情報の把握と情報共有を確実に行ってまいりたいと考えております。

看護係長 杉崎 美香



いままでを振り返って

手術センター 渡邊 詩子

結婚、出産、育児と仕事を両立をしながら、この病院での生活も、あっという間に20年以上の年月が過ぎ、気が付けば、長男は成人、次男は大学生、長女は高校受験生になった。

時々ながめる子どもたちの小さいころの写真、「かわかったなー。あれ？ 私ってこんなにやさしい顔をしてたんだ（笑）」とを感じる。一日でもいいから、あの頃に戻ってほしいなど、写真を見て思う日々である。

長男、次男が小学生、中学生の頃は毎週野球の追っかけをしてとても忙しかったけど、楽しく子どもたちの成長を見ることができた。次男は大学生になった今でも、硬式野球を続けている。手術の待機もあり、小樽から出られない日もあるので、札幌での試合を見に行くことができないときがあるが、待機でないときは、今も次男の野球をこっそり見に行ったりしてるし、そのほかにも、同僚から教えてもらったスイーツを食べ

に行ったりと、それ以外の楽しみも増やしている。

最近では体もあちこち痛いし、目も見づらくなってきている。ある先生が言っていた「老いは平等！！」というその言葉、今は心に沁みてよくわかる。これからは、休みも有効に生活にもメリハリをつけながら、まだまだ仕事頑張っていきます。



癒しのスイーツ天国！

教育看護課

【概要】

教育理念「済生会の看護理念を理解し、安全で安心できる質の高い看護を提供できる看護師を育成する」のもと教育委員会を運営し、新人研修とラダー研修の企画、運営、評価を行っています。本年度も引き続きラダー別研修に入職2年目、3年目研修を増やし、看護職員のさらなるキャリアアップと看護実践で役立つ研修を目指し、研修目標の明確化、研修内容の検討を行いました。今年度は他施設からの研修参加者も多くあり、今までの研修では得られない多くの学びがありました。

【教育委員会】

教育委員長 早川明美（教育看護課長）

教育委員 瀬川信子、中山優子、本間美穂子（以上係長）、伊藤理恵、白杵美花（以上主任）、小路深雪、松木まさき、川崎雅美

【活動報告】

1. 新人看護職員研修

新人7名が入職し4月5日（木）6日（金）9日（金）3日間で、看護部の概要、社会人・組織人としての心構え、各部署の紹介など看護職員として働く基礎を中心に研修を行いました。また、研修後すぐ職場で看護業務ができるように電子カルテ、看護記録、看護技術など演習を多く取り入れました。



2. 新人研修

例年の評価をもとに、新人のリアリティショックを少なくするため4月、5月に基礎看護技術の演習を多くしました。また、看護実践強化のため看護過程、看護記録、看護必要度の研修を増やしました。リフレッシュ研修を10月、3月に行い、新人同士で話し合える機会を作りメンタルサポートも行いました。



3. ラダー研修

入職2年目、3年目は自分の看護を振り返り、看護観を深めてもらうため「プロセスレコード」「ケーススタディ」「振り返り研修」の研修を多くしました。ラダーレベル別研修では実践力アップに「救急対応」、キャリアアップに「人材育成」「マネジメント」「コーチング」を継続し、「看護倫理」は研修数を増やしました。

4. 管理職研修

管理職が担当者となり企画、運営を行い、主任、係長、課長単独の研修と主任と係長、係長と課長の管理職混合の研修を行いました。

5. 集中研修

緩和ケアの集中研修は期間を2年とし、行いました。

6. 全体研修

管理職が各々研修を企画、運営し、主任会「接遇」、係長会「看護倫理」、課長会「看護の動向と看護部の理念」の研修を行いました。また、糖尿病療養指導士、認定看護師の研修も継続しました。

7. 他施設からの研修受け入れ

今年度は2施設より13名が新人研修、ラダー研修に参加しました。

【今後の目標】

研修評価をもとに質の高い看護に役立てる研修と、これからの時代に必要とされる看護師の育成を視野に入れ研修の企画を考えていきたいと思えます。また、参加したい、参加してよかったと思える研修を教育委員会とともに目指していきます。

教育看護課長 早川 明美



●看護研究（看護部）

看護の質の向上と看護職員のキャリアアップを目指して11月に開催しています。

平成29年11月25日（土）演題

部署名	テーマ	発表者
外 来	外来待ち時間対策についての検討	松本 美紀
透析センター	透析室におけるシャント穿刺に対する情報共有の効果 ～意識調査からみえた変化～	井上 晶子
3 A病棟	患者へのわかりやすい術前オリエンテーションを目指して ～術前パンフレットの見直し・作成～	小泉 慧佳
4 A病棟	急性期病棟に入院したパーキンソン患者の思い ～インタビュー法を用いて～	鈴木智香子
4 B病棟	地域包括ケア病棟3年間を振り返って ～期限越えの要因をさぐる～	増田 沙織

事務部

■ 総 括

【事務部概要】

(組織体制)

管理事務室：総務課、施設用度課、経理課

医療サービス支援室：医事課、地域医療支援課、医療
クラーク課、健康診断課、情報システム課

(職員数)

正職員 35名

常勤雇用契約職員 21名

非常勤雇用契約職員 12名

計 68名

(役職者)

部長 1名、次長 1名、課長 3名、係長 3名、主任 5名

【平成29年度の取り組み】

平成29年度、事務部は戦略テーマを「人材育成の強化・生産性の向上」とし、BSC（バランス・スコア・カード）4つの視点毎にそれぞれ以下の戦略目標を掲げて取り組んで参りました。

《財務の視点》

- ・病床管理の適正化による増収

《顧客の視点》

- ・地域連携の強化（紹介・逆紹介の強化）
- ・救急受入れの強化

《内部プロセスの視点》

- ・会議運営の見直し
- ・ルーティン業務の効率化による専門業務の集中

《学習と成長の視点》

- ・業務の標準化
- ・専門教育、階層別研修の強化

当院は一般病床155床、地域包括ケア病床53床、回復期リハビリテーション病床50床で構成される258床のケアミックス病院です。急性期から亜急性期、回復期までを自院で一貫して提供するケースもあれば、地域連携により急性期の受け入れ、別の場面では回復期の受け入れをするなど、様々な対応を取っています。

複数の病床機能と診療科を有することから病床のコントロールが重要であり、また「断らない医療」を運営方針に掲げていることから更に病床コントロールが難しいところでもあります。以上の理由から病床管理の適正化、地域連携の強化、救急の受け入れ強化を戦略目標に掲げました。病床稼働率の対前年比は一般病床でマイナス2.7ポイント、地域包括ケア病床でプラス1.0ポイント、回復期病床でプラス5.6ポイントとなり、全体ではマイナス0.4ポイントとなりました。続いて、戦略テーマの「人材育成の強化・生産性の向上」を受けて、会議運営の見直しや、ルーティン業務の見直しによる生産性の向上、業務の標準化、研修の強化を戦略目標に掲げました。事務部役職者会議（月1回開催）においては、従来の所属長による報告事項がメインの内容から、持ち回りで各課が司会進行を務め、且つ、自部門の課題について課を跨いで事務部全課で改善検討をする場を設けるなど、プレゼン力強化と部門内の連携強化を図る取り組みをしました。また、今年度から当法人全体で外部監査法人による会計監査が始まり、事務作業量は増えるばかりです。従来の方法では現行人員で対応することが困難なことから、人を増やす以外の方法として如何に業務内容を見直し、生産性を上げるかが喫緊の課題となります。今年度は情報システム課と各課が連携し、各種作業ツールの構築を行い、生産性の向上を図りました。

【今後の目標】

来年度は当院でDPCの運用を始める計画があり、且つ、診療報酬の改定もあり、内外の環境は着々と変化していきます。事務部の理念は「患者さんを中心とする医療の実践を掲げるサーバントリーダーとして力を発揮します」であり、様々な環境が変化する中でも事務部の理念を体現できるよう、引き続き、人材育成の推進、業務改善による生産性の向上を図って参ります。

事務部次長 五十嵐浩司

総務課

【概要】

総務・人事グループ、電話交換グループ、臨床研修・秘書グループの3グループに分かれています。

総務課はその名称の通り「総て（すべて）」に「務める（つとめる）」課です。親切、丁寧で、院内・院外からも頼りにされる部署であるよう心掛けています。

【スタッフ】

課長（兼務） 五十嵐浩司
 総務・人事グループ 秋元かおり（主任）・内山 泰男・
 世戸 収子・細松 有香
 電話交換グループ 成田 明美・寺島 光代・
 吉田 悦子
 臨床研修・秘書グループ
 浦見 悦子（係長（兼務））・
 吉田 理恵

【業務内容】

人事管理／労務管理／給与計算／文書管理／臨床研修事務／医局秘書／電話交換／防災センター受付

【過去3年の実績】

常勤職員数の推移 (単位：人)

区分	平成27年4月	平成28年4月	平成29年4月
医師	25.5	24.5	23.4
看護師・准看護師	177.3	178.8	178.3
看護補助者	40.6	35.1	37.1
医療技術職	96.5	95.3	103.9
事務職員	56.1	57.1	59.2
その他職員	7.3	7.7	7.4
合計	403.3	398.5	409.5

【平成29年度の取り組み】

- 労務管理業務の効率化と新制度への対応
 - ・4週8休制スタート
 - ・時間単位年休制度スタート
 - ・パワーハラスメントの防止に関する規程の制定
 - ・給与計算業務等の分業による業務の平準化
 - ・ストレスチェック制度の受検率のアップ

事務主任 秋元かおり

○電話交換業務の更なる応対力の強化と顧客サービスの向上

- ・「迷惑電話対策マニュアル」の作成・内容修正

○臨床研修管理体制の強化

- ・専門医制度内科専門研修プログラム承認、ホームページ整備
- ・JMECC（内科救急・ICLS講習会）開催準備
- ・臨床研修パンフレット作成、ホームページ更新
- ・文献検索データベース、電子ジャーナルの整備

○その他

- ・看護師の特定行為研修指定研修機関に指定
- ・保育所自営化へ向け体制整備
- ・対象職員への生活習慣病予防健診の実施

【今後の目標】

今年度から始まった4週8休制や時間単位年休制度、保育所自営化、新规定の制定など、職員へわかりやすく周知し、導入後の意見を取り入れ、より実効的な制度としていきます。

昨年度同様、初期臨床研修医の受け入れを目指し、新専門医制度の更なる体制強化を目指します。また、北海道で3施設目、全国済生会でも3病院目となる看護師の特定行為研修指定研修機関に指定され、平成30年4月の研修開始に向け、設備やカリキュラムなど働きながら学びやすい環境づくりを進めます。

職員の皆さんが安心して気持ちよく働けるよう、信頼される総務課として引き続き各業務に取り組みます。また、患者さん・各医療機関・取引業者の方々にもスムーズに対応できるよう心掛けていきたいと考えています。更なる業務改善と標準化・平準化を図り、各部門と連携していきます。

事務職未経験

総務課 細松 有香

私は、入職して4年目になります。前職は接客業をしていた私にとって、病院での事務仕事は初めてのことばかりでした。

施設用度課員として入職し、半年間業務に四苦八苦しながら、右も左もわからず状態だった私。そして総務課に異動し、ありがたいことに、この4年間で2つの部署の仕事を経験させていただいています。

どんなことも経験。資格をもっていても、使いこなすことができなければ、何の意味も無い、そう痛感しました。

総務課では、職員の給与や出勤簿の管理、入職・退職の手続きなどを担当しています。ほぼ患者さんと接することのない部署ですが、唯一接する機会といえば、外線電話対応です。

事務職が未経験ということは、電話交換業務など、もつてのほか、入職したての頃は電話がなるとビクビクしていたのを思い出します。いろいろな課に繋ぐので、まず私は全職員の名前・部署を覚えることにしました。覚えることで、電話対応など、潤滑にできたと思います。

学生の頃、部活の先生に言われた一言があります。

『何かひとつでも、人生の中で、一番になれる、一番だといえる強みを持ちなさい』

この言葉が私の原動力となっています。そして今も、その“一番”を探している途中です。



経理課

【スタッフ】

蝦名 哲行 経理課長
佐藤 緑 事務主任

【部署の特徴】

今年度より異動になった2名（老健施設・支部事務局より）の部署です。

したがって…前任担当者からの引継ぎ、後任担当者への引継ぎなど、慌ただしく始まった1年もあっという間に過ぎ、決算を迎える事となりました（本部経理課より何度となくご指導を頂きながら…）。

主な業務は、出納（現金・預金の管理）、旅費計算、会計システムへの入力・帳票の作成、郵便物の発送、予算・決算業務、借入金、経営分析、財務諸表作成、未収金管理、固定資産管理などです。

【実績】（平成29年度 経理課関係行事）

- 4月 支部監査
- 5月 支部理事会、平成28年度決算報告
- 6月 平成28年度消費税・法人税報告
- 7月 有限責任監査法人トーマツ訪問監査
- 9月 有限責任監査法人トーマツ訪問監査
- 10月 本部経理研修会、平成29年9月期プレ決算実施
- 2月 有限責任監査法人トーマツ訪問監査、
支部理事会（平成30年度事業計画、予算）
- 3月 本部経理研修会

【平成29年度の取り組み】

前年度、監査法人より指摘を受けた事項の改善や月次決算（資料作成多数）など、新たな業務に取り組みました。

支部内の経理担当者が、異動によりほぼ“新人”の担当となった為、情報共有などお互いに協力し、「本部経理規程に基づいた適正な経理処理」を心がけました。

また、他部署との連携による経費節減や、現物確認による固定資産の正しい管理などに取り組みました。

【今後の目標】

毎月の月次決算、チェックリストの記入、証跡がわかる資料の作成など提出書類も増えています。「会計処理マニュアル」「内部統制マニュアル」等に基づき日々の会計処理を適切に行えるよう努力します。

業務の標準化が行えるよう「経理課業務マニュアル」を作成したいと思います。

事務主任 佐藤 緑

施設用度課

【スタッフ】

武田 和博 (用度係 係長)
神山 拓也 (施設係 主任／ボイラー技士1級、他)
成田 章剛 (用度係)
豊川 哲康 (施設係／ボイラー技士1級、他)
松原 明 (施設係)

委託職員

SPDスタッフ 7名
中材スタッフ 4名
洗濯スタッフ 3名
中央監視スタッフ 3名 (夜間・休日)
警備スタッフ 3名 (夜間・休日)
清掃スタッフ 12名

【部署の特徴】

施設用度課は主に施設管理と購買管理をおこなっており、法定点検・自主点検の実施計画、施設設備・備品の運用・点検・故障対応、購買品の発注・納品・在庫管理、委託業務の管理などを主な業務としています。

【実績】

医療材料、その他の製品見直し及び単価交渉による年間削減額 …約1,000万円

【平成29年度の取り組み】

- ・LED照明導入
- ・送迎バス利用率向上 (院内イベントとの連携、停留所の見直し)
- ・院内病理解剖実施による設備改修、備品購入、マニュアル改定
- ・アメニティの品目追加と価格変更
- ・医薬品のベンチマークシステム導入

【今後の目標】

当課では、施設を維持・管理をしつつ、購買・契約の交渉をして経費節減に取り組んでいます。患者さんに快適な療養環境を提供し、健全な病院経営の一助となるよう日々の業務を進めていくことを目標としています。

事務主任 神山 拓也

医療サービス支援室

医事課

【スタッフ】

阿 畠 亮 課長 診療情報管理士

堀 博一 主任

窪田 恭子

館林くるみ

大田 歌子

平澤 慎吾

診療情報管理士

医療経営士3級

石橋 慶悟

診療情報管理士

医療情報技師

がん登録実務初級者

小泉 幸代

田宮 千晶

田尾 昂介

(その他 雇用契約職員 11名)

【部署の特徴】

診療報酬制度へ迅速に適応するため院内連携・院外連携を意識し医療への貢献と病院経営への参画を目的に活動しております。

【実績】

各種加算（17項目）算定率10%増（前年比）

【平成29年度の取り組み】

査定対策・レセプト作成の精度向上

【今後の目標】

DPC請求への適応

医事課スタッフの育成

医事課長 阿 畠 亮

1年を振り返って

医事課 小泉 幸代

当院に入社して1年がたち、以前は大学卒業後小樽市内の診療所で8年働いていました。

病棟の仕事は初めてで当初は仕事を覚えることで必死でした。今現在3A病棟で仕事をしています。看護師さん達がすごく優しいので精神的にもすごく助けられています。

大学時代に患った病気で高校・大学とやっていたソフトボールを7年間離れていたのですが4年前に復帰し、今は石狩にあるクラブチームで活動しています。

大学4年の春の健康診断で病気がわかり、今までエースピッチャーでやっていたのがその日を境にドクターストップで競技から離れることになりました。今まで努力してやってきた事が無意味になり泣き崩れたことがありました。ありがたいことに、復帰した年から北海道代表として国民体育大会にも4年連続出場することも出来ました。

社会人チームになると、同じ趣味の人が集まります。年齢も下が18歳～最年長が私になり一回り以上も違うので最初は戸惑いましたが、みんな仲良く楽しく

やっています。シーズン中は平日19:00～21:00まで週4回、ナイター練習をしています。学生時代全国大会出場したことがなく「一回でもいいから全国大会に出てみたい!」という選手もいて、北海道では女子チームは3チームしかないですが予選を突破し、群馬県高崎市で行われた全国大会へ出場☆ベスト8という結果で終わりました。全国大会って楽しいですね! 又来年も行きたいです!という後輩達が言ってくれて素直に嬉しくまたみんなで頑張ろうと思えました。

当院でもソフトボールチームがあり、大会に参加しました。私が趣味をやることで職場のソフトボールチームにも貢献できると思います。仕事の面では大会等で迷惑をかけることがあると思います。たかが趣味でしょう、と言われても仕方ないことなのですが、趣味を充実させることで仕事とのバランスがとれているので理解をしてもらえるように頑張りたいです。

高校の恩師からよく、【どうせやるなら、気分よく楽しく】と言われてきました。趣味はもちろんですが、仕事に対しても同じだと思って日々やっています。まだまだ覚えることもあり、やらなければいけないことがあります。2年目には今年以上に頑張りたいと思います。こんな私ですが、よろしくお願ひします。



医療クラーク課

【スタッフ】

浦見 悦子 医療クラーク課係長
柴田 幸子 医療クラーク課主任
医療クラーク 15名（うち職員3名）
受付 8名

【部署の特徴】

医療クラーク課では外来診療補助業務、文書作成補助業務、予約センター業務等を行っています。業務の中心となる外来診療補助業務では各ブロック受付、各外来診察室、内視鏡室、中央処置室にスタッフを配置し、診療がスムーズに進められ、医師・看護師の事務的負担軽減が出来るよう、各種検査・処方・リハビリ等のオーダー代行入力、次回予約入力、検査説明等を行っています。文書業務では診断書等の文書作成依頼、診断書等の下書き及び医師が作成した完成書類の処理等を行っています。また予約センター業務では、平日14時～16時まで患者さんからの診察予約や予約変更等の電話連絡に対応しています。

【実績】

文書取扱い件数 (件)

診断書(入院証明書・通院証明書等)	2,324
診断書(当院書式)	316
身体障害者診断書	56
特定疾患個人調査票	288
労災書類(照会・意見書等)	274
介護保険主治医意見書	1,303
医療要否意見書(生保)	1,404

【平成29年度の取り組み】

今年度は役職者2名が他部署より異動してきており新たなリーダーのもと、業務の標準化を図り、スタッフのスキルアップのため担当医師以外の医師や他診療科の見学をするなど積極的に行ってきました。また診療報酬の届出に必要である32時間研修を未受講のスタッフが研修に参加することで11月には医師事務作業補助体制加算1の20対1を上位取得することが出来ました。併せて加算の維持、離職の防止のため教育体制の構築を目指しQC活動をすすめ、マニュアルの改善やキャリアパスの作成を行い2月18日に行われた済生学会でポスター発表を致しました。

【今後の目標】

患者中心の医療を提供する環境づくりをサポートするため、医師・看護師の事務的負担をより軽減出来るよう、スタッフ1人1人のスキルアップを図ります。各部門とのコミュニケーション・連携を強めていきたいと考えています。また、文書業務の効率化を図り、患者さんからの問合せにスムーズに対応出来るよう、事務的処理を迅速に行っていきます。

事務主任 柴田 幸子

クラークになって

医療クラーク課 平尾 愛

入職してからもうすぐ9年が経とうとしています。これまで入院請求業務や病棟クラークを経験し、外来クラークに配属され2年が経ちました。

配属された当初はオーダーを出すなど私がしてよいの？間違えていないかな？大丈夫かな？ととても緊張していたのを覚えています。聞きなれない用語が飛び交い、外来での決まり事もわからず、そして何より多くの新しいことを覚えられず落ち込む毎日に、私は医

師の補助などやっていけるのか不安で不安で仕方ありませんでした。

そんな中、同じクラークの仲間や医師、看護師の先輩方に支えられてきました。いまだに落ち込むことも多いですが、趣味の食べ歩きをして気持ちをリフレッシュしています。

この2年間で医師事務作業補助の資格を取得し、セミナーに参加するなど様々な経験をさせていただき後輩スタッフもできました。今度は私が支える番！みんなが楽しくクラーク業務をできるようにサポートし、もちろん医師の業務負担も軽減できるようこれからもがんばっていきたいと思います。

健康診断課

【スタッフ】

清水 雅成 係長
 焼田久美子
 佐々木美里

【部署の特徴】

当課では、小樽市内事業所の企業健診（生活習慣病予防検診含む）をメインに、特定健康診査や人間ドック、また小樽市から受託の大腸がん検診、乳がん検診、

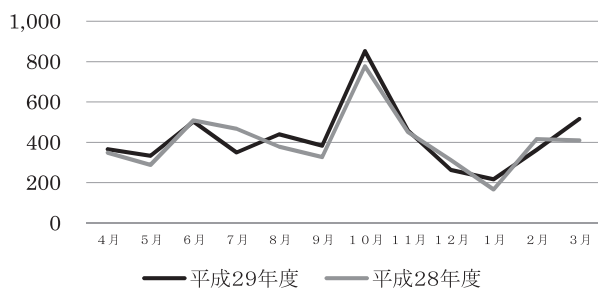
子宮がん検診等を行っています。日々の業務では各種健康診断の予約、事前準備品の発送、健診当日の受付や診察補助、検査ブースへの案内を行っています。健診終了後は結果を作成し、後日健診者へ結果発送、請求業務を行っています。

ちょこっと健診はロビーの券売機より利用券を購入し、そのまま検査へ向かう健診です。待ち時間も少なく検査終了後は帰宅できます。後日結果が自宅へ郵送され、体調に関する予防活動ができます。

【実績】（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

	生活習慣予防健診	特定健診・市民健診	人間ドック	企業健診	一般健診	ちょこっと健診	合計
人数(人)	934	312	117	2,596	614	473	5,046
収益(円)	16,601,611	1,661,542	4,524,769	22,111,654	3,987,851	318,900	49,206,327

健診者数比較



【平成29年度の取り組み】

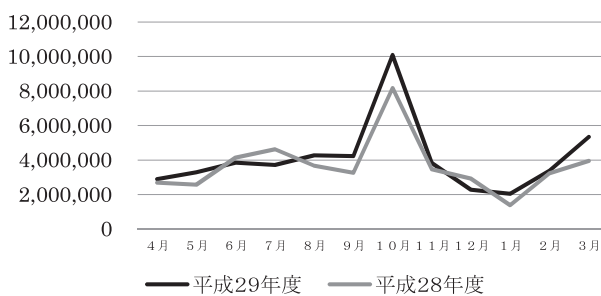
5—11月の期間、月に1度午前6時30分から小樽市民向けの「小樽のけんしん」を実施、8月と3月には特別養護老人ホームへ出向き腰痛健診も実施しました。また、当院職員向けにも採用時健診のほか定期検診を実施しています。その中で35歳以上の職員に対しては定期健診にあわせ生活習慣予防健診も実施しています。

【今後の目標】

健康管理に対する重要性は企業においても年々理解が深まっており、新しい問い合わせもたくさん参ります。健康診断課では問い合わせに対しわかりやすく、また正確に対応をして参ります。また来院された健診者様には満足して検査、帰宅ができるよう今以上の健診知識向上と接遇力向上に努めて参ります。

事務係長 清水 雅成

健診収益比較



地域医療支援課

【スタッフ】

清水 雅成	係長
村上 京子	主任
伝法 俊和	
吉田みのり	社会福祉士
佐藤 愛友	社会福祉士
城野さや香	社会福祉士
村田 高志	社会福祉士

【部署の特徴】

他医療機関・施設との連携を図り、当院における入退院の調整と、紹介予約を行っています。また社会福祉法人の使命として当院で行っている無料低額診療事業を当課で主幹しています。生活に困窮している人が安心して医療を受けることができるよう相談員が患者さんと面談し、当院に受け入れています。

また、出前健康教室の外部窓口も当課で担当しています。当院地域に専門職が訪問し、健康予防等の説明会を実施しています。

【実績】

平成29年度紹介件数（入院・外来）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	
総計	201	211	197	234	226	225	198	239	223	213	189	189	212.1	
内訳	内科	55	65	44	63	61	51	41	52	52	57	49	50	53.3
	外科	5	6	4	2	14	5	9	8	6	6	6	6	6.4
	整形外科	85	88	85	105	86	105	88	116	101	83	62	66	89.2
	泌尿器科	15	13	23	22	12	19	17	17	19	25	24	17	18.6
	循環器内科	10	14	10	18	16	17	13	15	12	16	16	22	14.9
	神経内科	27	22	25	23	33	23	21	24	30	22	28	21	24.9
	放射線科	4	1	4	1	2	4	8	7	3	2	3	3	3.5
	耳鼻科		2	2		2	1	1				1	1	1.4
	リハビリテーション科										1			1.0

【平成29年度の取り組み】

連携医療機関の登録開始（初年度75施設の登録）

無料・低額診療事業の目標達成

出前健康教室の開催

更生保護施設への健診活動

医療連携協議会や各種研修会への参加

【今後の目標】

他医療機関との連携強化については連携医療機関登録数を増加できるよう営業活動を推進します。無料低額診療については数値目標の達成及び広報活動として小樽市の生活支援課、社会福祉協議会、小樽市生活サポートセンター「たるさぼ」との連携を深めます。収益増への貢献については退院支援加算1に係る算定項目の管理を行います。

事務係長 清水 雅成

1年を振り返って

地域医療支援課 佐藤 愛友

当院に入職し、社会人兼社会福祉士として3年が経とうとしています。新入職員として諸先輩方の前で挨拶をし抱負を語った頃の自分よりも今の自分は成長しているのか、有体に言ってわかりません。

自問自答を繰り返す1年間ではありましたが、社会福祉士である私に確かな影響を与える出来事があります。祖父が逝去したことです。膀胱癌と全身のあらゆる場所への転移を患い何度も入退院を繰り返した末、今年のお盆に息を引き取りました。認知機能の低下による混乱や戸惑いと、疼痛の増強とに苦しんだ祖父で

したが、施設や病院スタッフの方々、ケアマネージャーさんをはじめとする介護保険サービス事業者の方々、またお世話になった地域の方々の暖かな支援を受け、朗らかな笑顔を浮かべていることが非常に多かったです。また施設入所前に半年間の介護にあたった私たち家族は、仕事と介護の両立に苦慮しながらも「どうか祖父が穏やかに痛みなく過ごせるように」との一心で日々を過ごしました。

祖父の死を見届けてからも変わらず退院調整業務に関わっています。疾病を抱えながらも地域で過ごしたいと願う患者さんと、介護と生活の両立に悩むご家族と、そのどちらのお気持ちにも専門職者の立場から寄り添い、「理想の生活」に少しでも近い暮らしを実現するサポートを行っていきたいと考えています。



祖父が暮らしていた積丹の風景。神威岬。

情報システム課

【スタッフ】

大田 隆宏 課長
井上智香子

【部署の特徴】

電子カルテ、医事コンピュータ等のシステムの保守、運用とともに、医療情報のデータベースの構築、利用、データ活用の為、アプリケーション作成を行っています。

電子カルテ、医事コンピュータのほかに独自のSQL Serverによるデータベースを構築しているため、データの医療情報以外に救急のデータ、紹介データ等を随時必要なデータを追加してデータを作成できるようになっています。医事データは2010年度から前日までの、2,300万件以上のデータを即時取り出せるよう毎日OLAPへ格納して、Excelで簡単にデータを取得できるようにしています。

また、北海道済生会支部の他施設へのシステム導入支援を行っています。

【実績】（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

- 内視鏡検査状況レポートの作成
内視鏡の時間別の利用状況がわかるレポート
- 退職金管理プログラムの作成
- 他施設と医事システムを共有
 - 医事システムに当院開発用のデータベースを構築
 - データコンバージョンを当院で行う
 - 各種レポートの作成
- システムレビューの各種準備
- 勤怠管理に時間単位年休機能追加（自施設開発）
- ウイルスバスタービジネスセキュリティサービス
あんしんプラス導入

- 日計表の改造
請求データの漏れがないよう修正
経理用に仕訳してレポート作成
- 書損レポートの作成
日計表で計上して削除されたデータを書損として計上
- ナースコールOLAP作成
簡単にどこでナースコールが押されたか分析できるようOLAPの作成
- 仮想サーバーの自施設での構築

【平成29年度の取り組み】

今年度から会計監査においてシステムレビューが始まることから準備を行い、運用を開始しました。

医事システムが同一法人内の他施設と一緒に使うことになり、他メーカーからのデータコンバージョンを自施設で行い、費用圧縮に貢献できました。同様に自施設で作成したDWHを他施設でも利用しています。

前年同様、情報システム課は顧客を職員として、職員の作業効率を上げるため積極的にITを使い作業時間の短縮を考え、データの提供、プログラムの作成、レポート作成の自動化（毎日、各月に自動でレポートを作成）に取り組みました。

【今後の目標】

平成30年度から当院ではDPCの運用が始まります。それに伴い今まで作成していたDWHとレポートの修正を行います。

電子カルテのリプレイスが2年後に控えています。各種ベンダの情報を収集して比較検討いたします。

情報システム課長 大田 隆宏

各委員会・診療チーム

平成29年度 委員会一覧

平成29年4月1日付

	委員会名
1	院内感染予防対策委員会
2	薬事委員会
3	臨床研修医管理委員会
4	医療機器機種選定委員会
5	診療材料選定委員会
6	棚卸実施委員会
7	医療安全管理対策委員会
8	医療事故調査委員会
9	個人情報保護委員会
10	治験審査委員会
11	医療ガス安全管理委員会
12	電波管理委員会
13	NST委員会
14	透析液安全管理委員会
15	医療機器安全管理委員会
16	診療報酬請求委員会
17	診療録管理委員会
18	輸血療法委員会
19	臨床検査運営委員会
20	栄養管理委員会
21	勤務医及び看護師負担軽減改善委員会
22	病床管理委員会
23	褥瘡対策委員会
24	クリニカルパス委員会
25	手術室運営委員会
26	倫理委員会
27	診療情報提供委員会
28	救急対策委員会
29	地域連携企画委員会
30	安全衛生委員会
31	防火管理委員会
32	教育委員会
33	広報委員会
34	患者サービス検討委員会
35	保育所意見交換会
36	駐車場運営検討委員会
37	労使協議会

NST委員会

【メンバー】

Chairman：(～H29年9月) 長谷川 格、(H29年10月～) 安達 秀樹

Director：(～H29年10月) 多田 梨保、(H29年11月～) 笠井 一憲

Sub Director：中山 祐子

- ・ 医 師…長谷川 格、安達 秀樹、明石 浩史
- ・ 管理栄養士…多田 梨保、権城 泉、東 紗貴、松村亜貴子
- ・ 看 護 師…中山 祐子、小田原実菜、森地 有希、東 彩華、平岩 悠子、増田 沙織、佐々木知美
- ・ 薬 剤 師…笠井 一憲、鈴木 景就、寺嶋 望
- ・ 臨床検査技師…辻田 早苗、逢坂裕美子
- ・ 理学療法士…松村 真満、米田健太郎
- ・ 言語聴覚士…須藤 榮
- ・ 臨床工学室…横道 宏幸、吉田 昌也
- ・ 医 事 課…窪田 恭子、小泉 幸代

◆日本静脈経腸栄養学会認定医：長谷川 格 (H29年9月退職)

◆日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了(医師)…明石 浩史、安達 秀樹、高田美喜生、長谷川 格、松谷 学、水越 常德、宮地 敏樹

◆日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士…逢坂裕美子、笠井 一憲、権城 泉、鈴木 景就、多田 梨保、辻田 早苗、中山 祐子、東 紗貴 (H29年12月退職)、須藤 榮 (H30年3月退職)

【活動内容】

◆カンファレンス・回診…毎週火曜日(4A・4B・5B) 毎週水曜日(3A・3B) 14:00～

◆委員会…毎月第4木曜日16:30～

◆勉強会の開催

○小樽Metabolic Club…毎月第2火曜日18:00～19:00

回数	開催日	内 容	演 者	参加人数
第112回	4月11日	NST平成28年度年次報告会	東 紗貴 権城 泉 多田 梨保 須藤 榮 平岩 悠子 中山 祐子 長谷川 格	19名 院外 4名 院内15名
第113回	5月9日	SGA・ODAについて	長谷川 格	24名 院外 4名 院内20名
第114回	7月11日	NSTとは	多田 梨保 権城 泉 笠井 一憲 中山 祐子 逢坂裕美子 須藤 榮 松村 真満	16名 院外 4名 院内12名

【今年度の動き】

◆一番の出来事はチェアマン長谷川医師の退職です。当院NSTの創始者であり、2005年のNST発足以来ずっとチェアマンとしてみんなを引っ張ってこられた長谷川医師の功績を称えると共に深く感謝いたします。

◆10月からチェアマン交代、11月からはディレクター交代となりましたが、これまでと同様にNSTカンファレンスや委員会活動・勉強会は下記のように行っています。11月の小樽後志静脈経腸栄養講演会で中山看護師(サブディレクター)が当院の栄養スクリーニングの現状と問題点について発表、そこから改正を行い、現在新しい入院時栄養スクリーニング方式を運用しています。

◆長谷川医師退職により日本静脈経腸栄養学会認定医が不在となり、日本静脈経腸栄養学会認定実地修練教育認定施設から外れることとなりました。これまで多数の実地修練を受け入れてきて今年度も実施する予定でしたが、やむなく中止となってしまいました。当院で実地修練を行い、多くのNST専門療法士を誕生させてきましたが、当院での新たな専門療法士の育成・誕生が今後は難しくなってくると思われます。

回数	開催日	内容	演者	参加人数
第115回	8月8日	リハ栄養とは	米田健太郎 松村 真満	21名 院外11名 院内10名
第116回	9月12日	高齢者の栄養管理	テルモ株式会社 札幌支店 佐々木良太	17名 院外 6名 院内11名
第117回	10月10日	すぐそばにある亜鉛欠乏と亜鉛補充の新たな選択肢	ノーベルファーマ株式会社 営業本部北海道東北支店 西田 憲昭	13名 院外 0名 院内13名
第118回	12月12日	半固形栄養剤の有効性について	多田 梨保	10名 院外1名 院内9名
第119回	1月11日	呼吸器患者に強くなろう	PHILIPS 北海道支店 札幌営業所 呼吸センター 原田龍之介	37名 院外 1名 院内36名
第120回	2月13日	画像のみかた	松尾 覚志	13名 院外 2名 院内11名
第121回	3月13日	入院時栄養スクリーニング方法について	中山 祐子	28名 院外 8名 院内20名

○NST地域連携懇話会…年1回

回数	開催日	内容	演者	参加人数
第10回	6月30日 (金)	「口腔ケアと栄養療法」 演題1. 口腔ケアを考える 演題2. 口腔機能向上への援助法	小樽市歯科医師会 副会長 加藤友一 先生 北海道歯科衛生士会 小樽支部長 角田裕子 先生	64名 院外44名 院内20名

○小樽後志静脈経腸栄養講演会 (株)大塚製薬工場と共催)

回数	開催日	内容	演者	参加人数
第4回	11月11日 (土)	一般演題 当院における栄養スクリーニングの現状と今後の課題 特別講演 今こそ現場に求められるチーム医療の看護部の役割・意識改革～NST活動～	中山 祐子 北光記念病院 看護主任 NST看護部責任者・NST専門療法士 渡邊なつき先生	16名 院外8名 院内8名

◆NSTニュース「栄養の架け橋」…No.17 (8月)・No.18 (12月)・No.19 (3月) 発行

と考えます。難しい課題ですが、NSTメンバーで力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。

【今後の目標】

◆これまでと同様、患者さんへのより良い栄養療法の提供を目指していきたくと思っています。そのためには、NST専門療法士をはじめとするNSTメンバーのスキルアップを図るとともに、病院全体が栄養状態に関心を持って動いていく環境を作ることが重要

NST Chairman 安達 秀樹
NST Director 笠井 一憲

院内感染予防対策委員会

【メンバー】

委員長	堀田 浩貴
副委員長	大橋とも子
病院長	和田 卓郎
医師	水越 常德、安達 秀樹
看護部、医療技術部、事務部の部門責任者	
透析液安全管理者	横道 宏幸
○ICD	堀田 浩貴、水越 常德
○抗菌化学療法認定医	堀田 浩貴
○抗菌化学療法認定薬剤師	小野 徹
○感染制御認定薬剤師	小野 徹
○感染制御実践看護師	澤 裕美

《ICT（感染対策チーム）》

医師	堀田 浩貴
薬剤師	小野 徹
臨床検査技師	木谷 洋介
事務職	神山 拓也
看護師	澤 裕美

【部署の特徴】

ノロウイルス、インフルエンザなどに代表される院内感染は、患者さんに様々な不利益をもたらすばかりではなく、病院そのものに多大な影響を与えます。過去に生じた大きなアウトブレイクを二度と起こさないように、各部署より選ばれた精鋭からなる委員会を、月に一回開催し、院内の感染発生状況や抗菌薬の使用状況、小樽市内で発生している注意すべき感染症、日本や世界のトピック、など幅広い話題について解説を行っています。

院内感染が懸念されるような場合には、直ちに緊急の委員会を開催し、早期にアウトブレイク対策を行います。院内感染を予防するにあたり必要な対策を講じ、啓蒙を行うのが当委員会の大きな使命です。しかし、院内の職員一人ひとりが取り組まなくては、感染予防は行えません。そのため、各看護部門から1名ずつ任命した「感染リンクナース会」を結成し、毎月ICTとの合同会議を開催しています。

合同会議において、リンクナースのレベルアップを図るためのミニ講習会や、現在ICTが取り組んでいるプランの具体的な説明を行っており、それらを各部署へ持ち帰り周知することによって、ICTと現場が繋がって全体のレベルアップが図れると考えています。

また、リンクナース会からは現場での感染対策上の問題点がピックアップされ、ICTの感染対策実施に向けたプランニングに大きな貢献を果たしています。

【平成29年度の取り組み】

- 委員会開催
定例 12回
- 感染研修会
 - ・平成29年11月7日（火）
演題名：「最近流行の梅毒と性感染症対策に関して」
講師：極東製薬工業株式会社営業学術部 担当者様
 - ・平成30年3月6日（火）
演題名：「これまでの当院へのコンサルト事例から当院の感染対策について」
講師：札幌医科大学附属病院感染制御部 西 朝江先生

【今後の課題】

今後もアウトブレイクを起こさない事を第一に、流行の兆しを速やかに把握し、早急な対応を取りながら感染制御活動を遂行致します。

《ICT（感染対策チーム）》

【活動内容】

- ICTラウンド
院内感染を発生させない安全な環境づくりを行い、改善すべき点がある場合は全部署で情報共有できるように、院内感染予防対策委員会で報告し周知しています。
- サーベイランス（感染症調査）
院内の検出菌状況や市内の感染流行などの情報を常に監視し、ベースラインから逸脱した場合は迅速に対応を取りながら院内感染が発生しないよう対策を行っています。また、耐性菌などが検出された場合には、電子カルテ上の付箋機能を利用して現場へ伝え、速やかな経路別感染対策を講じています。
- 抗菌薬適正使用の推進
抗菌薬の使用状況を毎朝確認し、認定薬剤師を中心に薬剤師2名で抗菌薬アセスメントを行い、処方提案や用量調整を行っています。
- 地域連携
ICTは院内の活動だけではなく、近隣地域との合同院内感染対策カンファレンスを行っております。当チームは札幌医科大学病院のカンファレンスに参加し、複数の病院と感染対策について協議を行い、また札幌医科大学病院主催の講習会にも参加し、新たな知識の習得に努めています。

【今後の目標】

ICTメンバーや感染リンクナースのレベルアップに努めると共に、今後は看護師のみではなく、患者さん

に関わる看護補助者、医療技術部からも感染リンクスタッフを任命し、レベルの高い感染制御と感染症治療

支援を行って行きたいと考えています。

看護課長 澤 裕美

医療安全管理対策委員会

【メンバー】

委員長：長谷川 格（医療安全管理責任者）
 診療部：安達 秀樹（マネージメントリーダー）
 看護部：谷川原智恵子（兼任医療安全管理者）、
 原田 真里（兼任医療安全管理者）
 伊藤 瑞代、大石 睦美、渡邊千恵美、
 小松多津子、菊地麻衣子、本間美穂子、
 早川 明美
 医療技術部：鈴木 景就（マネージメントリーダー）
 坂上 延雄、舟見 基、白井美奈子、
 権城 泉、吉田 昌也
 事務局：五十嵐浩司、阿島 亮、大田 隆宏、
 田宮 千晶
 医療安全管理室：笹山 貴司（専従医療安全管理者）、
 平尾 愛
 その他：上野 誠子（医薬品安全管理責任者）、
 横道 宏幸（医療機器安全管理責任者）

【活動内容】（当院のセールスポイント・アピールポイントをお願いします）

委員会：毎月第一金曜日、12回実施

カンファレンス：毎週水曜日、44回実施

院内安全ラウンド：17回実施

【医療安全セミナー】

①開催日：平成29年9月4日 18：00～

講習内容：第一部 チーム医療におけるA iの活用

講師：A i情報センター

山本 正二 先生

第二部 医療事故調査制度の現状（事例を交えて）

講師：佐々木総合法律事務所

佐々木泉顕 先生

参加者人数：214名（近隣施設参加者 4名）

②開催日：平成30年2月27日 18：00～

講習内容：記録の重要性

～医療訴訟における記録の重要性とクレーマー患者対応について

講師：佐々木総合法律事務所

福田 友洋 先生

参加者人数：213名（近隣施設参加者 20名）

【平成29年度インシデント報告分析】

総数 623件

（平成29年4月1日～平成30年3月31日まで）

1. 概要

概要	件数
薬剤	175
輸血	7
治療・処置	13
医療機器等	19
ドレーン・チューブ	62
検査	57
療養上の世話	251
その他	39

2. 報告者職種

当事者職種	件数
医師	8
看護師	416
看護助手	6
薬剤師	38
放射線技師	17
臨床検査技師	13
臨床工学士(CE)	23
管理栄養士	4
理学療法士(PT)	23
作業療法士(OT)	13
言語聴覚士(ST)	5
事務	20
調理委託	37

3. 報告内容

①薬剤（175件）

薬剤報告内容に関する上位10項目

内容	件数
無投薬	49
薬剤間違い	11
過剰投与	9
中止薬の使用	9
単位間違い	7
過剰与薬準備	6
投与方法間違い	6
投与速度速すぎ	6
過小与薬準備	6
過小投与	6

②輸血（7件）

内 容	件 数
無投薬	2
投与時間・日付間違い	1
指示量間違い	1
指示薬剤間違い	1
その他	2

③治療・処置（13件）

内 容	件 数
消毒・清潔操作の誤り	1
治療・処置指示間違い	1
不必要行為の実施	1
方法(手技)の誤り	1
中止・延期	1
その他	8

④医療機器等（19件）

内 容	件数
保守・点検不良	4
医療機器等・医療材料の不適切使用	3
組み立て	3
設定条件間違い	2
保守・点検忘れ	1
消毒・清潔操作の誤り	1
使用前の点検・管理ミス	1
その他	4

⑤ドレーン・チューブ（62件）

内 容	件数
自己抜去	34
接続はずれ	5
切断・破損	4
自然抜去	4
閉塞	2
使用中の点検・管理ミス	2
空気混入	2
ルートクランプエラー	2
その他	5

⑥検査（57件）

内 容	件 数
検体採取時のミス	5
未実施	5
検査の手技・判定技術の間違い	4
患者取違え	4
検体紛失	4
対象患者指示間違い	2
検体破損	2
検査日間違え	2
その他	19

⑦療養上の世話（251件）

内 容	件 数
転倒	134
転落	42
給食の内容の間違い	21
異物混入	12
誤配膳	8
禁食指示	6
スキンケア	2
その他	11

⑧その他（39件）

内 容	件数
針刺し事故	7
情報・記録	9
事務	5
リハビリテーション	8
その他	10

⑨患者影響度レベル分類

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4b	レベル5	その他
104	290	170	30	11	0	0	18

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4b	レベル5	その他	合計
薬剤	33	133	6	2	0	0	0	1	175
輸血	2	5	0	0	0	0	0	0	7
治療・処置	2	5	2	1	1	0	0	2	13
医療機器等	10	8	1	0	0	0	0	0	19
ドレーン・チューブ	3	50	2	7	0	0	0	0	62
検査	19	36	1	1	0	0	0	0	57
療養上の世話	23	42	151	15	7	0	0	2	240
転倒	1	0	6	3	1	0	0	0	11
その他	7	11	1	0	2	0	0	12	39

【今後の目標】

各リスクマネージャーのスキルアップをすることにより、より安全性の高い医療の提供を目指します。また、医療安全地域連携施設と連携強化に努め、地域の

医療安全向上にも貢献して参ります。

専従医療安全管理者 笹山 貴司

褥瘡対策委員会

【スタッフ】

委員長 孫 誠一

事務局 田尾 昂介 (医事課)

武田 和博 (施設用度課：購買担当)

委員 谷川原智恵子 (手術中材室看護課長)
 根布 実穂 (外来看護課、皮膚・排泄ケア認定看護師)
 越智 瑞季 (3A病棟看護課)
 会津 郁美 (3B病棟看護課)
 小野寺由美 (4A病棟看護課)
 森 靖子 (4B病棟看護課)
 河原 美幸 (5B病棟看護課)
 一條 周一 (臨床検査室)
 平塚 渉 (リハビリテーション室)
 林 知代 (リハビリテーション室)
 権城 泉 (栄養管理室)
 松倉 瑞希 (薬剤室)

【部署の特徴】

褥瘡は難治性の創傷であり、一度発生すると完治するまでに時間を要します。そのため、褥瘡が治癒しないことで入院期間が長くなり、身体的・精神的苦痛を伴うと予測されます。

褥瘡予防や治療には、発生原因の把握や局所治療だけでなく、全身状態・栄養状態・ポジショニング・社会的背景など多方面からの介入が必要となります。当院では多職種でチームを組み、日々活動を行っています。

【年間患者状況 (毎月末〆)】

H29年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者総数	210	199	213	225	209	196	196	218	170	215	213	200
発生危険総数	114	96	119	127	113	107	106	130	104	129	114	82
危険患者率(%)	54.29	48.24	55.87	56.44	54.07	54.49	54.08	59.63	61.18	60.0	53.50	41.00
有褥瘡患者	11	7	8	8	3	3	3	2	6	4	9	8
褥瘡有病率(%)	3.81	3.52	3.76	3.56	1.44	1.53	1.53	2	3.53	1.86	4.23	4.00
褥瘡発生率(%)	—	2.51	2.35	2.67	2.39	2.55	2.04	0.46	2.94	1.40	3.29	3.00

【平成29年度の取り組み】

1. 毎月第3木曜日に委員会を開催
2. 有褥瘡患者に対し、週1回病棟担当医師または皮膚・排泄ケア認定看護師が褥瘡回診を実施
3. 体圧分散寝具のへたりチェックを実施
4. サークルカバー購入 (15枚)
5. 西小樽病院より体圧分散寝具の借用エアマット (モルテン オスカー) 5台、交換マットレス (パラマウントベッド マキシフロート) 10台
6. 10月31日 (火) 18:00～定期勉強会開催
 実践を交えたポジショニング アルケア株式会社
 鈴木 結也氏

7. 第19回日本褥瘡学会学術集会参加 (平成29年9月14日、15日 岩手県盛岡市)

【今後の目標】

来年度は診療報酬・介護報酬のW改定となります。また当院でDPC制度を導入するため、より予防的ケアが必要となってきます。褥瘡ケアはチーム医療が必要なため、医師・看護師だけではなく、多職種で質の向上をめざし、ケアに関わって参ります。

外来看護課 皮膚・排泄ケア認定看護師
 根布 実穂



クリニカルパス委員会

【概要】

平成18年よりクリニカルパス部会として発足し、紙カルテ期よりクリニカルパス作成に従事し済生会小樽病院の医療の標準化、患者インフォームドコンセントの充実の支援をしております。平成25年から電子カルテ移行に伴いクリニカルパスも電子化へと移行しております。

【スタッフ】

委員長：織田 崇

医師：5名

看護師：10名

薬剤師：2名、放射線技師：1名

臨床検査技師：1名、臨床工学技士：1名

理学療法士：2名、管理栄養士：1名

事務職員：5名

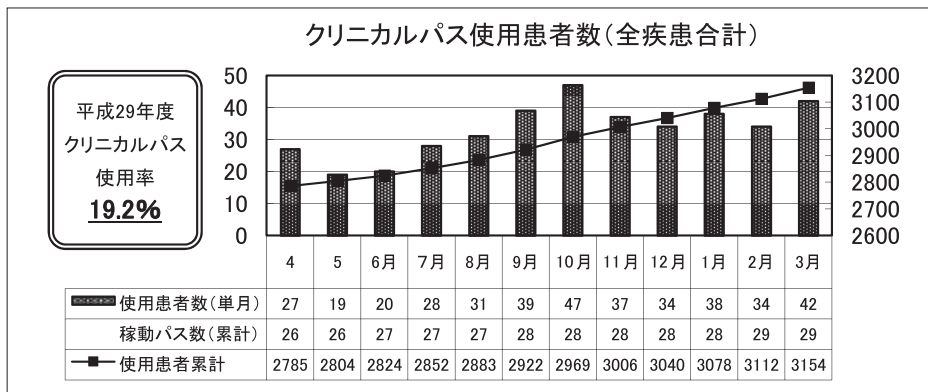
【業務内容】

済生会小樽病院の医療の標準化に向けたツールとしてクリニカルパスの作成、運用方法の検討、クリニカルパスの啓蒙、質の改善（バリエーション分析、ベンチマーキング）、患者インフォームドコンセントの充実などに従事しております。平成25年度よりクリニカルパスの電子化へも従事しております。

【当委員会の特徴】

委員会を4つのチーム（管理運用チーム、分析・改訂チーム、新規作成チーム、活動推進チーム、）に編成し、各チーム単位でクリニカルパス活動の検討をしております。

【実績】



稼働クリニカルパス

胃瘻造設術（4種類）、R-CHOP療法、糖尿病教育入院（2種類）、インシュリン導入（2種類）、腹腔鏡視下胆嚢摘出術（2種類）、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（2種類）、ヘルニア根治術（2種類）、外科大腸癌化学療法、膝関節鏡視下手術、左・右大腿骨近位部骨折、左・右橈骨遠位端骨折（4種類）、左・右TKAパス、前立腺生検、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）、ESWL、尿管ステント留置・交換術、GC（ジェムザール+シプラスチン）、TUL

計29パス

【平成29年度の取り組み】

クリニカルパス委員会の委員長が目良医師から織田医師に変更した、1年目の年となりました。昨年に引き続き、クリニカルパス使用率向上の為に、稼働クリニカルパスを増やすことへ専念しました。その中でも特に整形外科のクリニカルパス数を増やすことへ集中して活動し、平成28年度24パスから29パス稼働まで改善されました。あと一步まで完成しているパスが多数控えている為、調整後稼働してクリニカルパスの使用を進めていく予定となっております。

パス大会開催

平成29年11月2日

福井県済生会病院見学、福井総合病院研修参加 伝達講習

講師：看護部 白杵美花、リハビリテーション室 髭内紀幸

【今後の目標】

平成30年度よりDPC開始ということもあり、質の高い医療提供に向けクリニカルパス作成に努めていきます。

リハビリテーション室 髭内 紀幸

患者サービス検討委員会

【メンバー】 21名

委員長	松江知加子（看護部）
副委員長	一條 周一（医療技術部）、武田 和博（事務部）
事務局	館林くるみ、焼田久美子、佐藤 愛友（事務部）
看護部	高橋 恵、福島 陽子、齋藤 亜妙、佐藤 琢己、早川 優貴、荒川 香織、本間 未知、香賀 昭子
医療技術部	小野 徹、一野 勇太、内藤 格、松村 真満、及川 尚也、松村亜貴子
事務部	豊川 哲康

【活動内容】

「接遇グループ」「療養環境グループ」「イベントグループ」の3グループに分かれ、それぞれ患者サービス向上の活動を行っています。そして毎月最終火曜日にはメンバー全員が集まり、各グループの進捗状況や方向性を確認しています。

【平成29年度の取り組み】

活動目標

- ・接遇応対向上
- ・院内イベントと環境整備を通じて、癒しと快適な療養環境の提供
- ・アンケートやご意見箱の分析、患者ニーズの把握

活動実績

1. 接遇グループ

- ・5月 接遇標語の選定。
今年度の標語「安心します…あなたの笑顔とやさしい言葉」
- ・8月31日 接遇研修会（全職員対象）の開催。
演題：医療従事者に求められる接遇対応～患者さんは何を求めているか～
講師：(株)スズケン愛生館営業部 日本経営コンサルタント 岩崎 俊一氏
参加人数：109名
- ・10月～11月 接遇優秀者投票の実施。
テーマ「優しい言葉をかけてくれた／嬉しい気遣いをしてくれたあなたに1票」
職員・患者様による投票の結果、山本 信（3A病棟）、佐野 舞（透析室）2名に決定。
12月の忘年会にて和田病院長より表彰されました。

2. 療養環境グループ

- ・5月～ 病室に設置した壁掛け時計の定期的時刻修正の実施。

- ・8月 1Fロビー男子トイレの消臭対策としてトイレ内に、掲示物（シール）を貼付。
また清掃委託業者にトイレ清掃回数の増を依頼。
- ・9月 1F・2Fのトイレ表示が判別しにくかったため、より見やすい表示に変更。

3. イベントグループ

- ・6月10日「手稲ウインドアンサンブル」（吹奏楽）による院内コンサートを開催。
「演歌メドレー」「おたる潮音頭」他全4曲、職員有志も加わり、患者様より好評を得ました。
- ・12月 9日「北陵中学校合唱部」による院内コンサートを開催。
なつかしの童謡や坂本九「見上げてごらん夜の星を」等を合唱。合唱部のメンバー一人一人から患者様へ手作りのプレゼントが手渡されたり等、交流を深める場面もありました。

【今後の目標】

より良い接遇応対、癒し・快適さを求めた療養環境の整備を行い、患者満足度の向上を目的に、小さなところからコツコツと課題解決を積み上げてきました。今年度は「患者ニーズの把握」について具体的成果を上げていないという課題が残りましたが、次年度には詳細なリサーチに基づくサービスの提供により、患者様に「済生会を選んでよかった」と感じていただけるような病院づくりを目指します。サービス向上に終わりはありません。



事務部 武田 和博

広報委員会

【メンバー】20名

委員長 野村 信平（経営企画室）
 副委員長 中山 祐子（看護部）
 副委員長 清水 雅成（地域医療支援課）
 事務局 葛西 淳子（医療クラーク課）
 事務局 城野さや香（地域医療支援課）
 済生記者 秋元かおり（総務課）
 医療技術部 中村 圭介、松山 朋也、多田 梨保、
 高橋 賢規、中村 友洋、釜石 明

看護部 神田 実理、金田真智子、大沼貴都美、
 太田 聖子、佐野 舞、真田 智広
 事務部 阿島 亮、石橋 慶悟

【活動内容】

広報委員会では当院の様々な広報活動について月1回の委員会を開催し、部門横断的に活動しています。今年度も、様々な広報活動に取り組んで参りました。主な活動は以下の通りです。

【平成29年度の取り組み】

	活動内容	備考
4月	・院内広報NEWS110号発行	
6月	・院外広報紙さいせいおたる34号発行	
7月	・済生会小樽病院第16回健康セミナー開催（日本人の二人に一人が「がん」になる時代「がん」を理解し、よりよく生きるための知識）	40名参加
8月	・院内広報NEWS111号発行 ・Youtubeアカウンウトの設定および作成 ・家庭医療科の紹介動画の作成 ・看護部特設ページの更新 ・各医師の写真を掲載	
9月	・健康フェスタin小樽開催【9月24日（日）】 ※特別イベント「ノルディック・ウォークを楽しもう」（江川淳様） ・済生会小樽病院第17回健康セミナー開催（乳がんを早期発見するために！） ・病院情報の公表	1,653名超来場 25名参加
10月	・院外広報紙さいせいおたる35号発行	
11月	・済生会小樽病院第18回健康セミナー開催（あなたの関節大丈夫？ 手・肘・肩の病気を学ぼう）	152名参加
1月	・院外広報紙さいせいおたる36号発行 ・院内広報NEWS112号発行	

平成29年度は昨年度に引き続き済生会健康フェスタを中心としてさまざまな部署が協力し開催をすることができました。今年度は1,600名の来場があり昨年度の来場人数を上回り、大盛況のうちに終えることができました。

また、委員会で細分化している3つのグループ（広報誌グループ：中村リーダー・セミナーグループ：松山リーダー・ホームページグループ：石橋リーダー）に関しても、昨年度に引き続き、各リーダーが精力的にグループをまとめながら活動を行いました。広報誌グループは、院外広報紙のさいせいおたるを中心に作成し、今まで以上に質の高い記事を掲載していました。セミナーグループでは、地域住民向けの「済生会小樽病院健康セミナー」を年間3回実施しました。その中で、11月の健康セミナーでは初めて院外施設である小樽マリンホールで開催し、152名と多くの方にご来場いただきました。ホームページグループは当院HPの内容やデザインの修正や変更を行い、当院HPにて

新診療科のPR活動や動画を掲載しより多くの皆様に当院を知ってもらえるように活動を行いました。

【今後の目標】

平成30年度は委員全員参加型の広報委員会を継続し、医局、看護部、医療技術部、事務部がそれぞれの立場で済生会小樽病院の情報発信をしていきます。院内外広報誌、健康セミナーも広報委員会が主導となって企画立案していきます。また、6月に予定されている医療に関する広告ガイドラインの改正に対してもしっかりと対応できるよう委員会全体で協議していきます。新たな試みとしては音楽の癒しを医療に加える「医療と音楽の統合医療」を行ってきたいと考えており、健康セミナー開催時に楽器演奏などの余興を入れ、出席者に医療の知識と音楽の癒しを提供していきたいと考えています。

広報委員会 松山 朋也

内分泌・糖尿病診療センター

【スタッフ】

センター長：水越 常德

看護部：木藤 絢子、仙保 知子、早川恵美子

医療技術部：青木有希子、東 紗貴、木谷 梨絵、
権城 泉、城田 祐輔、高橋 賢規、
松倉 瑞希、松村亜貴子、三浦富美彦、
村川 麻里子

➤ 糖尿病療養指導士

木藤 絢子、早川恵美子、青木有希子、東 紗貴、
木谷 梨絵、権城 泉、松村亜貴子、三浦富美彦、
村川麻里子

【部署の特徴】

主に糖尿病透析予防指導、CGM（持続グルコース測定）、フットケア外来、インスリン・血糖測定指導を通して、患者さんのライフスタイルに合わせた療養指導が行えるように、各職種がそれぞれの特色を活かしつつチーム一丸となって活動しています。

糖尿病教育入院は、患者さんご自身が血糖値や生活を振り返るきっかけの場として、当センターのメンバーが糖尿病についての学習を行っています。

また、最近では近医の産科と連携を図り、妊娠糖尿病と診断を受けた妊婦さんのサポートにも力をいれています。

【今後の目標】

学習会や学会参加を通して、最新の情報をいち早くキャッチするとともに、メンバー各自がそれぞれの職種を活かしたスキルアップをめざして、小樽で「糖尿病といえば済生会」といわれるような活動を行っていきたくと考えています。

【実績】

糖尿病教育入院 介入件数 52件

糖尿病透析予防指導 指導件数 79件

CGM装着・解析 介入件数 69件（i Pro2 67件
リブレプロ 2件）

フットケア外来 介入件数 41件

妊娠糖尿病 9名

【平成29年度の取り組み】

➤ センター会議開催

定例 12回

➤ 院内勉強会

H29.4.3 3B病棟勉強会

講師：青木有希子

テーマ：「CGMの装着方法、糖尿病教育入院、教育入院パスについて」

H29.4.27 看護部研修

講師：木藤 絢子

テーマ：「知ってる？みんなで学ぼう！！糖尿病療養指導士のお仕事」

院外勉強会・活動

H29.6.22 糖尿病セミナー

テーマ：「糖尿病と言われたら①」

演者：水越 常德「糖尿病のいろは～最近のトピックス～」

演者：木藤 絢子「糖尿病のしめじ～神経障害、網膜症、腎症について～」

演者：窪田 恭子「糖尿病治療にかかるおかげの話」

H29.5.18～20 第60回日本糖尿病学会年次学術集会

参加：木藤 絢子、青木有希子

H29.6.11 第16回ウォークラリー（ボランティア）

参加：水越 常德、木藤 絢子、早川恵美子

H29.7.29～7.30 第5回日本糖尿病療養指導学術集会

参加：城田 祐輔

H29.9.12 第2回後志臨床糖尿病フォーラム

演者：東 紗貴「CGM（持続グルコース測定）を用いた栄養指導」

H29.9.18 第6回日本くすりと糖尿病学会

演者：青木有希子「インスリンアスパルト二相性製剤からインスリンデブレデク・インスリンアスパルト配合注へ同量切り替え時の有効性と安全性評価」

H30.2.18 第70回済生会学会

演者：青木有希子「1型糖尿病と診断された血液透析患者の血糖コントロールに難渋した1例」

演者：権城 泉「糖尿病教育入院を実施した患者の外来フォローの必要性と今後の課題」

看護部 木藤 絢子

緩和ケアチーム

	役職・職種	氏名
診療部	内科副診療部長	明石 浩史
	外科副診療部長	木村 雅美
	精神科(非常勤)	鈴木志麻子
看護部	主幹	
	緩和ケア認定看護師	石渡 明子
	主任	岸本 悦子
	看護師	見澤 早苗
	看護師	齋藤 亜妙
	看護師	藤原 大地
	看護師	本郷 詩織
	看護師	小松 紗那
薬剤室	課長 緩和薬物療法認定薬剤師	鈴木 景就
	薬剤師	村川麻里子
栄養課	管理栄養士	前田 紗貴
リハビリ	理学療法士	富樫 衣里
	作業療法士	林 知代

【活動内容】

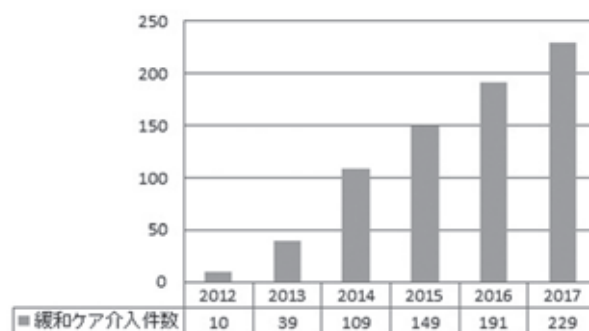
2017年度も昨年に引き続き、緩和ケア認定看護師を中心とし、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士など多職種で構成されたチームで活動をしています。患者さん、ご家族のつらさに寄り添い、また、希望をもって生活が継続できるよう活動しています。具体的な活動として①緩和ケアチーム回診(毎週火曜日午後)②カンファレンスの定期開催(毎週木曜日午後)③院内講演会の企画④マニュアル整備⑤地域連携を行っています。2017年度の年間目標として、チームのホームページ作成、がんリハビリテーション料の算定増加、チーム介入件数の維持などを挙げ、それぞれ目標値100%を超える結果を残すことができました。特に今年度は患者様の「家に帰りたい」という希望について地域の医療、福祉関係の皆様と協同し、10名以上の患者さんを自宅看取りにつなげることができました。看取りまでは難しくても、多くの方が入院したきりではなく、入退院を繰り返さ

がらも、安心して自宅で過ごせるよう調整できたと思います。

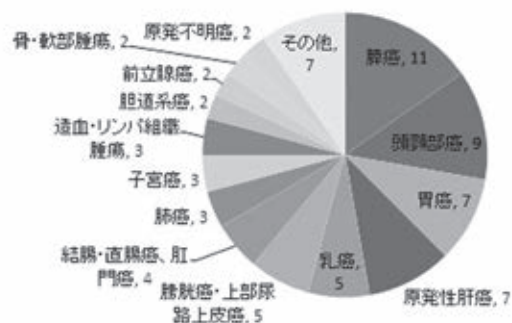
今後も患者さんにご家族の希望を尊重したチーム医療を継続していきます。

【実績】

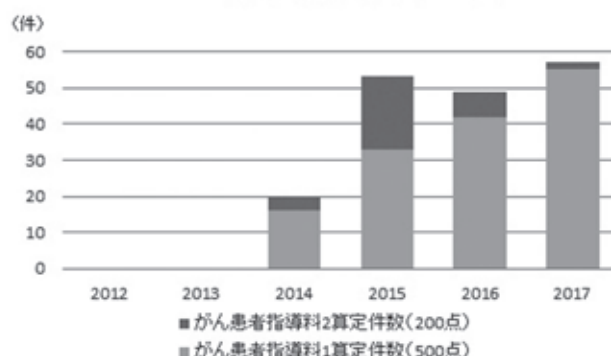
緩和ケア介入件数



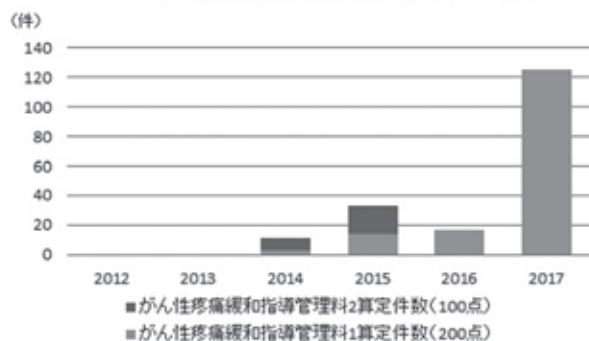
病名



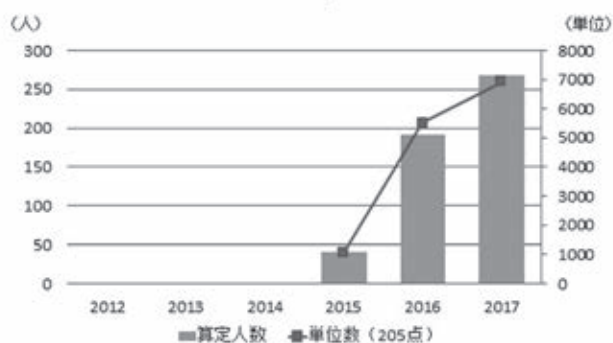
がん患者指導管理料



がん性疼痛緩和指導管理料



がんリハ



○講演会の企画・開催

緩和ケア特別セミナー（6月14日）

演題：How can we understand depression in cancer patients?

講師：スイスローザンヌ大学

精神科教授 F.スティーフェル先生

参加人数：72名（院外64名、院内8名）

第1回（10月27日）

演題：緩和ケアにおける睡眠障害

講師：北海道がんセンター 松山哲明先生

参加人数：79名（院外24名、院内55名）

第2回（11月10日）

演題：新しいオピオイドの位置づけ

講師：札幌医科大学

麻酔科 岩崎創史先生

参加人数：53名（院外35名、院内18名）

○平成29年度 その他の取り組み

8月5日～6日

済生会小樽病院ELNEC-Jプログラム開催

責任者：石渡 明子

受講者：24名

9月17日 患者の意向を尊重した意思決定のための研修会

修了者：明石 浩史、石渡 明子

【今後の目標】

地域医療への貢献

小樽後志管内で緩和ケアに積極的に取り組む医療機関は少ないため、地域の緩和ケアの質向上に寄与し、がんになっても安心して住み慣れた場所で過ごしていけるよう、これまで通り地域の医療福祉関係者と連携しながら、チーム活動を継続していきたいと考えています。また、最新の知識や緩和ケアに対する考え方などをさら広めていくための講演会を継続的に開催していきます。

地域の緩和ケアの質向上についての講演、講師等の依頼にも積極的に協力します。

研究活動の推進

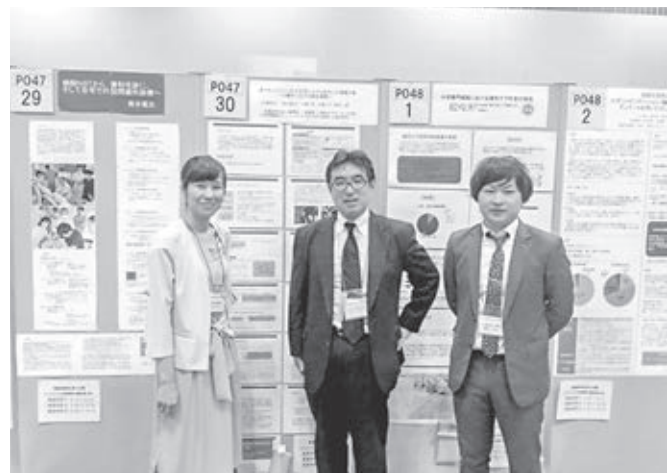
チームメンバー個々の能力の向上は、ケアの質をさらに高めることにつながります。メンバーそれぞれが自己研鑽を行い、多職種チーム医療の成果を関係学会等に積極的に発表していきたいと思えます。

リンクナースの育成

リンクナースを継続的に教育していきながら、看護部全体の緩和ケアの質向上に寄与します。

【研究発表実績】

演題名	発表者	学会名/講演会名	年月日/場所
「手のマッサージをして」から「息子と温泉旅行に行きたい」にニーズが変化した緩和ケアの一事例	斉藤 駿太	日本臨床作業療法学会 第4回 学術大会	2017.5.13 宮城
がん患者の在宅療養できる環境整備に向けた保険薬局薬剤師との連携	鈴木 景就	第64回北海道薬学大会	2017.5.20～21 札幌
オクトレオチド、ステロイド、オランザピンの制吐剤使用頻度、悪心嘔吐症状出現頻度比較による有効性の検討	明石 浩史	第22回 日本緩和医療学会学 術集会	2017.6.23～24 横浜
高セキュリティ・クラウド型システムを介した情報共有 ～小樽市における病診連携～	石渡 明子	第22回 日本緩和医療学会学 術集会	2017.6.23～24 横浜
一般病院に勤務する終末期ケアに前向きな看護師が感じる困難感	藤原 大地	第22回 日本緩和医療学会学 術集会	2017.6.23～24 横浜
がん患者リハビリテーションに対する「ケア・ノート」の有効性の検討	斉藤 駿太	第51回 日本作業療法学会	2017.9.23 東京
ランチョンセミナー 小樽市における多職種ネットワーク構築システム 「ひかりワンチームSP」を活用して	石渡 明子	第48回 日本看護学会 看護 管理学術集会	2017.10.12 札幌
オピオイド鎮痛薬の併用による有効性の検討	鈴木 景就	第27回日本医療薬学会年会	2017.11.3～5 千葉



【講演実績】

講演名	発表者	主催	年月日/場所
「がん」になっても～自分らしくあなたらしく～	石渡 明子	済生会小樽病院	2017.7.19 済生会小樽病院
症例報告～意思決定支援を振り返る～	石渡 明子	小樽後志緩和医療研究会	2017.8.3 小樽市立病院
自己検診のすゝめ～わたし乳がんかも？～	石渡 明子	済生会小樽病院	2017.9.20 済生会小樽病院
緩和ケア	石渡 明子	北海道看護協会	2017.10.5 小樽協会病院
病院と在宅診療医の連携を強化してどなたにも充実した生活を	明石 浩史	終末期医療を考える会	2017.11.25 小樽市医師会
がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（がん性疼痛の評価と治療）	明石 浩史	手稲溪仁会病院	2017.12.2 手稲溪仁会病院
ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	石渡 明子	市立札幌病院	2017.12.16～17 市立札幌病院
終末期看護	石渡 明子	千歳第一病院	2018.1.19、1.26 千歳第一病院
がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（消化器症状）	明石 浩史	北海道がんセンター	2018.2.17 北海道がんセンター
ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	石渡 明子	手稲溪仁会病院	2018.2.17～2.18 手稲溪仁会病院
がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（がん性疼痛の評価と治療）	明石 浩史	小樽市立病院	2018.3.3 小樽市立病院



今年度より精神科の鈴木志麻子医師が非常勤ですが緩和ケアチームに加わり、より全人的苦痛緩和がはかれるような体制になっています。今後も多職種チーム医療で患者さんのQOL向上に努めていきます。

看護部 主幹 石渡 明子

済生会屋根瓦研修

東京ディズニーリゾートでの全国済生会屋根瓦研修推進のためのワークショップに参加して

整形外科 高橋 惇司

平成29年12月2日から3日にかけて、第8回全国済生会屋根瓦研修推進のためのワークショップに参加させていただきました。

屋根瓦研修とは、先輩は後輩に教え、教えられた後輩はさらにその後輩に教え…というように、屋根のかわらのように積み重なっていく教育法の中で、済生会では後輩への指導を通じて自らも成長し、日々の診療の糧とすることを推進しています。この研修は東京ディズニーリゾートで実際に新人教育に用いられているプログラムを体験することで人を教えるということのノウハウを学ぶことを目的としており、北は北海道、南は九州から卒後2～5年目の研修医を主に、総勢30人が参加しました。

1日目はディズニーアンパサダーホテルにて新人教育に関する講義と、ディズニーシーにて実際の教育現場を見学させていただきました。

講義の中で人に何かを教える際の、①自らの準備を行う(指導内容の整理や過程の分割)、②相手の準備(理解度の共有など)、③説明(繰り返す、ポイントや意味を説明する)、④実践(実際に説明させながら行なってもら)、⑤フィードバック(指導の前後を褒める

ことで挟むサンドイッチ法)、といった5つの過程を繰り返すトレーニングサイクルが大切であるとありました。講師はディズニーリゾートのスタッフの方でしたが、間の取り方やスライドの見せ方など、聞いている人の興味を引きつける工夫に始まり前述の5過程の意識や、聞き手の側に立った配慮が随所にされておりました。

2日目は前日に学んだことをもとに、人を育てる際に大切なこととは何かというテーマでグループワークを行いました。ブレインストーミングというアイデアを出す際のグループワークの一種で、KJ法という手法を用いアイデアの整理方法があり、それを実践したところ様々な意見が出され、テーマに関する理解はもちろん、ブレインストーミングによる情報の整理、共有は非常に有用であると実感いたしました。

また汎用性の高い手技(今回はCVカテーテル挿入)を例にとり、シミュレーターを用いて指導を行うという想定で指導の実践を行いました。ここでは普段何気無く行なっていることを言語化すること、そして要点を絞って効果的な指導を行う難しさを実感しました。

研修は2日間という短いものでしたが、内容の濃い有意義な研修をさせていただきました。さらに全国から集まった同年代の研修医と意見を交わし、交流を持ったこともとてもいい経験になりました。このような機会を与えていただき、誠にありがとうございました。今回の経験を今後の診療や後進教育に活かしたいと思います。



地域研修

済生会小樽病院での地域研修を終えて

平成29年8月2日～10日
済生会吹田病院研修医 蒲田 勇介

8/2から8/10までの約1週間、短い期間でしたが大変お世話になり有難うございました。

小樽病院は吹田病院とは異なり、急性期から回復期までを一貫して診る病院ということもあり、緩和ケア主体の訪問看護や回復期リハビリテーションカンファレンス、退院調整カンファレンス等への参加など、普段はなかなか経験できないような機会を体験することができました。また初診外来での総合診療的な振り分け業務も経験させて頂きました。

また、黒川先生の主導のもと毎朝の勉強会およびプライマリケアのWebカンファレンスに参加させて頂

き大変勉強になりました。また手稲溪仁会病院での研修医によるMorning Case Conferenceに参加する機会を頂き、非常に刺激を受けました。家庭医である黒川先生には毎日1日の振り返りをして頂いたり、身体診察に関するレクチャーなどして頂き、研修医として学ぶべき様々なことを教えて頂きました。

加えて、泌尿器科の手術にも参加させて頂き、多くの手技を経験させて頂きました。安達先生には懇切丁寧に指導して頂き、大変勉強になりました。

小樽病院のスタッフの皆様はとても温かく親切な方々ばかりで、非常に居心地良く研修生活を送ることができました。また送別会まで開いていただきとても楽しい時間を過ごすことができました。黒川先生、安達先生をはじめ、お世話になりましたすべての先生方、スタッフの皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。誠に有難うございました。

地域医療研修を終えて

平成29年7月3日～7月27日
山形済生病院 研修医 岩本尚太郎

私の病院では1ヶ月間、地域医療研修ということで勤務地を離れて出張するというものがあります。昨年从小樽も候補に入ったと聞き、行くなら確実に小樽でしよと思ったことを覚えています。山形も地域と言われればそうなので、なんとも言えないところがありました。

7月という抜群の季節に小樽入りしたわけですが、初夏にもかかわらず思っていたよりも寒かったです。さらに週末になると決まって大雨が降り近所のケースデンキが水没していたようです。地元の人に、北海道には梅雨がないと聞いたんですけど、と尋ねると梅雨じゃなくてただ頻回に雨が降っているだけと言われました。私が雨男だったのかもしれませんが。

最初に済生会小樽病院に出勤したときの印象は、きれいな病院だなと、ほとんどのスタッフが挨拶してくれて明るい職場だな、でした。山形の病院でも接遇には気を使っていますが、さらに上のレベルを見せつけられたような気がしました。心なしか患者さんたちの

表情も明るく、やはり挨拶は医療としても大事な要素だと感じました。

勤務内容としては、主に回復期病棟と外科病棟にお世話になりました。山形でも回復期病棟はあり、リハビリもそれなりに充実してはいますが、こちらのほうがリハビリに割く時間は多かったです。また患者さんへの接し方についても学ぶべき点は多々あり、とても勉強になりました。外科では多くの手術に入らせていただき、貴重な経験を積ませて頂きました。

余談になりますが、せっかくの北海道なので観光し尽くそうと意気込んできたのですが、雨の影響もありそこまでの観光をすることができなかったのが悔やまれます。ただ、外科の先生方、整形の先生方のお陰で、小樽の旬の食を楽しむことができました。すごく美味しかったです。ありがとうございました。

1ヶ月という短い間でしたが、今後の医療を担う上で必要になっていくものについて考えさせられるいい機会になりました。和田院長先生をはじめ多くの先生方、スタッフの方々に心より感謝を申し上げます。

山形という地域の医療をより良いものにできるよう精進していきたいと思っております。今後共、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

寒さと温かさ～済生会小樽病院でのひと月～

平成29年6月1日～28日
山形済生病院 研修医 杉山 琢真

「寒い…」涼しいのではなく寒かった。小樽築港駅で降り立ち感じた。雪国ではあるが山形の初夏は蒸し暑く、六月に一桁の最低気温は経験がなかった。

小樽病院を地域医療研修の場とし希望させて頂いたのは、叔父が日銀小樽支店にかつて勤務していたことと叔母が小樽出身であることで、かねてよりご縁のある土地だからである。私自身も小樽の歴史や文化を見聞きする機会も多く、あらゆる意味で豊かなところであると感じていた。

研修では今まで診ることのなかった疾患を経験したり、プライマリーケアを中心とする鑑別診断の仕方を勉強したり、毎日貴重な学びの機会を与えて頂いた。

私の勤務地のある山形県村山地域も高齢化が進んでいる地域の一つであるが、それ以上に小樽市は高齢化が進んでいるのではないかと1ヶ月診療に携わって実感した。実際に2015年時点で小樽市の高齢化率は37.2%、村山地域の高齢化率は29.4%とかなりの開きがある。かつて札幌より繁栄していた小樽市。道内でも人気の観光地であり、休日の観光スポットは賑やかであった。しかし、地域住民の暮らしはそのような華やかさの中にばかりあるのではない。いわゆる陽の当たらない部分の小樽を支えておられるのが医療人な

のではないだろうか。

認知症カフェに参加した際、山形出身だと告げた私に、小樽の人は閉鎖的ではないかとお話になった参加者がいた。観光地である小樽の方が閉鎖的だとは感じた事がなかったので、色々思いを馳せた。それは病の不安は勿論、老いによる孤独を意味する言葉だったのかもしれない。患者さんの言葉をどのように受け止めるか、医療人は深いところまで感じなければならない。その奥深さと共に、近い将来の日本の縮図が小樽市にあるのかもしれないと感じた。

緩和ケアの在宅訪問へも同行し、終末期の患者さんや地域の方々と関わりの中、心に残る言葉を多数掛けていただいた。特に終末期の患者さんからの「人の役に立つ人になりなさい」というひとことが身に染みした。言葉は月並みかもしれないが、人生の終末にある方のお言葉は重く深い。肝に銘じて今後の医師人生を歩んでいきたい。

このひと月は、これからの医師人生の指標を頂いたと言っても過言ではないくらい貴重な財産になりました。和田院長はじめ松谷先生、黒川先生、諸先生方やスタッフの方々に「温かく」接していただき、充実した研修となりました。済生会小樽病院の皆様には心より感謝申し上げます。

ご指導賜りありがとうございました。地域医療を支える臨床医になるためにこれからも努力して参りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

訪問看護養成講習会 公開講座 訪問看護技術（認知症看護・難病患者の看護）に参加して

地域看護課 小林かをり

訪問看護養成講習会は現在訪問看護に関わっている者、将来、訪問看護を目指す人や訪問看護初心者に向けた内容で32日間行われています。

（私も20年以上前のむか～し、昔、この研修を受講しており訪問看護師の養成は北海道の委託事業として行われています）今回受講させていただいた公開講座、1日目は訪問看護における認知症の患者・家族に対して訪問看護師の役割、在宅療養者と介護者が望む生き方や生活ができるように支援すること、認知症の特性を理解し、生活状況を見極め、ご本人や介護者の主体

済生会本部研修 新人看護職員教育担当者研修に参加して

4 A病棟 兒玉真夕美

新人看護職員の研修企画に携わることは少ないのですが、当病棟にも毎年新人看護職員の入職があり身近なことであったことから今回、新人看護職員教育担当者研修に参加させて頂きました。講義の中で最も印象的であったのは、「何を教えられたかではなくどのように教えられたかによって受け止めが変わる。振り返りは教材化の大切な機会であり5分でもケアが失敗し

性を重視しながら看護展開をすること

2日目は難病患者の訪問看護についてアセスメントとケアについて一人一人異なるので、進行速度、パターン、病気を見極め予想立てる、症状は本当に病気そのものから来ているのか？他に悪化させる要因はないか考える、自分が考えた予想と本人・家族・医療関係者・ケア提供者の予想は同じかどうか、考えること。《積極的な傾聴》その人と家族はどう感じているか、考えているかを知る。それがその人にとっての意味、言葉の奥にある意味を考える表情に表せない思いをくみ取る。どう答えようかと考えるよりも、まず「聴くこと」が最大のケアであることを学びました。

今後も積極的に研修に参加し折に触れて読み返す、確認することで自己研鑽し今後の訪問看護に役立てていきたと思います。

た時は新人の思いを受け止める。指導者から受けたケアリング体験により、指導者を信頼し、他者へのケアリングを学ぶ。」ということでした。それが、患者へのケアリングにも繋がるのだと思います。忙しい毎日ですが、それを実践していくことは新人看護職員の成長に繋がるので、その時間を大切に、現場で実践していきたいと思っています。また、グループワークでは東北ブロックの方達と一緒にでしたが、悩みを共有したり、研修後には、観光や食事に行ったりと済生会の仲間とも楽しむことが出来ました。

今回の学びを新人教育指導者やスタッフへ伝え、皆と一緒に新人看護職員を温かく見守り、共に働く仲間を増やしていきたいと思っています。

認知症支援ナース育成研修

認知症支援ナース育成研修に参加して

4 B病棟 佐々木雪絵

平成29年9月12日～13日の2日間、済生会本部にて認知症支援ナース育成研修に参加させて頂きました。この研修は認知症看護を理解し認知症看護の推進役となる「認知症支援ナース」を育成する目的で行われています。

初日は2025年問題、認知症の病態や治療、行動・心理症状についての講義がありました。テキストを見たときは沢山の内容で大丈夫か心配になりましたが、私たちが理解しやすいように難しい内容も楽しく実例や看護の視点で講義していただき、あっという間に1日目が終了しました。2日目は認知症認定看護師や老人看護専門看護師による講義がメインで、認知症看護

についてのアセスメントや援助技術、コミュニケーション、療養環境、倫理・意思決定支援について学びました。途中グループワークやロールプレイも行われ、他の済生会病院の方との交流や意見交換も行い、同じ済生会の看護師という帰属意識が高まりました。

私はこれまで年齢や疾患も様々な患者さんの看護をしてきましたが、正直、認知症看護は苦手を感じていました。認知症看護に対する正しい知識が不足していたため自分で苦手だという壁を作っていたのだと思います。この研修の前と後では自分の認知症患者さんとの関わり方が180度までとはいきませんが変化したと思います。

研修で学んだ「行動の意味を探る」を踏まえ私たちにできることは何なのか、リンクナースとして病棟のスタッフと共に取り組み、患者さんも私たちも笑顔になれる認知症ケアの実践を目標にしたいと思います。

アドバンス・マネジメント研修Ⅱ

済生会東北・北海道ブロック中堅看護師研修（アドバンス・マネジメントⅡ）に参加して

3 B病棟 仙保 知子

アドバンス・マネジメント研修とは、次世代の看護管理者としての役割を担う中堅看護師が、自己の役割を明らかにし輝きながら元気に働いていけることを目指した研修です。

東北・北海道地区の5つの済生会支部（北海道・岩手・山形・宮城・福島）で開催しており、平成29年は北海道済生会が当番となり、10月13日（金）当院にて開催されました。講師に株式会社 ゆめかな 代

表取締役 ビジネスコーチ 石川 尚子先生を招き、出席者は、総勢39名となりました。

コーチングの基本のスキル、ティーチングとの違い、セルフコーチングについての講義を受け、グループで傾聴、質問、承認の仕方についてのディスカッションをし、学びを深めていきました。

今回の研修に参加し、さまざまな地域、年齢の違いから初めは緊張していましたがグループワークを通し、共感する部分も多く、よい刺激を受けることができました。

セルフコーチングをすることで自己基盤の強化をし、コーチング、ティーチングを使い分け、今後の指導に役立てていきたいと思いました。

論文発表

執筆者・共同執筆者	タイトル	掲載誌	巻・号・項	発行年月
OdaTakashi Watanabe K	Bare medial epicondyle physeal fracture of the humerus:A case report	J Clin Orthop Trauma	s45-47	H29.8
織田 崇・高嶋 和磨 和田 卓郎	手根管症候群に対するWide-awake hand surgeryの有 用性の検討-患者主観による評価	日手会誌	33 878-880	H29.8
織田 崇・和田 卓郎	尺側手根伸筋腱炎	関節外科	36 26-30	H29
織田 崇・和田 卓郎	橈骨遠位端骨折変形治癒に対する橈骨骨切り術	整形外科	68 707-712	H29
髭内 紀幸	集学的入院治療において International Association of Integrated Rehabilitation Low Back Pain Technology (ILPT) が有効であった3000日を超える慢性腰痛症例に 対する介入経験	日本運動器疼痛 学会誌	9(2) 237-245	H29.10
三崎 一彦	作業療法教育における診療参加型臨床実習	北海道作業療法	34 (4) 163-171	H29.12

著 書

著者	タイトル	著書名	編者	ページ	発行年	出版社
和田 卓郎	肘・手のスポーツ障害	スポーツ障害のリハビリテーション	山下 敏彦 武藤 芳照	416-442	H29	金原出版

学会・研究発表

演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月日	場所(市町村)
男子思春期教育における問題点・現場の養護教諭が望むものとは	堀田 浩貴	安達 秀樹	第105回日本泌尿器科学会	H29年4.23	鹿児島県鹿児島市
上腕骨内側上顆炎に対する鏡視下手術	織田 崇	和田 卓郎	第60回日本手外科学会	H29年4.27	愛知県名古屋
橈骨遠位端骨折を受傷した閉経女性 性は移動能力が低下している	織田 崇	和田 卓郎 岩田 好子 石垣 大介 浜崎 允	第60回日本手外科学会	H29年4.27	愛知県名古屋
退院後のカラオケ活動を目指した 自由度失語症の一事例	石川竜乃介	白井美奈子 三崎 一彦	日本臨床作業療法学会第4回学術大会	H29年5.13	宮城県仙台市
自宅での役割。余暇活動の抽出に 難渋をした事例	高波 実佳	白井美奈子 三崎 一彦 藤本 一博	日本臨床作業療法学会第4回学術大会	H29年5.13	宮城県仙台市
「手のマッサージをして」から「息 子と温泉旅行に行きたい」にニーズ が変化した緩和ケアの一事例	齋藤 駿太	三崎 一彦	日本臨床作業療法学会第4回学術大会	H29年5.13	宮城県仙台市
母指CM関節症に対するMini-Tight Popeを用いた関節形成術一症例	山中 佑香	小島 希望 白戸 力弥 和田 卓郎	第48回北海道作業療法学会	H29年6.10	北海道札幌市
一般病院に勤務する終末期ケアに 前向きな看護師が感じる困難感	藤原 大地	石渡 明子 鈴木 景就 明石 浩史	第22回日本緩和医療学会	H29年6.23	神奈川県横浜市
オクトレオチド、ステロイド、オ ランザヒンの制吐剤使用頻度、悪 心嘔吐症状出現頻度比較による有 効性の検討	明石 浩史	石渡 明子 鈴木 景就 井上智香子 藤原 大地 柴田麻里子 本郷 詩織 長谷川 格	第22回日本緩和医療学会	H29年6.24	神奈川県横浜市
高セキュリティ・クラウド型シス テムを介した情報共有～小樽市に おける病診連携～	石渡 明子	明石 浩史 川嶋 茂 大森 仁 高村 一郎	第22回日本緩和医療学会	H29年6.24	神奈川県横浜市
閉経後骨粗鬆症に対する骨髄間葉 系幹細胞法の有効性と機序解析	齋藤 憲	永石 歆 射場 浩介 山下 敏彦 藤宮 峯子	第133回北海道整形災害外科学会	H29年7.8	北海道札幌市
Dupuytren拘縮に対するコラゲ ナーゼ酵素注射の使用経験	齋藤 憲	和田 卓郎 織田 崇 鍋城 尚伍 高橋 惇司 口岩 毅人 近藤 真章	第133回北海道整形災害外科学会	H29年7.9	北海道札幌市
閉経後骨粗鬆症モデルラットに対 する賦活化骨髄間葉系幹細胞療法 の有効性	齋藤 憲	永石 歆 射場 浩介 山下 敏彦 藤宮 峯子	第35回日本骨代謝学会	H29年7.28	福岡県福岡市
腹腔鏡下胆嚢摘出術時の落下結石 による腹腔内膿瘍に対して腹腔鏡 下に加療した1例	孫 誠一	長谷川 格 田山 誠 竹政伊知朗	第23回北海道内視鏡外科研究会	H29年8.5	北海道札幌市
認知症の病型による摂食嚥下障害 の特徴～当院の嚥下造影検査から (第2報)	須藤 榮	竹内 渚 加賀 潤輝 石川 瑛梨 吉田 ゆり	第2回済生会リハビリテーション研究会	H29年8.19	愛知県名古屋
当院の集学的入院治療の効果とリ ハビリテーションの役割	髭内 紀幸	花田 健 四十坊麻由 二口 央菜 早川 晃子 三名木泰彦	第2回済生会リハビリテーション研究会	H29年8.19	愛知県名古屋
作業療法士による回復期リハビリ テーション病棟マネジャーの成果	三崎 一彦	白井美奈子 伝法 俊和 小松多津子 野村 信平	第2回済生会リハビリテーション研究会	H29年8.19	愛知県名古屋
The patient's perspective on carpal tunnel surgery related to the type of anesthesia:a retrospective comparative study in Japan	和田 卓郎	—	欧州手外科学会 (FESSH2017)	H29年8.22	ブダベスト
「目が見えない」を主訴に構成障 害を来した1例	平野理都子	野中 隆行 津田 玲子 林 貴士 松谷 学 石合 純夫 下濱 俊	第101回日本神経学会北海道地方会	H29年9.2	北海道札幌市
当院泌尿器科癌患者の終末医療の 検討	安達 秀樹	堀田 浩貴	第84回小樽市医師会会員研究発表会	H29年9.8	小樽市
北海道紋別地区におけるチーム別 の野球肘有病率～市民公開講座の 有用性の検討～	口岩 毅人	寺本 篤史 道家 孝幸 清水 淳也 山下 敏彦	第43回日本整形外科学会	H29年9.8	宮城県宮崎市
多職種介入による橈骨遠位端骨折 受傷後の骨粗鬆症治療への影響	織田 崇	上島 聡志 藤本秀太郎 目良 紳介 三名木泰彦 近藤 真章 和田 卓郎	第66回東日本整形災害外科学会	H29年9.16	東京都新宿区

橈骨遠位端骨折を受傷した閉経後女性は移動能力が低下している	織田 崇	石垣 大介 石井 政次 岩田 好子 濱崎 允	和 田 聡 内 藤 近	卓 郎 紀 幸 真 章	第66回東日本整形 災害外科学会	H29年9.16	東京都新宿区
当科癌患者の終末期医療	安達 秀樹	堀田 浩貴			第82回日本泌尿器 科学会東部総会	H29年9.16	東京都港区
インスリンアスパルト二相性製剤からインスリンデプレダク・インスリンアスパルト配合注へ同量切り替え時の有効性と安全性評価	青木有希子	村川麻里子 上野 誠子 小野 徹	木 谷 梨 鈴 木 景 水 越 常 徳		第6回日本くすりと 糖尿病学会	H29年9.18	東京都千代田区
がん患者リハビリテーションに対する「ケア・ノート」の有効性の検討	齋藤 駿太	山 中 佑 香	三 崎 一 彦		第51回日本作業療 法学会	H29年9.22	東京都千代田区
当院回復期リハビリテーション病棟カンファレンスの質向上に影響する因果関係の検討	白井美奈子	三 崎 一 彦			第51回日本作業療 法学会	H29年9.22	東京都千代田区
母指CM関節症に対するMini-tight ropeを用いた関節形成術後に軟性装具を使用した一症例	山 中 佑 香	小 島 希 望 和 田 卓 郎	白 戸 力 弥		第51回日本作業療 法学会	H29年9.23	東京都千代田区
当院における作業療法終了後の橈骨遠位端骨折術後の機能的経過	小 島 希 望	山 中 佑 香 織 田 崇	白 戸 力 弥 和 田 卓 郎		第51回日本作業療 法学会	H29年9.23	東京都千代田区
回復期リハビリテーション病棟に入棟した患者に対して生活行為向上マネジメントを使用し新たな目標を見出すことができた一症例	林 知代	山 中 佑 香			第51回日本作業療 法学会	H29年9.23	東京都千代田区
当院における遺伝子組換えトロンボモデュレンの投与患者に対する効果についての検討	一野 勇太	鈴木 景就 上野 誠子 青木有希子 木谷 梨絵 中村 圭介 又村 健太	小野 徹 笠井 正生 芦名 望 寺嶋 里子 村川麻里子 松倉 瑞希		第11回日本腎臓病 薬物療法学会	H29年10.1	福島県福島市
「病院で働く看護職の賃金のあり方」を現場で活用する～個々の看護職の能力・役割・専門性を評価する～	櫛引 久丸	なし			第48回日本看護学 会看護管理学会	H29年10.12	北海道札幌市
ランチョンセミナー 小樽市における多職種ネットワーク構築システム「ひかりワンチームSP」を活用して	石渡 明子	—			第48回日本看護学 会看護管理学会	H29年10.12	札幌市
当院における読影補助の現状	松尾 覚志	釜石 明 久保田 裕美 但木 勇太 小林 洗貴	舟見 基 高橋 志 内藤 織 松尾 格	基 志 織 格	北海道放射線技師会 研修会秋季開会員研 究発表会	H29年10.15	虻田郡ニセコ町
当院の『ちょこっと健診』にDual-energy X-ray Absorptiometry (DXA) による骨密度検査を導入して	釜石 明	舟見 基 高橋 志 内藤 織 松尾 格	久保田 裕美 但木 勇太 小林 洗貴		北海道放射線技師会 研修会秋季開会員研 究発表会	H29年10.15	虻田郡ニセコ町
橈骨遠位端骨折を受傷した閉経後女性の移動能力の検討	織田 崇	石垣 大介 岩田 好子 濱崎 允	髭 内 聡 和 田 近	紀 幸 卓 郎 真 章	第19回日本骨粗鬆 学会	H29年10.21	大阪府大阪市
多職種介入による橈骨遠位端骨折受傷後粗鬆診療への影響	織田 崇	上 畠 聡 目 良 紳 近 藤 真 章	藤 本 秀 太 三 名 木 泰 彦 和 田 卓 郎		第19回日本骨粗鬆 学会	H29年10.21	大阪府大阪市
閉経後骨粗鬆モデルラットにたいする賦活化骨髄間葉系幹細胞療法の有効性と機序解析	齋藤 憲	永 石 歆 山 下 敏 彦	射 場 浩 藤 宮 峯 子		第32回日本整形外 科学会	H29年10.26	沖縄県宜野湾市
下部尿路異物が自然排出した一例	堀田 浩貴	安達 秀樹			第402回日本泌尿器 科学会北海道地方会	H29年10.28	札幌市
セピオイド鎮痛薬の併用による有効性の検討	鈴木 景就	石渡 明子 明石 浩史	村川麻里子		第27回日本医療薬 学会年会	H29年11.4	千葉県千葉市
尿管ステント交換により高度な血尿を来した一症例	安達 秀樹	堀田 浩貴			第31回日本泌尿器 内視鏡学会	H29年11.17	徳島県徳島市
浮腫と下肢痛で初診した肺癌に伴う肺性肥大性骨関節症の1例	平野理都子	野中 隆行 松谷 学 下 濱 俊	林 津 田 貴 士 玲 子		第281回日本内科学 会北海道地方会	H29年11.18	北海道旭川市

当院における慢性腰痛患者治療の長期成績	四十坊麻由	髭内 紀幸 二口 央菜 三名木泰彦	花田 健 早川 晃子	第101回日本運動器疼痛学会	H29年11.18	福島県福島市
Lisat-11を用いた慢性腰痛患者へのアプローチ	早川 晃子	髭内 紀幸 四十坊麻由 吉田真知子 三名木泰彦	花田 健 二口 央菜 丸岡 貴子	第101回日本運動器疼痛学会	H29年11.18	福島県福島市
慢性腰痛患者の5つの「基本的欲求」の強さ・充足度の傾向	髭内 紀幸	赤羽 秀徳 花田 健 二口 央菜 三名木泰彦	髭内 朝美 四十坊麻由 早川 晃子	第101回日本運動器疼痛学会	H29年11.19	福島県福島市
外来リハビリテーション患者の主観的特徴	花田 健	髭内 紀幸 二口 央菜 三名木泰彦	四十坊麻由 早川 晃子	第101回日本運動器疼痛学会	H29年11.19	福島県福島市
当院脊椎・腰痛センターにおける入院患者、外来患者に対する治療効果	二口 央菜	髭内 紀幸 四十坊麻由 三名木泰彦	花田 健 早川 晃子	第101回日本運動器疼痛学会	H29年11.19	福島県福島市
せん妄場面への当院急性期病棟対応能をパフォーマンス評価する	松谷 学	津田 玲子 林 貴士 伊藤 理恵	平野理都子 千坂あかね 大橋とも子	第36回日本認知症学会	H29年11.24	石川県金沢市
亜急性に進行した長大病変を呈する脊髄炎の1例	野中 隆行	—	—	札幌医大神経内科症例検討会	H29年12.16	札幌市
乱れた心と体を正常化させたい～私たちのQOLの向上を目指して第1章～	横山 千穂	藤原 大地 山口 千恵 武田 真季	柴田 祐希 千坂あかね	第5994回QCサークル札幌大会	H30年1.26	北海道札幌市
築こう！育てよう！広めよう！～STEP:1 2017～	葛西 淳子	金田智香子 平尾 愛 焼田久美子	柴田 幸子 浦見 悦子	第5994回QCサークル札幌大会	H30年1.26	北海道札幌市
自分達（ME）の職場環境を整備しよう	横道 宏幸	吉田 昌也 中野裕城子	中村 友洋 今野亜衣梨	第5994回QCサークル札幌大会	H30年1.26	北海道札幌市
内分泌療法施行前立腺癌患者における治療中断例の集計	安達 秀樹	堀田 浩貴	—	第403回日本泌尿器科学会北海道地方会	H30年1.27	北海道札幌市
橈骨遠位端骨折を受傷した閉経後女性の体組成	織田 崇	齋藤 憲 髭内 紀幸 高橋 惇司 近藤 真章	花田 健 口岩 毅人 鍋城 尚伍 和田 卓郎	第134回北海道整形災害外科学会	H30年2.3	北海道札幌市
母指CM関節症に対する関節形成術と関節固定術後成績の比較	齋藤 憲	高橋 惇司 口岩 毅人 卓郎	織田 崇 鍋城 尚伍 近藤 真章	第134回北海道整形災害外科学会	H30年2.3	北海道札幌市
肩甲骨関節窩骨折の6例の治療成績	口岩 毅人	織田 崇 鍋城 尚伍 和田 卓郎	高橋 惇司 齋藤 憲 近藤 真章	第134回北海道整形災害外科学会	H30年2.3	北海道札幌市
母指CM関節症の短期治療成績－関節固定と関節形成術との比較	高橋 惇司	織田 崇 鍋城 尚伍 和田 卓郎	口岩 毅人 齋藤 憲 近藤 真章	第134回北海道整形災害外科学会	H30年2.3	北海道札幌市
橈骨遠位端骨折背屈変形治癒後に発症した小指深指屈筋腱断裂の1例	織田 崇	齋藤 憲	和田 卓郎	第32回東日本手外科研究会	H30年2.3	東京都文京区
橈骨遠位端骨折を受傷した閉経後女性の体組成	髭内 紀幸	織田 崇 花田 健 高橋 惇司 近藤 真章	齋藤 憲 口岩 毅人 鍋城 尚伍 和田 卓郎	第134回北海道整形災害外科学会	H30年2.3	北海道札幌市
橈骨遠位端骨折受傷直後と6カ月後の身体機能と身体組成の変化	花田 健	織田 崇 髭内 紀幸 和田 卓郎	髭内 紀幸 神田 充博	第134回北海道整形災害外科学会	H30年2.3	北海道札幌市
橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後の長期成績	山中 佑香	織田 崇 白戸 力弥 鍋城 尚伍 口岩 毅人 和田 卓郎	小島 希望 齋藤 憲 高橋 惇司 近藤 真章	第134回北海道整形災害外科学会	H30年2.3	北海道札幌市
当院における橈骨遠位端骨折術後の長期成績－3カ月の作業療法終了時との比較検討－	小島 希望	山中 佑香 織田 崇 鍋城 尚伍 口岩 毅人 和田 卓郎	白戸 力弥 齋藤 憲 高橋 惇司 近藤 真章	第134回北海道整形災害外科学会	H30年2.3	北海道札幌市

住み慣れた地域で暮らしたい認知症患者に対する退院支援の考察	高波 実佳	白井美奈子 小林かをり 小田 桃世	三浦富美彦 小松多津子	回復期リハビリテーション病棟協会第31回研究大会	H30年2.3	岩手県盛岡市
当院における転倒転落対策の今後の課題	小屋あす香	高波 実佳 黒田 博利	三浦富美彦 白井美奈子	回復期リハビリテーション病棟協会第31回研究大会	H30年2.4	岩手県盛岡市
高齢者の肘関節外側脱臼骨折の2例	織田 崇	齋藤 憲	和田 卓郎	第30回日本肘関節学会	H30年2.16	東京都港区
難治性上腕骨外側上顆炎に対する関節鏡下再手術の検討	齋藤 憲	織田 崇 高橋 惇司 和田 卓郎 小笹 泰宏	口岩 毅人 鍋城 尚伍 近藤 真章	第30回日本肘関節学会	H30年2.16	東京都港区
骨粗鬆症による脆弱性骨折を予防する多職種連携システム構築に関する研究	織田 崇	和田 卓郎 多田 梨保 野村 信平 石垣 大介 郷野 弘文 岩田 好子 森 幹子	伊藤 瑞代 上野 誠子 松尾 覚志 和田 幸治 今井 宏子 笹原 寛 寒河江 淳	第70回済生会学会	H30年2.18	福岡県福岡市
安全ながん化学療法を行うために薬剤師から看護師にむけて院内の取り組み	芦名 正生	上野 誠子 小野 徹 村川麻里子 青木有希子 木谷 梨絵 又村 健太	鈴木 景就 笠井 一憲 一野 勇太 中村 圭介 寺嶋 望 松倉 瑞希	第70回済生会学会	H30年2.18	福岡県福岡市
1型糖尿病と診断された血液透析患者の血糖コントロールに難渋した1例	青木有希子	上野 誠子 小野 徹 村川麻里子 芦名 正生 一野 勇太 松倉 瑞希	鈴木 景就 笠井 圭介 中村 望 寺嶋 健太 又村 健太	第70回済生会学会	H30年2.18	福岡県福岡市
糖尿病教育入院を実施した患者の外來フォローの必要性和今後の課題	権城 泉	水越 常德 松浦亜貴子 柴田麻里子 早川恵美子 三浦富美彦	東 紗貴 青木有希子 木谷 梨絵 城田 祐輔	第70回済生会学会	H30年2.18	福岡県福岡市
当院における医師事務作業補助者の役割と今後の展望について	金田智香子	浦見 悦子 葛西 淳子 焼田久美子	柴田 幸子 平尾 愛	第70回済生会学会	H30年2.18	福岡県福岡市
当院のちょこっと健診におけるDual-energy X-ray Absorptiometry (DXA) による骨密度検査の導入について	釜石 明	松尾 覚志 久保田裕美 但木 勇太 小林 洗貴 佐々木美里	舟見 基 高橋 志織 内藤 格 焼田久美子 織田 崇	第70回済生会学会	H30年2.18	福岡県福岡市
てんとう虫テストによる歩行能力評価～済生会フェスタでの地域との関わりを通して～	神田 充博	髭内 紀幸 花田 健	髭内 朝美	第70回済生会学会	H30年2.18	福岡県福岡市
右中大脳動脈領域の脳梗塞により左片麻痺・運動性失語を認めた症例	神田 ゆり	須藤 榮 岡本あすな	加賀 潤輝	第70回済生会学会	H30年2.18	福岡県福岡市
当院の地域包括ケア病棟における家屋調査対象者の特徴	廣田 正和	米田健太郎 平塚 渉	松村 真満	第70回済生会学会	H30年2.18	福岡県福岡市
てんかんについて (5)	松谷 学	平野理都子 林 貴士	野中 隆行	第102回日本神経学会北海島地方会	H30年3.3	札幌市
亜急性に進行した長大な脊髄病変の1例	野中 隆行	平野理都子 松谷 学 下濱 俊	林 貴士 川又 純	第102回日本神経学会北海島地方会	H30年3.3	札幌市
Therapeutic Effect of Activated Bone Marrow Derived -Mesenchymal Stem Cells on Postmenopausal Osteoporosis in Rats	齋藤 憲	札幌医科大学 解剖学第2講座 整形外科学講座		米国整形外科基礎学会 (ORS2018)	H30年3.12	米国レイジアナ州 ニューオリンズ市
手後愁訴ゼロを目指す当院の腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術 (TAPP)	孫 誠一	木村 雅美	田山 誠	第85回小樽医師会 会員研究発表会	H30年3.16	小樽市
卵巣摘出閉経後骨粗鬆症モデルラットに対する賦活化骨髄間葉系幹細胞療法	齋藤 憲	齋藤 憲 札幌医科大学整形外科学講座		第17回日本再生医療学会	H30年3.21	神奈川県横浜市

教育研究報告

その他 剖検

2018年1月17日	於 済生会小樽病院	札幌医大病理学教室執刀
2018年2月20日	於 済生会小樽病院	札幌医大病理学教室執刀

新聞掲載

演者	題名	掲載欄	新聞社	年月日
織田 崇	手首に小さな塊 触ると痛み、しびれ	教えてドクター	北海道新聞	H29.7.12
織田 崇	手根管症候群	健康	聖教新聞	H29.7.22

講 義

	講師	講義テーマ	講義名	講義先	年月日	場所
診療部	水越 常德	内分泌	看護学授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	H29.4～	小樽市
	明石 浩史	バイオインフォマティクス	応用医療情報科学	札幌医科大学 医学部医学科4年	H29.4.11	札幌市
	明石 浩史	情報倫理とリスク	応用医療情報科学	札幌医科大学 医学部医学科4年	H29.4.25	札幌市
	明石 浩史	医療情報の標準化	応用医療情報科学	札幌医科大学 医学部医学科4年	H29.5.10	札幌市
	松谷 学	全身疾患に伴う神経病態	札幌医科大学医学部学生 神経内科学分野	札幌医科大学	H29.7.13	札幌市
	松谷 学	和漢薬をどう現代の医療に役立てるかー神経疾患領域の補完代替療法	札幌医科大学医学部4年目 統合医療	札幌医科大学	H29.9.28	札幌市
	松谷 学	医療倫理について	H29年度済生会小樽病院 新人教育研修プログラム	済生会小樽病院	H29.4.	小樽市
	松谷 学	急変時・緊急時の対応 ～BLSは習った、で いつ使う？	済生会小樽病院 看護部教育研修会	済生会小樽病院 看護部教育研修会	H29	小樽市
	松谷 学	急変時・緊急時の対応 ～BLSは習った、で 次につなげる には？	済生会小樽病院 看護部教育研修会	済生会小樽病院 看護部教育研修会	H29.10.18	小樽市
	松谷 学	神経疾患の病態と看護	看護学授業	小樽看護専門学校	H29.10.18 H29.10.25	小樽市
	安達 秀樹	人体のしくみとはたらき～腎尿路系、男性生殖器系～	看護学授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	H29.5.1～ 5.15 (3回)	小樽市
	安達 秀樹	疾病論～腎泌尿器～	看護学授業	小樽市看護専門学校	H296.2～ 6.13 (3回)	小樽市
	安達 秀樹	ザルティア処方例の報告	社外講師招聘勉強会	日本新薬株式会社	H29.2.24	札幌市
	安達 秀樹	透析医療の実績とCKD-MBDに対する治療方針	社内研修会	小野薬品工業株式会社	H29.8.24	札幌市
	安達 秀樹	当科でのピートル使用状況について	アドバイザーミーティング	キッセイ薬品工業株式会社	H29.11.29	札幌市
	安達 秀樹	当院の血液透析導入患者の動向	第186回済生会病院集団会	済生会小樽病院	H30.2.19	小樽市
看護部	石渡 明子	臨死期の看護	基礎看護技術	小樽看護専門学校	H30.2.20	小樽市
	石渡 明子	緩和ケア	特別講義	小樽市医師会看護 高等専修学校	H30.2.23	小樽市
臨床検査室	辻田 早苗	臨床検査室のお仕事と採血管の話	看護新人研修	済生会小樽病院看護部	H29.4.9	小樽市
	末藤智枝子	輸血の基礎	看護新人研修	済生会小樽病院看護部	H29.7.11	小樽市
栄養管理室	権城 泉	栄養学	栄養学	小樽看護専門学校	H29.4.5～ H29.5.17	小樽市
	前田 紗貴	当院の栄養管理について	看護部新人研修	済生会小樽病院看護部	H29.4.7	小樽市
	多田 梨保	病院における管理栄養士の役割	小樽市医師会看護高等専修 学校実習	小樽市医師会看護 高等専修学校	H29.5.17	小樽市
	多田 梨保	医療の世界行ってみたらホントはこんな仕事だった！～管理栄養士の仕事について～	小樽潮陵高校インターン シップ	小樽潮陵高校	H29.7.31	小樽市
	多田 梨保	病院における管理栄養士の役割	基礎看護学実習Ⅰ	北海道科学大学	H30.2.5	小樽市
	多田 梨保	病院における管理栄養士の役割	基礎看護学実習Ⅰ	北海道科学大学	H30.2.19	小樽市

講演

	演者	演題	講演会名	主催者	年月日	場所
診療部	明石 浩史	病院と在宅診療医の連携を強化してどなたにも充実した生活を！	第5回終末期医療を考える会	第5回終末期医療を考える会	H29.11.25	小樽市
	明石 浩史	がん性疼痛の評価と治療	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	手稲溪仁会病院	H29.12.2	札幌市
	明石 浩史	消化器症状	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	北海道がんセンター	H30.2.17	札幌市
	明石 浩史	がん性疼痛の評価と治療	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	小樽市立病院	H30.3.3	小樽市
	松谷 学	「せん妄について」「認知症の病態と診断」「BPSDについて」	第5回・6回済生会認知症支援ナース育成研修会	済生会本部	H29.9.28 H29.10.12	東京都
	松谷 学	ようかい・神経内科学～認知症と脳の周辺 みえないモノが見えるとき	小樽看護学校開校記念講演	小樽看護学校	H29.9.30	小樽市
	林 貴士	パーキンソン病	小樽市医師会内科部会例会	小樽市医師会	H29.8.17	小樽市
	林 貴士	今でしょ！ 最も聞きたい認知症のはなし	H29年度おたるオレンジカフェ築港店	小樽市南部包括地域センター	H29.10.19	小樽市
	林 貴士	「基礎編」認知症の基礎知識	済生会小樽病院認知症研修会	済生会小樽病院	H29.5.22	小樽市
	野中 隆行	九州医療センターでの脳卒中研修	札幌医科大学神経内科同門会	札幌医科大学 神経内科同門会	H29.12.16	札幌市
	野中 隆行	脳梗塞の病型と治療について	済生会小樽病院 集団会	済生会小樽病院 集談会	H29.12.18	小樽市
	織田 崇	骨粗鬆症への早期介入の取り組み-DXAと橈骨骨折からの介入	第20回骨粗鬆症フロンティア	骨粗鬆症フロンティア研究会	H29.6.7	札幌市
	織田 崇	骨粗鬆症	小樽市医師会市民健康講座	小樽医師会	H29.6.22	小樽市
放射線室	松尾 覚志	成人看護	放射線診療と看護	小樽医師会 看護高等専修学校	2016.9.27	小樽市
	松尾 覚志	成人看護	放射線診療と看護	小樽医師会 看護高等専修学校	2016.10.11	小樽市
看護部	石渡 明子	「がん」になっても～自分らしく、あなたらしく～	健康セミナー	済生会小樽病院	H29.7.19	小樽市
	石渡 明子	症例報告～意思決定支援を振り返る～	小樽後志緩和医療研究会	小樽後志緩和医療研究会	H29.8.3	小樽市
	石渡 明子	ELNEC-Jコアカリキュラム	済生会小樽病院ELNEC-Jコアカリキュラム	済生会小樽病院	H29.8.5～ 8.6	小樽市
	石渡 明子	自己検診のすゝめ～わたし乳がんかも？～	健康セミナー	済生会小樽病院	H29.9.20	小樽市
	石渡 明子	緩和ケア	緩和ケア研修会	北海道看護協会	H29.10.5	小樽市
	石渡 明子	ELNEC-Jコアカリキュラム	市立札幌病院ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	市立札幌病院	H29.12.16 ～12.17	札幌市
	石渡 明子	終末期看護	終末期看護研修会	千歳第一病院	H30.1.19 H30.1.26	千歳市
	石渡 明子	ELNEC-Jコアカリキュラム	ELNEC-J手稲溪仁会病院	手稲溪仁会病院	H30.2.17～ 2.18	札幌市
薬剤室	鈴木 景就	済生会小樽病院におけるがん薬薬連携の取り組み	室蘭病院薬剤師会講演会	室蘭病院薬剤師会	H29.10.5	室蘭市
	鈴木 景就	薬との上手なつきあい方	市民健康教室	小樽市医師会	H29.10.12	小樽市
	鈴木 景就	抗がん剤の服薬指導 済生会小樽病院の事例	薬薬連携勉強会	沢井製薬	H29.8.22	小樽市
	鈴木 景就	済生会小樽病院の経口抗がん剤レジメン紹介	薬薬連携勉強会	沢井製薬	H30.1.22	小樽市

薬剤室	鈴木 景就	オピオイド鎮痛薬の併用による有効性の検討	第27回日本医療薬学会年会	日本医療薬学会	H29.11.4	千葉県
	鈴木 景就	がん患者の在宅療養環境の整備に向けた保険薬局との連携	第64回北海道薬学大会	北海道薬剤師会、北海道病院薬剤師会	H29.5.21	札幌市
	笠井 一憲	NSTにおける薬剤師の役割	第114回小樽Metabolic Club	済生会小樽病院NST委員会	H29.7.11	小樽市
	中村 圭介	当院における「不穏・せん妄症状に対する薬物療法」	後志病院薬剤師会 会員研究発表会	後志病院薬剤師会	H30.2.23	小樽市
栄養管理室	多田 梨保	栄養障害を防いでリハ効果UP～管理栄養士の立場から～	研修会	生活期リハビリテーション連携の会	H29.4.21	小樽市
	多田 梨保	健康な体づくりのための栄養とは？～管理栄養士が教える栄養の摂り方～	健康情報プチセミナー「温泉健康倶楽部」	(株) アンビックス・小樽朝里クラッセホテル	H29.7.25	小樽市
	多田 梨保	気をつけて！栄養って大事！～多職種で栄養管理することの必要性とは～	後志つながる教室	おたる地域包括ビジョン協議会（小樽市医師会）	H29.9.2	小樽市
	多田 梨保	いつまでも美味しく食事をたべられるために	平成29年度後志老人福祉施設協議会給食担当職員研修会	後志老人福祉施設協議会	H30.2.22	余市町
	権城 泉	栄養管理室って??	部署紹介	医療技術部 教育委員会	H29.6.22	小樽市
	権城 泉	勘違いしていませんか？理由を知ると理解も深まる！！コンビニ食・外食	糖尿病セミナー	内分泌・糖尿病診療センター	H29.10.31	小樽市
	権城 泉	見て、知って、考える！糖質制限と生活習慣病	小樽市役所保健普及講座	小樽市役所	H30.1.12	小樽市
	松村亜貴子	臨床栄養実践協会第7回東京セミナーに参加して	医療技術部伝達講習	医療技術部 教育委員会	H29.12.7	小樽市
	松村亜貴子	当院の食事内容・回復期病棟の栄養管理	回復期リハビリテーション病棟勉強会	回復期リハビリテーション病棟	H30.1.26	小樽市
	前田 紗貴	平成28年度栄養剤チーム年次報告	小樽メタボリッククラブ	NST委員会	H29.4.11	小樽市
	前田 紗貴	CGM（持続グルコース測定）を活用した栄養指導	第2回後志臨床糖尿病フォーラム	大山富山医薬品株式会社	H29.9.12	小樽市
	リハビリテーション室	三崎 一彦	採択される事例報告のまとめ方	湘南OT交流会	湘南OT交流会	H29.11.11
三崎 一彦		診療参加型臨床実習	小樽臨床作業療法研究会ワークショップ	小樽臨床作業療法研究会	H29.10.21	北見市
三崎 一彦		ご存知ですか？リハビリテーションの本当の意味	済生会小樽病院リハビリテーション室市民公開講座	済生会小樽病院リハビリテーション室	H29.8.7	小樽市
三崎 一彦		脳卒中のリハビリテーション	済生会小樽病院リハビリテーション室市民公開講座	済生会小樽病院リハビリテーション室	H29.10.2	小樽市
平塚 渉		医療保険と介護保険のリハビリの違い	済生会小樽病院リハビリテーション室市民公開講座	済生会小樽病院リハビリテーション室	H29.9.4	小樽市
白井美奈子		認知症のリハビリテーション	済生会小樽病院リハビリテーション室市民公開講座	済生会小樽病院リハビリテーション室	H29.11.6	小樽市
髭内 紀幸		転ばないためのリハビリテーション	済生会小樽病院リハビリテーション室市民公開講座	済生会小樽病院リハビリテーション室	H29.12.4	小樽市
髭内 紀幸		腰痛をあきらめない！～臨床13年目、理学療法士の視点～	根室学術講演会	市立根室病院・根室市外三郡医師会・ファイザー株式会社・エーザイ株式会社	H29.8.2	根室市
山中 佑香		手・肘・肩の病気を学ぼう！	済生会小樽病院 第18回健康セミナー	済生会小樽病院	H29.11.4	小樽市

座 長

	座長	学会・講演名	座長を行った演題	主催者	年月日	場所
診療部	松谷 学	第9回臨床医のためのてんかんセミナー	特別講演「非痙攣性てんかん重積（NCSE）の話題と実臨床」 症例提示「CJDにおけるNCSE」	臨床医のためのてんかんセミナー	H29	札幌市
	孫 誠一	第7回小樽内視鏡外科フォーラム	一般演題	小樽内視鏡外科フォーラム	H30.1.19	小樽市
	堀田 浩貴	第21回小樽市院内感染研究会	感染症トピックス～マイコプラズマ感染症を中心に～	小樽市院内感染研究会	H29.6.15	小樽市
	堀田 浩貴	第13回小樽市院内感染研究会学術講演会	がん患者さんの感染症症例から学ぶ多職種で取り組む抗菌薬適正使用	小樽市院内感染研究会	H29..11.9	小樽市
	安達 秀樹	第4回小樽後志静脈経腸栄養講演会	特別講演 今こそ現場に求められるチーム医療の看護師の役割・意識改革～NST活動	小樽後志静脈経腸栄養研究会	H29.11.11	小樽市
放射線室	舟見 基	第33回日本診療放射線技師学術大会	医療画像②	日本診療放射線技師会	2017.9.22	函館市
薬剤室	鈴木 景就	「抗がん剤の副作用マネジメント」セミナー	末梢神経障害・皮膚障害について	北海道の緩和薬物療法ネットワーク	H29.12.13	札幌市
	笠井 一憲	第4回小樽後志静脈経腸栄養講演会	当院における栄養スクリーニングの現状と今後の課題	済生会小樽病院 NST委員会 株式会社大塚製薬工場	H29.11.11	小樽市
臨床検査室	木谷 洋介	第91回北海道医学検査学会	臨床化学部門	北海道臨床検査技師会	H29.10.1	小樽市
リハビリテーション室	三崎 一彦	第4回日本臨床作業療法学会学術大会	一般演題（口述）	日本臨床作業療法学会	H29.5.13	仙台市
	三崎 一彦	第2回済生会リハビリテーション研究会	一般演題	済生会リハビリテーション研究会	H29.8.19	名古屋市

認定資格

	名前	認定学会名	認定資格
診療部	近藤 真章	日本整形外科学会	専門医・認定脊椎脊髄病医・認定スポーツ医・リウマチ医
		日本体育協会	公認スポーツドクター
		日本医師会	認定産業医
	和田 卓郎	日本整形外科学会	専門医
		日本手外科学会	専門医
		日本体育協会	公認スポーツドクター
	水越 常德	日本内科学会	認定医・指導医
		日本内分泌学会	指導医・専門医
		日本甲状腺学会	専門医
		日本消化器病学会	専門医
		日本環境感染学会	ICD
		日本人間ドック学会	認定医
		日本内科学会	総合内科専門医
	明石 浩史	日本内科学会	認定医
		日本消化器病学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
	松谷 学	日本神経学会	専門医、指導医
		日本内科学会	認定内科医・教育関連施設指導医・総合内科専門医・JMECC指導アシスタント
			臨床研修医制度プログラム責任者 養成講習会終了
	林 貴士	日本神経学会	指導医・専門医
		日本内科学会	認定内科医・総合内科専門医・教育関連施設指導医
		日本認知症学会	認知症サポート医
		日本内科学会	JMECC修了
	津田 玲子	日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医・JMECC指導アシスタント・教育関連施設指導医
	平野理都子	日本内科学会	認定医
	野中 隆行	日本神経学会	専門医
	長谷川 格	日本外科学会	指導医・専門医・認定医
		日本消化器病学会	指導医・専門医
		日本消化器外科学会	認定医・消化器がん外科治療認定医
		日本内視鏡外科学会	技術認定医
		日本静脈経腸栄養学会	認定医
孫 誠一	日本外科学会	認定医・外科専門医・指導医	
	日本消化器病学会	消化器病専門医	
	日本消化器外科学会	消化器病外科専門医・消化器がん外科治療認定医	
	日本がん治療認定医機構	がん治療認定医・暫定教育医	
	日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ読影認定医	
	日本消化器外科学会	日本消化器外科学会指導医	
	日本消化器病学会	日本消化器病学会指導医	
織田 崇	日本整形外科学会	脊椎脊髄病医・整形外科専門医	
	日本手外科学会	手外科専門医	
	日本骨粗鬆学会	認定医	
堀田 浩貴	日本泌尿器科学会	専門医・指導医	
	日本性機能学会	専門医	

診療部	堀田 浩貴	ICD制度協議会	ICD
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本医師会	産業医
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定医
安達 秀樹	日本泌尿器科学会	専門医・指導医	
	日本性機能学会	専門医	
看護部	大橋とも子	日本消化器内視鏡技師会	内視鏡技師
		北海道病院協会・全日本病院協会	医療安全管理者
	金澤ひかり	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	伊藤 瑞代	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	兒玉真夕美	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	石渡 明子	日本緩和医療学会	ELNEC-Jコアカリキュラム指導者
		日本看護協会	緩和ケア認定看護師
		北海道看護協会	災害支援ナース
	瀬川 信子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	猪股 光	厚生労働省	特定科学物質作業主任者
	小田佐智子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	菊地麻衣子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	藤原 大地	日本緩和医療学会	ELNEC-Jコアカリキュラム指導者
		看護協会	災害支援ナース
薬剤室	上野 誠子	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		都道府県知事	介護支援専門員
	鈴木 景就	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
		日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
		日本緩和医療薬学会	麻薬教育認定薬剤師
	小野 徹	日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師
	笠井 一憲	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
		都道府県知事	介護支援専門員
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		日本食品安全協会	健康食品管理士
		日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師
	青木有希子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本くすりと糖尿病学会	糖尿病薬物療法認定薬剤師
中村 圭介	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師	
	日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト	
	日本老年薬学会	老年薬学認定薬剤師	
	日本病院薬剤師会	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師	
芦名 正生	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師	
木谷 梨絵	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	
寺嶋 望	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師	

臨床検査室	坂上 延雄	臨床化学会	認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技士
		日本臨床衛生検査技師会	総合監理検査技師制度認定管理検査技師・認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師
		日本病院会	診療情報管理士
	辻田 早苗	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
		日本超音波医学会	超音波検査士(循環器)
	逢坂裕美子	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
放射線室	松尾 覚志	医療情報学会	医療情報技師
		科学技術庁	第一種放射線取扱主任者
		日本X線専門技師認定機構	X線CT認定技師
	舟見 基	日本X線専門技師認定機構	X線CT認定技師
		日本放射線技師会	放射線管理士・放射線機器管理士
	久保田裕美	日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師
高橋 志織	日本X線専門技師認定機構	X線CT認定技師	
	日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師	
リハビリテーション室	髭内 紀幸	日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士
		3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
		日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
		国際統合リハビリテーション協会	ILPTプラクティショナー
	三崎 一彦	日本作業療法士協会	認定作業療法士
		テクノエイド協会	福祉用具プランナー
	須藤 榮	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
	白井美奈子	日本テクノエイド協会	福祉用具プランナー
髭内 朝美	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士	
栄養管理室	多田 梨保	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本病態栄養学会	病態栄養認定管理栄養士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
		日本栄養経営実践協会	日本栄養経営士
	東 紗貴	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
	権城 泉	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
		病態栄養認定管理栄養士	日本病態栄養学会
松村亜貴子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	
	日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士	
臨床工学室	笹山 貴司	北海道病院協会	医療安全管理者
		日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	横道 宏幸	胸部外科・呼吸器・麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士
	吉田 昌也	胸部外科・呼吸器・麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士

V 職員福利厚生会

■ 総 括

当会は済生会小樽病院全職員の福利厚生の増進と職員相互の親睦を図ることを目的に平成15年4月に設立されました。主に親睦会等の行事運営が中心となりますが、クラブ活動の運営補助や職員の医療費の補助(医療見舞金)も行っています。

平成29年6月4日開催の総会にて、規約の見直しが行われ、従来、会員は済生会小樽病院職員のみでしたが、支部北海道済生会事務局職員と地域ケアセンター職員も加入することとなりました。そのため、会員数も昨年度に比べ19名増え、471名となりました(4月1日時点)。

【平成29年度実施行事】

- 6月18日(日) 小樽運河ロードレース
(参加人数:57名)
- 7月4日(火) 新人歓迎会並びに春の宴
(参加人数:181名)
- 7月29日(土) 小樽潮まつり練りこみ
(参加人数:167名)
- 9月3日(土) 済生会東北・北海道ブロック対抗
ソフトボール大会(参加人数:13名)
- 12月14日(木) 忘年会(参加人数:312名)
- 1月13日(土) ボーリング大会(参加人数:35名)

【平成29年度クラブ活動】

- 野球部
- 写真部
- フットサル部



福利厚生会常務理事 五十嵐浩司

部活動

野球部

【メンバー】

看護師 1名
診療放射線技師 1名
臨床工学技士 1名
薬剤師 2名
理学療法士 8名
言語聴覚士 1名
合計 14名

【活動概要】

平成22年より職員福利厚生会クラブとして設立。毎年4月から9月までの大会期間及び練習にて活動。主な大会として春季読売旗争奪朝野球大会、夏季朝野球大会、秋季読売杯争奪朝野球大会に出場。

【平成29年度活動実績】

春季大会 予選敗退
夏季大会 初戦敗退
秋季大会 決勝トーナメント進出 第3位

【野球部よりひとこと】

平成27年度にAクラスへ昇格して以降、苦戦が続いていますが、今年度は秋季大会で3位の好成績を取ることができました！Aクラスは手強い相手ばかりですが、優勝目指して頑張ります！応援よろしくお願ひします！

リハビリテーション室 米田健太郎



ソフトボール部

【メンバー】

近藤名誉院長
和田病院長
櫛引事務長
看護師 2名
診療放射線技師 1名
薬剤師 1名
理学療法士 5名
言語聴覚士 1名
事務 2名
社会福祉士 1名
合計 16名 (男性13名 女性3名)

【活動概要】

東北・北海道ブロックの済生会支部・施設の親善を目的としたソフトボール大会が年に一度開催されており、平成29年度で第38回目の開催となりました。北海道・岩手・山形・福島順に主催されており、今年度は岩手北上済生会病院主催で開催されました。毎年Aブロック優勝チームが東北・北海道ブロック代表として全国済生会親善ソフトボール大会に参加しています。

【成績】

Aブロック 3位
●小樽1-7福島○
●小樽0-9山形○
○小樽5-1北上●

【ソフトボール部よりひとこと】

今年度はAブロック初勝利、Aブロック残留を決めることが出来ました。今年度から事務 小泉幸代さんがチームに加わり、投手陣が強化されたことが勝因と思われます。まだ全体での練習が不足しており、Aブロックでの優勝は遠いですが、全国大会出場を目指して精一杯頑張りますので、応援宜しくお願いします!!

リハビリテーション室 米田 健太郎



フットサル部

【メンバー】

医療技術部 リハビリテーション室 16名
看護部 3名
計19名 (男16名 女3名)

【活動報告】

- ・小樽市、札幌市内でのフットサル施設にて活動 (不定期)
- ・札幌市内フットサル施設大会参加 (蹴、イーワンなど)
- ・他院との練習試合

【フットサル部よりひとこと】

初心者、経験者が混ざって楽しく活動しています。月平均3～4回の活動頻度で、練習や試合形式でのゲームなどを行っています。ボールを蹴って楽しく、時には真面目に運動できると思います。部員は随意時募集していますので、興味のある方はぜひ連絡をください。

リハビリテーション室 阿部健太郎



写真部

【メンバー】

6名（看護部1名、地域医療支援課2名、リハビリテーション科1名、臨床検査課1名、薬剤部1名）

【活動概要】

各病棟廊下の写真展示、潮まつりや忘年会などの病院行事撮影、季節毎の屋外写真撮影会、写真コンテストへの参加など。

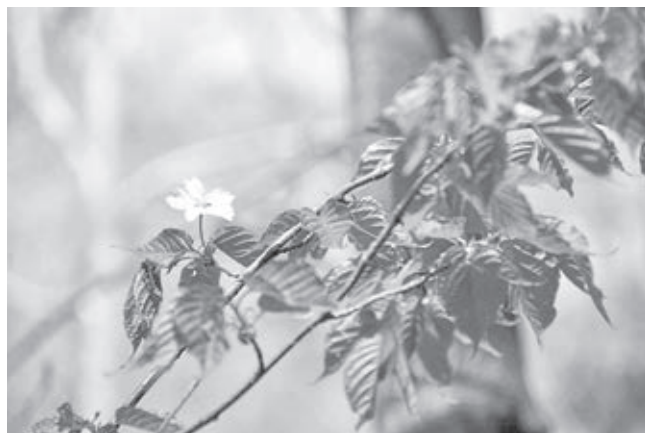
【活動報告】

- ・写真撮影
病院行事の撮影（小樽潮まつり、済生会健康フェスタ、忘年会、なでしこキッズ雪明りなど）
屋外写真撮影会
- ・コンテスト応募
道写協小樽支部コンテスト 特選
小樽市写真展（市展）入選
北海道写真展（道展）入選
シノテストフォトコンテスト 入選

【ひとこと】

今後も患者さんやご家族のみなさんが作品を見て四季を感じられるような院内写真掲示をしていきたいと考えています。

看護部 田中 聖美



院内保育所「なでしこキッズクラブ」

職員の福利厚生の一環とし、子育て支援の充実を図っています。内装並びに備品等も子どもたちの安全面を配慮した施設になっています。一時保育も柔軟に対応でき、安心して働きやすい環境づくりに努めています。

所長 和田 卓郎 (病院長)
スタッフ 8名

【運営の概要】

設置年月日 昭和48年12月1日
保育所面積 222.64㎡
定員 40名
保育対象年齢 0歳～小学校就学前

子供たちと楽しく

保育士 富田 恭子

夏祭り、動物園遠足、クリスマス発表会など、保護者、関係者の方々にご協力をいただき楽しく終えることができました。ハロウィンは、乳児が多く残念ながら病棟に伺うことができませんでしたが、保育所内で楽しむことができました。

今年もなでしこキッズクラブは元気な声であふれ、一年無事過ごすことができました。ありがとうございました。これからも元気いっぱい声を響かせます。

【年間行事実績】

4月		10月	ハロウィン
5月	子どもの日おたのしみ会	11月	
6月	親子遠足	12月	クリスマス発表会
7月		1月	お正月
8月	夏まつり	2月	豆まき、雪まつり見学
9月	動物園遠足 運動会	3月	ひなまつり お別れ・進級おめでとう会

※毎月 お誕生会、避難訓練、身体測定を実施

【今後の目標】

保育目標「いっぱい遊んですくすく育て～心もからだもたくましく育ちあう子ども」を心がけ、子どもたちが怪我なく元気に笑顔で過ごせるように心がけていきます。



私たち親子と保育所

医療クラーク課 佐々木美里

私には来春小学校入学を迎える息子と3歳の娘がいます。保育所を利用し始めたのは息子が11ヶ月の時でした。前の職場は妊娠を機に退職した為、約1年ぶりの仕事復帰で初めての育児・家事・仕事の両立に必死な毎日を過ごし、気づけば5年程お世話になっています。正直、当院で働きたいと思ったきっかけは、市の保育園は保育料が高く、また、希望の保育園はいっぱいでなかなか預けられなかった為、職場に託児所があること。日曜祝日が休みで家族の時間を持つこと。そんな私の条件に合っていたからというものでした。実際に、利用し始めると保育所での様子を細かく書いてくださったノートの他に、毎日どんなことをして過ごしたか丁寧に教えてくださったり、先生としてだけでなく先輩お母さんとして育児のアドバイスを頂いたり、親子共々居心地のいい雰囲気につい長居してし

まうことも度々ありました。今ではなでしこキッズクラブで本当によかったと先生方にもとても感謝しており、そういった環境に子供達を預けられる安心感から仕事にもやりがいを感じ、日々頑張っています。これからもたくさんお世話になることと思います。どうぞよろしくお願い致します。



お出かけ

子どもの成長

リハビリテーション室 川尻 唯

7月末、娘が1歳を迎えてから仕事復帰をしました。最初の1か月は、朝、保育所に近付くだけで泣いていた娘ですが、今では毎日行くのが楽しみな様子で、私を置いて走って行ってしまいます。最近をよくお喋りをするようになり、「今日は何があったの?」と聞くと「先生と、外、行った」「○○ちゃん、泣いてたの」等と教えてくれます。もちろん合っていないことも多々ありますが、夜寝る前にするこのやり取りに毎日癒されており、明日への活力となっています。

仕事をしているとどうしても子どもと関わる時間が減ってしまい、きちんと子育て出来ているか悩み、不安になることもありましたが、さすが、いつの間にか出来ることが増えていたり、先生方から今日あった出来事を聞いたりすると、娘も日々成長しているんだと嬉しい気持ちになり、加えて、私1人が背負い込む必要はないんだと安心することが出来ました。

仕事に家事、育児と毎日慌ただしく過ぎていきますが、理解ある職場、安心して預けられる保育所があるということは非常に有り難いことだと思います。このような環境に感謝しながら毎日頑張りたいです。



初めての海

売店・食堂

●ヤマザキYショップ

病院棟 1階

営業時間

月～金：8：00～19：00

土日祝：8：00～15：00

食料品、日用雑貨、医療用品、その他季節限定商品など幅広く品揃えております。患者様や職員からの要望で惣菜やサラダなど商品をリニューアルしました。また、カウンターにはヤマザキショップならではの大きなシュークリームやエクレア、豆大福など甘味物もいっぱい。患者様のお土産にもいかがですか。



●職員食堂

管理棟2階

営業時間 月～金曜日 11：00～14：00

全42席

日替わりランチから麺類、カレーなど各種取り揃えております。季節イベント時には、ひな祭りメニューやクリスマスメニュー、バイキングなどのスペシャルランチ企画も盛りだくさんです。

あとがき

医療技術の高度化の進展と並行して、医療現場では様々な専門職が連携し、患者中心の医療を提供する「チーム医療」が主流になっています。この「チーム医療」の推進については、厚生労働省が2009年8月に「チーム医療の推進に関する検討会」（座長：永井良三・東京大学大学院医学研究科教授）を発足し、医療現場や患者さんのニーズに合ったチーム医療のあり方などについて検討が行われた以降、教育機関や関係団体による研究や人材養成が活発化し、多くの病院で実践されてきました。

近年では、質が高く、安心と安全な医療を求める患者・家族の声が高まる一方で、医療現場の業務の増大により医療現場は疲弊する傾向にあり、業務の効率化や業務の負担軽減も期待できる「チーム医療」は、我が国の医療の在り方を変え得るキーワードとして注目を集めています。

当院でも、地域のニーズと自院の役割を明確にしながら「チーム医療」を推進してきました。医療安全や感染対策、褥瘡対策のほか、緩和、NST、糖尿病、認知症などのチームが活動していますが、これら活動を推進していく中で、医療の質の向上は勿論のこと、人材の成長、さらには組織文化の向上も実感することができるようになりました。「チーム医療」から生まれる使命感や得られるコミュニケーションスキルは、医療の質や安全性の向上といった枠にとどまらず、職員の意識・行動 組織全体に好影響を与えているようです。

今後は、当院活動が地域の課題となっている包括ケアシステムの構築にも貢献し、「チーム医療」から「地域ケア」活動の核として発展していくことを期待しています。

平成29年度を総括するにあたり、皆様から頂きました多大なるご支援とご協力に、厚く御礼申し上げます。

院長補佐兼事務部長 櫛引 久丸

済生会小樽病院年報
2017年度(平成29年度)

発行者 社会福祉法人^{医療}済生会支部北海道済生会小樽病院
病院長 和田 卓郎
〒047-0008 北海道小樽市築港10-1
TEL (0134)25-4321 FAX (0134)25-2888
ホームページ <http://www.saiseikai-otaru.jp/>

年報作成委員会

責任者 五十嵐浩司

委員長 蝦名 哲行

副委員長 松尾 覚志

委員 本間美穂子、中山 祐子、平塚 渉、金田智香子
焼田久美子、世戸 収子、清水 雅成

印刷所 株式会社 北診印刷

TEL (011)818-7770